

建築と社会

Architecture and Society

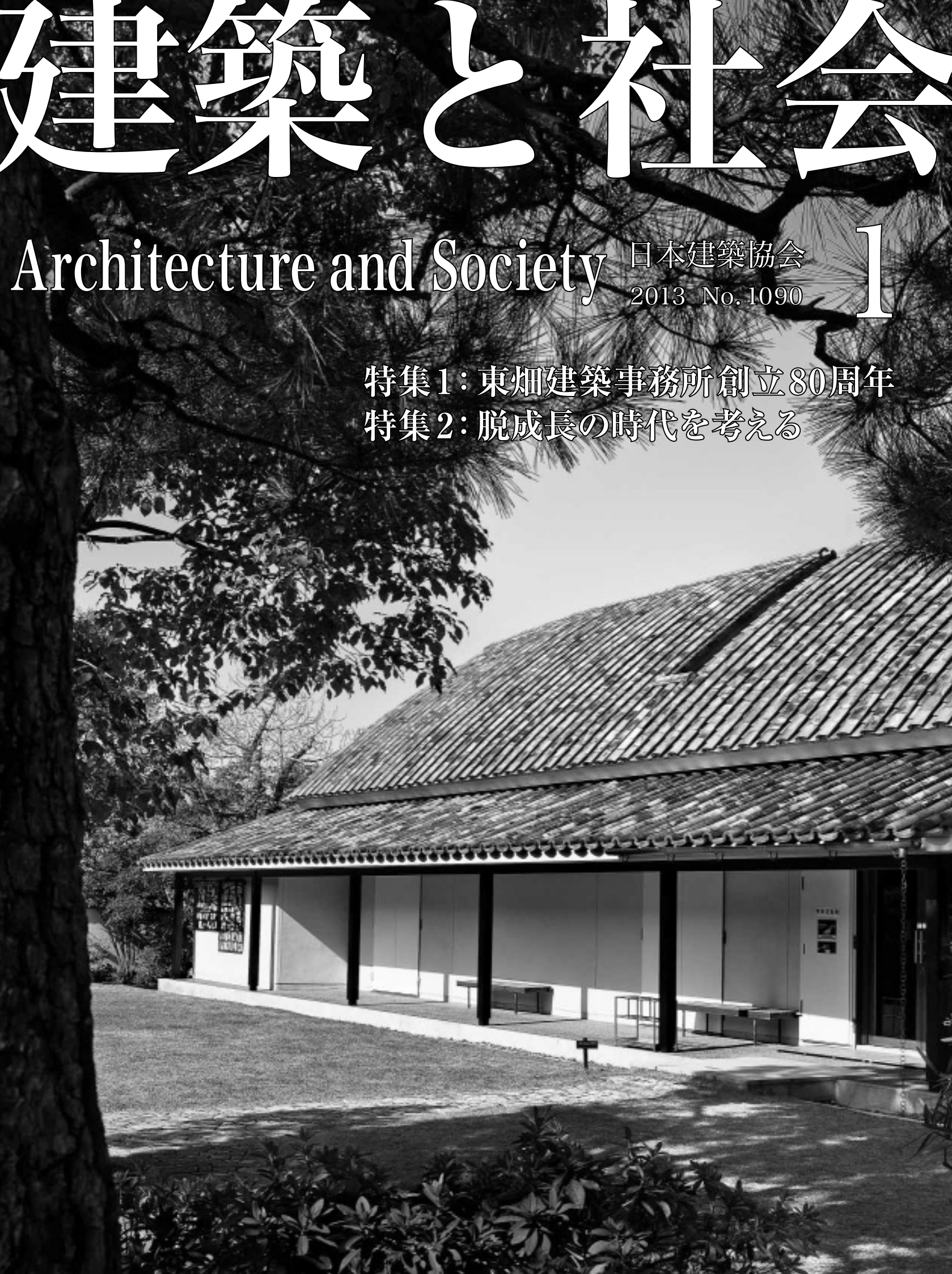
日本建築協会

2013 No.1090

1

特集1：東畑建築事務所創立80周年

特集2：脱成長の時代を考える





子どもたちに誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していたあの頃から、私たちのものづくりへの気持ちは変わりません。

ずっと思い描いてきた夢や情熱を、建造物に込めて未来へ伝えていきます。

SHIMIZU CORPORATION 
清水建設

2013年を迎えて

“建築と社会をつなぐコミュニティを目指して”

社団法人 日本建築協会 会長 香西喜八郎

新年あけましておめでとうございます。
不透明な未来にも新しい光がさし始めています。

日本建築協会は片岡安等が中心となり1917（大正6）年、興隆期の大阪に設立されました。今年は創立96年に入ります。会員相互の研鑽のみならず、建築を通じて社会の発展と福祉の向上を目指して、来る2017（平成29）年の100周年へ向けて精力的に活動しています。

今日の長期的な景気の低迷、地球温暖化の危機、大規模な自然災害からの復興と発生の恐れ、少子高齢化による社会問題などにより、健康で文化的な安全安心の暮らしとまちづくりが大変困難な時代にあります。このような流動的な変革期に、建築に関わる者が復興や改革に果たす役割は大変重大です。

日本建築協会は行政、教育、研究、建設、設計、建材などに関わる多様なジャンルの個人や団体が、コミュニケーションを通じて社会貢献を行う場です。また、市民参加を触発してまちづくりの意識を高める場でもあります。多彩なメンバーが、地域の発展の指針となる大変有意義な活動を行っています。

昨年は「大阪ええとこ創生プロジェクト」の一環として提案コンペを行い、多数の有益なアイデアを得ることができました。今年も見学会、講習会、出版企画など昨年の数々の活動を引き継ぎます。また、多様な特集記事や「関西の建築界／群像」、「再読関西近代建築」など、会員と社会を繋ぐ協会誌「建築と社会」の発行を通じて、地域に密着した情報発信活動を行います。未来を担う若い優秀な技術者を発掘する青年技術者顕彰は第60回を、工高生デザインコンクールは第59回を迎えます。持続可能な社会をつくるのは「人」です。人材の育成は大変意義のある役目と考えています。

今日、建築関係の団体は会員減少に悩んでいます。ネットで世界に繋がっているのに、手づくりのコミュニケーションには価値を置かないのでしょうか。政治経済の変動期にあり、大震災後の閉塞感が漂う自己責任の社会が参加を阻んでいるのかもしれませんが。このような時代であるからこそ、主としてハードな社会基盤の形成を担うわれわれの役割をアピールしなければなりません。市民に魅力あるプログラムを提供し、会員の増強を図りたいと考えています。

建築関係をはじめとする各団体との交流・連携も強化していきます。特に、平成21年度から連携を強めてきた関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）とは会長、支部長懇談会などを通じて、連携活動を引き続き推進してまいります。

また、本年4月には協会は一般社団法人へ移行すべく、粛々と準備を進めています。蛇は脱皮して成長します。これを機会に建築に関わる個人や団体の皆様に新しく参加していただいて、建築を通じ社会の発展と文化の向上に貢献する役割を持続したいと考えています。

本年も何とぞご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

編集委員会

建築と通じて社会に貢献する

編集委員長

米井 寛

会誌「建築と社会」は、建築協会と会員各位とをつなぐ媒体であるとともに、社会における建築の役割を考える媒体でもあります。昨年は、東日本大震災から1年を機に2度にわたって防災に関する特集を企画しましたが、これは、安全・安心な環境づくりを望む社会への我々からの提言でした。今年も、社会の動きを先取りするようなテーマをとりあげ、閉塞感にとらわれやすい建築界に少しでもこれからの方向を指し示すことができればと思います。

編集委員会は、2つの顕彰事業を担当していま

す。ひとつは「青年技術者表彰」で、35歳未満の優秀な技術者を表彰するものです。もうひとつの「建築と社会賞」は、「建築と社会」に掲載された作品や論考のなかから優れたものを顕彰します。いずれも本会ならではのユニークな顕彰制度であり、会員各位の積極的な応募をお待ちします。

「建築を通じて社会に貢献する」という本会設立以来の役割を果たすべく、会員に開かれた取り組みをしていく所存ですので、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

事業委員会

大阪市北区中之島の都市再開発に思う

事業委員長

瀬戸川 葆

昨年の12月に「中之島フェスティバルタワー（東地区）」の見学会をしました。勤務先が中之島にあったものですから、中之島の過去40年間の建て替えやリニューアルの工事を遊歩道を歩きながら眺め、その消長の変貌振りを見てきました。大阪の底力を感じてきました。感慨無量であります。中之島には江戸時代の蔵屋敷が41藩ありましたが、明治から大正の第一期の建て

替え、戦後の高度成長期を含む昭和の第二期の建て替えを経て、現在の平成の第三期建て替えがあり、また建て替えが進行中であります。大阪の中之島はビジネスの中心として発展してきました。学生時代から旧フェスティバルホールに何度も足を運んだのも思い出であります。本年も中之島を含む都市再開発のビル等の見学会をしたいと思います。

出版委員会

時代は変われど、書籍の役目は変わらず

出版委員長

井上まるみ

世の中の変化は時代と共に加速度を増しており、今、電子書籍という時代へとの波が押し寄せようとしており、出版に求められるハードルは一段と高い時代を迎えています。しかし、時代がいかに変化しようが、本として紙に書かれた形あるものの意味は大きくあり、本離れの時代と言われようが、魅力的な本はきっと手にしてもらえるものと確信をしています。本を手にとり取っていただき、その本が仕事に役立つものであるような出版を!!と、出版委員で努力をして

まいりました。委員会員で意味深く、魅力的な出版をめざし、本年度も知恵をしぼり歩いています。そうして、この知恵袋がさらに大きくなればと願うものであり、会員の皆さんには「委員として」あるいは「著者として」あるいは「意見を出していただく方として」の参加を願っています。楽しい出版委員会です。新しい風として、仲間に加わって下さい。

事務局への申し出を期待しています。

教育委員会

ストックを生かして、創造する

教育委員長

山形政昭

大阪では梅田、阿倍野橋などの再開発が姿を現しつつあり、変貌するターミナル景観には日々目を見張ります。また一方で市内においても長屋住宅や近代建築の地道で魅力的な再生など注目作があり、そこにも個性ある創造力を発見することの多い日々です。

さて本委員会では継続事業の「工高生デザインコンクール」そして「建築工事実務講習会」ともに委員諸氏の活動に支えられ、順調に回を重ねておりますが、応募者、受講者数の減少傾向

が懸念されています。一方で夫々の小委員会には新たな委員を迎えて推進体制を整えており、新年度の企画に際しては従来のストックを生かしつつ、新鮮味のある内容といたく鋭意模索しております。加えて本会から「大阪府住まいまちづくり教育支援事業」に委員参加しており、本年は小中学生を対象としたテキスト作りなど取り組まれています。

本年もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

建材委員会

多くの建材を紹介するために、道を探る

建材委員長

松原徹雄

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって良い年でありますことをお祈りいたします。

建材委員会は、毎年、「今年の抱負」で、新建材や部材、新工法などを積極的に紹介していきたいと抱負を述べてきましたが、残念なことに、ここ数年、数件にとどまっています。

紹介記事が有料であることに障害があるのではと、企画のあり方について検討をしましたが、

良い答えは見つかっていません。しかし、商品化された建材等で、その機能の斬新さや多様さ、あるいは施工の容易さ、汎用性、相対的な価格の安さなど、優れた特徴を会員の皆様に紹介するという役割は、現在でも十分あると思っています。この欄を活用していただくためにどうすればよいのか、建材委員会の課題であります。皆様からもご意見をいただければ幸いです。

建築と社会

Architecture and Society

1 | NO.1090 | 2013
日本建築協会

■特集予告

●2月号／“らしくない”空間

●3月号／東海支部特集

今月の表紙

大和屋根をなぞらえながら、モダンである。むくりは表裏の平瓦、水平な軒は丸瓦と使い分け、妻側のフォルムや壁出隅のR処理など、隣家との隙からしか確認できないような部分まで抜かりない。極めつけは息吹をもたらす中央部のスリット。アイアンワークや垂など美術にも精通した氏の感覚に溢れ、理屈を抜きにした直感的な操作のようにも感じる。
(大西広朗)

寧楽美術館

設計：東畑謙三

竣工：1969年

所在地：奈良県奈良市

デザイン：嘉村知紀（東出清彦写真事務所）

表紙のことば：大西広朗

建築写真：東出尚子（東出清彦写真事務所）

2013年 表紙テーマ —「近代建築の力強さ」—

建築写真・デザイン：東出清彦写真事務所

表紙のことば：大西広朗



嘉村 知紀 Tomonori KAMURA

佐賀県生まれ。

2009年福岡大学工学部建築学科卒業。同年東出清彦写真事務所入所。2011年東出氏の世界以降、事務所のメインカメラマンとして活動中。



東出 尚子 Naoko HIGASHIDE

神戸市生まれ。

2011年京都女子大学卒業。大学在学中より父（故 東出清彦）の撮影に同行。卒業後、東出清彦写真事務所に入所。

大西 広朗 Hiroaki ONISHI

兵庫県生まれ。

2003年大阪大学地球総合工学科建築工学科卒業。2003-2004年 L'université Bordeaux III Arts et Société actuelle 研修。2007年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了。同年東畑建築事務所設計部。

J o u r n a l o f t h e A r c h i t e c t u r a l A s s o c i a t i o n o f J a p a n

特集●東畑建築事務所創立80周年 U-35のまなざし

1 東畑建築事務所作品探訪

1. 蘭山龍泉堂、壺中居●岩本晃大 6
2. 吹田市文化会館（メイシアター）●北村 潤・串本佑介 7
3. インテックス大阪●福森 亨・下田康晴・長嶺安佐子 8
4. 洲本市立五色図書館（えるる五色）●高坂宗子・野村祥平・小島茂也 9
5. 鈴鹿市立郡山小学校●瓦田伸幸・藤田秀昭・鈴木佳子・鵜飼浩平 10
6. 土岐市立泉小学校●高木耕一・加藤紀久朗・杉浦正佳・松下拓真 11

2 あしたへの種

1. 協働による施設づくり●柱健太郎 12
2. 建物を活用した環境教育●久保久志 13
3. 環境station●横川彩香 14
4. 議論を深める場づくり●広瀬和也 15

3 U-35による座談会

U-35建築奮闘記

1. かえで保育園●串本佑介・工藤征志・山本 敦・大西広朗 16
2. コープアイメゾン柏原●大西広朗・工藤征志・寺島雄一郎・山本 敦 18

U-35のチャレンジ 19

U-35の視点—建築・場所・まちについて考える—

- 高橋 彰・豊田哲平・橋本祐典・樋野都子・野村祥平・横川彩香・不動剛志 20

U-35の声 23

制作を終えて 24

特集●脱成長の時代を考える

【総論】

人口減少、高齢化時代の集約型都市圏構造

～京都府丹後地域を事例に～●矢作 弘 26

【各論】

- 1 人口減少社会の到来に備えて～大阪府人口減少社会白書から～
●大阪府政策企画部企画室計画グループ 30
- 2 スtock活用型の団地再生—観月橋団地再生計画—●星田逸郎 32
- 3 脱成長時代における「減築」という選択●鈴木克彦 34
- 4 京町家の利活用●西村孝平 36
- 5 まちの魅力と活力を引き出す「まちなかバル」～日本版「メインストリートプログラム」をめざして～●中塚 一 38
- 6 「自ずと成らしめるまちづくり」の意義と手法●久 隆浩 40
- 7 コミュニティデザインという手法●山崎 亮 42

【編集後記】

年頭のことば 2013年を迎えて●香西喜八郎 1

本年の抱負 常設委員会●米井寛・瀬戸川藤・井上まるみ・山形政昭・松原徹雄 2

gallery 脇役●進藤 孝 4

法令コーナー 建物物の耐震化等に助成●宮下 誠 45

構造の頁 計測地震防災のすすめ●草野直幹 46

再読 日本生命保険相互会社本店本館●安達英俊 47

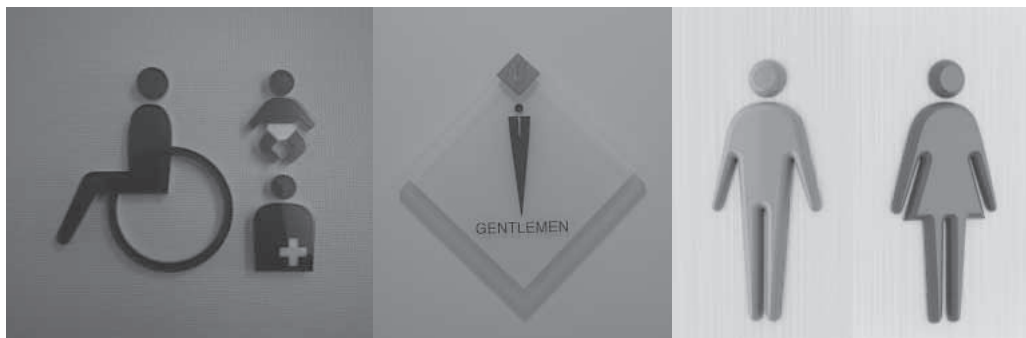
関西近代建築 小笠原絵里●藤原芳寿 51

デザイン コンクール 第58回工高生デザインコンクール 52

会告 学生のための見学会～ショールーム巡り～「(株)ユニオン」と「(株)ダイナワン」若き創造者たちへ「第60回青年技術者顕彰」へのおさそい 59 60

information 開館40周年記念 日本画 その妙なる世界、フィンランドの暮らしとデザイン—ムーミンが住む森の生活、コレクション名品選「こんな人がいた！兵庫美術家列伝」、新春特別展 生誕130年 魯山人の宇宙、特別展 没後10周年 田中一光デザインの世界～創意の軌跡、第42回 日本産業技術大賞募集 61

月間の動き 平成24年11月 93



脇役

グラフィックデザイナー

進藤 孝

サインが担う役割は、情報を的確に伝えるとともに、利用者とその環境を結び、紡ぐことだと思っています。

施設環境を1つのドラマとすると、サインは脇役であり、与えられたドラマの中で、いつまでも名脇役でありたいと思っています。

進藤 孝（しんどう たかし）

1980年 武蔵野美術大学

造形学部建築学科

1980年 宮本建築設計事務所

1982年 株式会社びこう社

1988年 UG 設立



U-35 の まなざし

東畑建築事務所 創立80周年特集

東畑建築事務所はこのほど創立80周年を迎えました。

この間、国内外に8000件以上の建築を送り出し、人々や社会と様々に関わってきました。

この特集は、35歳以下の所員（U-35）が、

自ら企画し、取材し、語り合い、編集したものです。

事務所の先達から建築への志を学び、クライアントやユーザーから建築と社会との関わり方を教わり、

社外の同世代の人たちとの対話から、建築やまちをみる新たな視点を発見しました。

さらにU-35自身の取り組みや挑戦をとりまとめ、

東畑建築事務所のこれまでとこれからをU-35の視点で構成しています。

不確実さが募る時代にあっては、伝統や経験の厚みに裏付けられた信頼と、

果敢に未来を切り開く創意とが求められます。

U-35のまなざしは、創意のベクトルを信頼へと昇華させる重要な地点にあり続けるでしょう。



1. 繭山龍泉堂、壺中居

繭山龍泉堂（まゆやまりゅうせんだう）と壺中居（こちゅうきょ）は、東畑謙三を知ることができる建物である。

私たちは東畑建築事務所の原点を巡った。

繭山龍泉堂

皇居にも使われている由良石の門型フレーム、規則的に並んだ上げ下げ窓とシンプルなエレベーションに美しいアイアンワークの門扉が印象的な建物。屋号は創業者・繭山松太郎氏がこだわって取り扱った中国の「龍泉窯青磁」にちなんでいるそうだ。建物の多くが竣工当時のまもなく現役で活躍しており、まさに建築博物館である。通用口にある鉄琴式ドアチャイム（右上写真）は今ではなかなか見ることができない代物だ。繭山龍泉堂の社員であった北山喜立氏が起工式から竣工までを記録した8mmフィルムも残されており、当時の工事の様子がよく分かる大変貴重な資料である。工事請負契約書も大切に保管され、改修の際には当時の内訳書や契約図面が重宝されたそうだ。他にも、各所を案内していただいた折々で、「改修の際はオリジナルの意匠を損なわない様に天井目地の色まで気を使いました。」「建物コーナー部にあった看板照明が壊れてしまい残念でした。」といった竣工後のお話も伺うと、建物が本当に大切にされていることがよく分かる。



繭山龍泉堂

所在地	東京都中央区
用途	古美術店／住宅
規模	地下1階・地上4階
延床面積	749.0㎡
竣工	1960年

建築家ではなく建築技師。建築技師とはコンダクターである。

東畑 謙三

壺中居

都会の喧噪を忘れ、静かにゆっくり古美術と対話する別天地・壺中居。屋号は、中国故事「壺中の天」に由来するそうだ。日本橋 中央通りから路地に入ると、石張りの壁と特徴的なマンサード屋根が目に入る。各階違う形状の窓、コーナーに設けられたバルコニー、1階のセットバックが不思議な魅力をかもし出す。中に入ると、地下1階から3階までを結ぶ螺旋階段を中心に、各階展示室や応接室が配され、まさに「壺中の天」を体験しているようだ。階段は、機能美に徹した手摺と螺旋の絶妙な曲線美が素晴らしい。別天地へと誘うにふさわしい空間とは何かをとことん追求した結果なのだろう。

創始者・東畑謙三を感じる

（東京事務所 / 設計部・4年目 岩本 晃大）

今回訪れた2つの建物は、クライアントに今も愛され、大切にされている。なぜ、今も愛され続けるのか。設計当時のエピソードを伺うと同じ話題になった。繭山龍泉堂も壺中居も、たくさんの想いが詰まったクライアント直筆のスケッチに基づいて設計が進められたそうだ。クライアントの想いをくみ上げ、デザインし、形にする。コンダクターとしての東畑謙三がそこにいた。コンダクターと聞くと、一步引いた位置で指揮を振るうイメージが浮かぶ。しかし、指揮を振るうにも熱意がなければ良いものは出来ない。客観的な判断をする冷静さとデザインへの飽くなき情熱がこの言葉に込められていると思う。設計者としての姿勢、80年という歴史の原点をこれからも大切にしていきたい。



壺中居

所在地	東京都中央区
用途	古美術店／住宅
規模	地下1階・地上5階
建築面積	158.0㎡
延床面積	810.2㎡
竣工	1973年

東畑建築事務所八十年の歴史の中で世に送り出してきた作品を、U-35で訪問・取材した。利用者・クライアント・設計者との対話を積極的に行うことで、これからの建築・設計者としてのあり方について、U-35の目から考えていく。

私たちは好きなようにものをつくってはならない。

私たちは好きなようにものをつくってはならない。

好き嫌いで物事を決めることができるのは天才だけで、私たちは「論理」によってつくらなければならない。

そのことが、つくられるものにある種の普遍性をもたらすであろうし、設計する私たち以外に、それがただ一人だったとしても共感を生み出すのではないのでしょうか。たとえ格好悪い結果をもたらすものであっても、ただひたすら「論理」に従ってつくられることが、今までにならぬ建築を見ることがあるのだと思います。何が美しいかは誰にも分からないのですから。

北村 潤



11月某日、大阪府吹田市にあるメイシアターを訪れた。メイシアターには、大ホール・中ホール・小ホールと3つのホールがあり、大ホールは音楽、中ホールは演劇、小ホールは人形劇を主体に計画され、それぞれ役割を担っている。訪問した際には、「吹田市民文化祭」というイベントが開かれ、大ホールは市民音楽祭、中ホールはマジックショー、小ホールは講演会が開催され、開館27年経った今でも使われ方は変わっていない。おじいちゃん、おばあちゃんがたくさん集まっている。ホールであるはずなのに、ガヤガヤしている。新聞紙をごさ代わりにして座り、開場を待ちわびている。多目的ホールは無目的のホールだといわれることがあるが、メイシアターはその言葉をまるっきり払拭しているようである。探訪後、当時コンペから設計・監理まで担当したシニアアーキテクト・北村潤に話を聞いた。

文化施設とはなにか

(設計者 本社 / シニアアーキテクト・北村 潤)

文化施設の設計において大切なことは、その建物が広域的にまちにとってどうあるべきか、いかにまちをよくしていけるかを考えることだと思う。その中で、一番大事な空間はパブリックスペースである。通常ホールに入場するには入場料が必要となるが、ここでいうパブリックスペースとはお金の要らない、フリープライススペースのこと。ここをどのようにつくるかによって、文化施設のあり方が大きく変わる。メイシアターでは、3つのホールとホワイエ空間以外は「みち」空間と捉え、この「みち」を人や空気や空間が流れていくように構成した。「みち」

と捉えているため、その空間は囲われておらず、エッジ(輪郭)がない。エッジがないため、イメージが喚起されにくい。それでも、印象深い空間を作るのではなく、この場所には「みち」がふさわしいと考えた。「みち」であれば、下駄履きでいってもおかしくはない。全体をワンルームと捉え、微妙なステップによってさまざまな場所性を生み出している。そのことが、空間を遊ぶきっかけになればよいと思う。

われわれ設計者の心得

(大阪事務所 / 設計部・5年目 串本 佑介)

建築のつくり方はいくらでもある。しかし建築を使うのはユーザーであり、運営するのもユーザーである。メイシアターは、吹田市文化振興事業団によって運営されており、年間80%以上の利用率で活用されているのは努力の賜物である。演劇や映画上映など自主事業も多く行っている。ここに、ホールの性格が生まれ、ガヤガヤした市民のホールが完成する。

われわれ設計者としてできることは、ユーザーの思いをどこまで引き出すことができるか、そして、その思いをさらに発展させることができるか、これに尽きると思う。その思いを形にすることが建築をする行為なのだと思う。北村の言う「わたしたちは好きなようにものをつくってはならない」という言葉、まさしくその通りだろう。ユーザーの思いを引き出すためには、ユーザーとの人と人のコミュニケーションが必要不可欠である。よい建築とは、人が生き生きしている建築である。そのような建築をこれからも世に送り出していきたい。



吹田市文化会館(メイシアター)	
所在地	大阪府吹田市
用途	ホール
規模	地下1階・地上4階
建築面積	6,765.8㎡
延床面積	15,698.8㎡
竣工	1984年

3. インテックス大阪

インテックス大阪は、大阪南港に計画された当時国内最大級の大規模展示場である。周辺地区を含めた一大コンベンションコンプレックスを形成する、まちづくりの拠点施設として計画された。最近では金融業界最大規模の国際会議「サイボス 2012」、大阪マラソン、コンサートなど、多岐にわたるイベントの会場としても利用されている。

6つの展示館群と管理棟、それらをつなぐ中央広場（インテックスプラザ）と回廊により構成されており、中央広場を覆う大屋根は、恒久膜構造の構造認定第1号である。

透光性膜により強調されるスペースフレームと、巨大な展示空間を支えるダイナミックな架構の構造美が印象的なこの建築について、現地を探访すると共に、当時設計から現場までを担当した構造部長・福森享に話を聞いた。



ものをつくっている喜びを感じながら仕事をするべし。こんな贅沢なことはない。

福森 享

軽やかな架構への挑戦

（設計者：大阪事務所 / 構造部長・福森 享）

27～30歳頃にかけて設計・現場監理を担当した。この現場が自身の構造設計者としての転機ともいえる。

埋立地であり、杭基礎となることから建物の軽量化が構造的なテーマであった。

展示館の小屋組は、上弦に対して下弦を45°斜交させた重構面グリッドによる立体トラスとすることで軽量化をはかり、それを支持する主架構については、接合部の耐力について実大供試体実験による確認も行った。現場で納まりの検証を粘り強く重ね、でき上がっていく実物を見て、力の流れや構造的な美しさのバランスといった感覚を培うことができたように思う。

構造設計者は人の命を預かっており、地震が起こる度に不安がよぎることもあるが、自分が設計したものが社会に残るという喜びに勝るものはない。現在は技術の進歩により解析ツールも揃い、よりよい設計ができる可能性に溢れている。これからを担う若い世代には、努力を惜まず良い建築をつくる喜びを大切にしてほしい。



技術との向きあい方

（大阪事務所 / 設計部・6年目 下田 康晴 構造部・1年目 長嶺 安佐子）

実際に訪れてみると、展示空間を支える架構と設備のスケール感に圧倒された。また竣工から27年たった今でも当時の膜屋根が使われているという中央広場は、淡い光と軽やかな架構によるシンプルで親しみやすい空間が利用者にも好評だった。

幸せな建築とは出来てからも運営者・利用者に愛され続けることが重要であるが、訪れて感動したり、気持ちよいと思えたりする空間に出会えたとき、その裏側には技術に支えられた構築の意思がある。それが今もこの空間を支えていると思うと非常に感慨深い。

その場所に流れる時間を想い、人を想い、技術と向き合って空間・かたちに翻訳することが設計であると考えている。

意匠も構造も設備もフラットに考えたい。80年の歴史の中で培われた経験知を大切に、組織事務所としての集合知を生かして、みんなで喜びを共有できる建築を目指していきたい。

（下田 康晴）



72mスパンの無柱空間。設計する側になり、「どのように作るか」をより意識して建築を見ると、改めてこの空間の広さに驚かされる。地盤沈下する埋立地という条件下で、求められる空間に対し、最適解を導く。そのために多くの検討を重ねる。これらを成し遂げてきた先輩方の下、より最適な解を求める姿勢をもって構造設計に取り組んでいきたいと思う。

（長嶺 安佐子）

インテックス大阪

所在地	大阪府大阪市住之江区
用途	展示場
規模	地上3階
建築面積	66,909.0㎡
延床面積	74,918.0㎡
竣工	1985年



地域に出かけていく図書館をつくりたい。 高坂 宗子 館長・談

旧五色町は淡路島西岸の中ほどに位置し、瀬戸内に沈む美しい夕日と五色浜で知られる人口1万人余りの町である。

洲本市立五色図書館は、以前より建設が望まれていた町立図書館と、老朽化により建て替えが検討されていた地区公民館との複合施設として計画された。

五色の自然と共生する素材・形を生かして五色らしさを表現すると共に、使いやすくわかりやすい、居心地の良い施設づくりを目指して設計された。

地域に出かけていく図書館へ

(洲本市立五色図書館・高坂 宗子 館長)

読書はもちろんのこと、小学生の送迎の待ち合せや宿題をする場として、色々な使われ方をされています。利用者からは、「建物だけでなく、家具にいたるまで贅沢に木を使った造りで、実に落ち着く。こぢんまりしたスケールも安心感を与える要因となっていると思う」「天井の高いエントランス、外部に開かれた窓廻り、光と木を感じるベンチスペース等の色々な居場所が選べる」「木のアーチが連なる天井から降り注ぐ自然光と、木の質感がもたらす温かみが、ここを訪れる人々に安堵感を与えているようだ」といった声が聞かれ、アットホームな場として認識されているようです。実際に長居する利用者が多いと感じます。一方で、専門書が並んでいて「立ち寄りづらい」といった図書館のイメージや、島の過疎化(高齢化率30.1%)、電子書籍の台頭に伴い、紙離れ・図書館離れが懸念されます。五色図書館では雑誌類を多く揃え、同じ市内にある洲本図書館との相互連携

によるメール便での書籍の貸出等の取り組みを行っています。が、従来のイメージはまだ払拭できていません。地域に出かけていくこと、つまり、来館者を待つだけでなく地域の課題やニーズに対して広く応えていくことで、図書館をより身近に感じてほしいと思います。

長く愛される施設づくり

(大阪事務所 / 設計部・4年目 野村 祥平・小島 茂也)

築10年を経過した現在においても市民に親しまれている印象を持った一方で、イベント時以外は人が集まりづらい状況がまだあるようだ。先輩所員たちが設計した建築の図面を見ることに留まらず、現場の「今」から学び、「これから」の設計に活かしてゆく。このサイクルを絶えず意識し、繰り返すことが、長く愛される建築を創り出す第一歩となると再確認した。

(野村 祥平)

五色図書館の愛称「えるる五色」の由来である「Long Love Library(長く愛される図書館)」のような施設とは、地域に馴染み・人々に愛される施設ではないか。設計を行う上で、フィールドワークを通じて地域の情報を認識しておく。その上で、地域の自然素材の選定や周辺の敷地条件も加味しながら、今後起こりうる状況や地域における建築のあり方について、ワークショップなどを通じ、地域の人々とのコミュニケーションをしっかりとることが重要だろう。そのようにして建物をつくりあげていくことで、地域と人々が身近に感じられる長く愛される施設となるのではないかと。(小島 茂也)



洲本市立五色図書館(えるる五色)	
所在地	兵庫県洲本市五色町
用途	図書館・公民館
規模	地上1階
建築面積	1,723.7㎡
延床面積	1,750.5㎡
竣工	2002年

「開かれた学校」は地域の絆につながっていると感じます

鈴木 佳子 教頭・談



多様な学習空間を持つ、地域に「開かれた学校」

（設計者 名古屋事務所 / 設計部長 瓦田 伸幸）

鈴鹿市立郡山小学校は、約20年前に鈴鹿市のニュータウンがつくられたことを機に新設された小学校である。新しい街と古い集落の中心に位置し、それらを緩やかな曲線で構成されたコロネードでつなぐ「開かれた学校」として計画された。

鈴鹿市では初めてのワークスペースをもった教室であり、これらの普通教室群を明るい自然光が注ぐ中庭に面して配置し、多目的ホールや図書館などを取り込んだ回遊性のある学校を目指した。

学校には、街のいたるところから見るができるカリヨンの搭がある。子ども達や地域の方々の故郷の風景として、絆の象徴になってほしいという願いが込められている。

生活の中で変わるもの、変わらないもの

（鈴鹿市立郡山小学校・藤田 秀昭 校長 鈴木 佳子 教頭）

教室の前に設けられたワークスペースは学年集会や集まって作業する際に、とても有効に活用できる場所です。

中庭を中心にテラスがあり、授業中にはそこを移動することができるため、ワークスペースで授業をしても妨げになることはありません。ワークスペースの他にも、多目的ホールはイベント時には地域のイベントなどを行う場所としても活用しています。

また数年前に、郡山小学校の卒業生が10年前に埋めたタイムカプセルのお披露目をする会がありました。その時には多くの

卒業生が集まり、本当に嬉しく思いました。最近では、地域の人と子ども達と一緒にプールの壁画をつくり、地域の絆を感じる事ができました。

（鈴木教頭・談）

屋外ステージがいたんできたのですが、予算がついて修繕をすることができたら、地域の方とジャズコンサートを行いたいと思っています。今から楽しみです。今後も「開かれた学校」として、学校の先生が地域といかに連携できるかこれからも積極的に考えていきたいです。

（藤田校長・談）

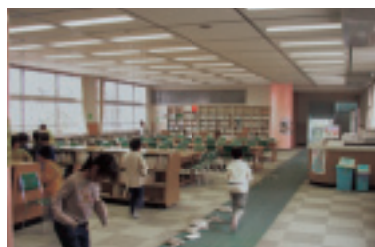
今、地域に「開かれた学校」ということ

（名古屋事務所 / 設計部・6年目 鶴飼 浩平）

2001年、池田市で起こった小学校無差別殺傷事件は地域の拠点としての「開かれた学校」の考え方に大きな影響を与えた。事件を機に、郡山小学校も竣工時にはなかった門扉を取り付け、学校を「閉じた」。しかし、学校の先生方、地域の方々の取り組みによって、学校は今も地域に「開いている」。子ども達と地域の方々が一緒につくったプールの壁画がまちの絆を物語っていた。社会の変化に応じてハードとしての建築は変われど、先生方や地域の方々の「開かれた学校」への思いは変わらない。今後、私たち設計者は、建築設計という枠を超え、学校の運営や地域の絆づくりなど、ソフト面での「設計」に取り組むことが求められている。これからも郡山小学校のように、地域との絆が生まれるような学校をつくっていききたい。



鈴鹿市立郡山小学校
所在地 三重県鈴鹿市
用途 小学校
規模 地上3階
建築面積 4,010.2㎡
延床面積 6,477.6㎡
竣工 1991年



子ども達の「豊かな心」を育てていると感じます

杉浦正佳
教頭・談



光・風・緑を感じる「心地よい居場所」の学校

(設計者 名古屋事務所 / 設計部・主管 高木 耕一)

土岐市立泉小学校は岐阜県南東部に位置し、穏やかな丘陵地に建てられた小学校である。

校線に沿った雛壇状の配置計画により緑豊かな屋外デッキを設け、また緑と光が溢れる中庭を設けることで、人が自然と関わりあう大切さを共感でき「心地よい居場所」となる学校を目指した。小学校は多様化する学習環境と一人ひとりの子どもの個性や能力に合った教育の展開が求められる。フレキシビリティのある学校づくりを目指し、2mグリッドの移動間仕切によって可変性のある学習空間を整備した。また、一日の大半を過ごす学校が「心地よい居場所」になるよう、緑と光があふれる開放的な空間を目指すと共に、校舎内の自然換気を促す風の塔や雨水利用など、環境に配慮した「エコスクール」として整備した学校である。



子ども達の「豊かな心」を育む学校

(土岐市立泉小学校・加藤 紀久朗 校長 杉浦 正佳 教頭)

教室は学年クラスターでワークスペースをもった教室であり、学習時のグループワークや学年集会、クラス合同での音楽授業などにも利用しています。ワークスペースにより学年の絆が深まっていますし、学年職員が一丸となって子ども達の指導にあたることに繋がっています。職員もワークスペースを使って工夫した楽しい授業を行っています。(加藤校長・談)



明るく開放的で緑が溢れ、子ども達は創意工夫して遊びまわり毎日が楽しいのでしょう。中庭では子ども達が図書館の本を持って来て読書をしたり、屋外デッキでは生活科の植物栽培などを行っています。明るい空間が広がっていて子ども達の「豊かな心」を育てていると感じます。(杉浦教頭・談)

これからの小学校

(名古屋事務所 / 設計部・5年目 松下 拓真)

土岐市立泉小学校は、東畑で初めて「エコスクール」として計画された学校である。その後、「エコスクール」への取り組みは、大口町立大口南小学校などをはじめ、神戸市立多聞東中学校などのエコ改修へと展開されている。

泉小学校の杉浦教頭は、学校の特徴として子ども達が「豊かな心」を持っており、それは学校施設が居心地よく楽しい場所であるからとお話下さった。

当然、先生方の教育に携るところが大きいですが、7年経った今も、子ども達の「豊かな心」をつくる一助を担えていることは、設計に携わる者として非常に感慨深い。「エコスクール」は環境に配慮した仕組みがあることだけでなく、子ども達により良い生活環境を提供し、「豊かな心」を培う場になると感じた。



土岐市立泉小学校
所在地 岐阜県土岐市
用途 小学校
規模 地上3階
建築面積 6,851.3㎡
延床面積 8,859.1㎡
竣工 2006年

社会における建築の在り方や意義が変わりつつある中、建築に関わる者の一人として私たちU-35には何ができるだろうか。ここでは、様々な模索の中で種をまき、少しずつ芽を出してきた、東畑の社会へ対する取り組み・社内における取り組みを紹介する。



社会への種まき

協働による施設づくり

ワークショップ等を重ねながら、竣工後の施設の有効活用や維持管理のためのしくみづくり・気持ちづくりを設計者と利用者が一緒に行っていく。

case1_小さな手と一緒につくる

①@豊田市立土橋小学校エコ改修（愛知県）2012.03 竣工

トイレ改修の設計や施工への児童参画を通じて、建物への愛着を育む。

環境配慮について学習

「節水・節電」と「快適さ」の両立を学ぶトイレカードゲーム（写真1）を用いて、トイレをきっかけとした環境教育を実施。

設計ワークショップ

トイレの色彩デザインや、器具レイアウト、新しいトイレに必要な物、不要な物を模型や図面等を使って班ごとに検討（写真2）。

施工ワークショップ

児童が考案した原画を基に、トイレの壁を彩る100枚のモザイクタイル画を制作（写真3）。現場での貼り付け作業も体験。

学習に資する校舎設計

竣工後も校舎の環境配慮技術（児童が関わった節水・節電型トイレの他、自然通風を促す風の塔等）を環境教育に使えるよう、教職員と設計者が一緒になって、授業での具体的な活用を検討しながら設計を進めた。



（写真1）トイレカードゲーム



（写真2）設計ワークショップ



（写真3）モザイクタイル画制作



（写真4）大切に扱う気持ちが育つ

case2_まちを盛り上げる

①@立山町元気交流ステーション（富山県）（愛称：みらいぶ）2012.05 竣工

地域住民と共に設計・施工ワークショップを行い、新施設と利用者の関係を深める。

まちなか再生部会「みらい部」結成

ワークショップの参加者を中心に、交流ステーション（みらいぶ）を拠点とした魅力あるまちづくりの企画・検討・実施を行っていくコアグループ「みらい部」を設計段階で結成し、活動をスタート。

煉瓦づくりワークショップ

床に敷き並べる煉瓦に想いを刻む。立山町民だけでなく、姉妹都市である犬山市民も参加し、他地域とのつながりも深めた（写真5）。

建物完成までのカウントダウン

工事現場の進捗写真を「みらいぶろぐ（立山町のサイト）」で公開したり、建物完成までの日数と一緒に町民の笑顔をホームページで更新し、地域住民の建物へ対する期待感を盛り上げていく。



（写真5）煉瓦づくりワークショップ。姉妹都市の犬山市民も参加。

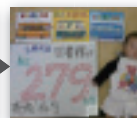
完成までの
カウントダウン



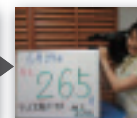
町長からスタート



まちの散髪屋さん



赤ちゃんも参加♪



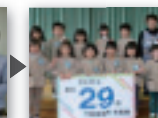
地元局のカメラマン



東畑設計監理メンバー



みらい部



保育園の皆さん

case3_森とつながる 森が繋げる

①@（仮称）豊田市立第2浄水小学校（愛知県）2014年春竣工予定
地域住民を対象に設計ワークショップを開催すると共に、学校敷地内の里山での活動「じょうすいのもり隊」を実践。

じょうすいのもり隊

敷地内にある荒れた里山を、自然と触れ合える学習フィールドとするため、地域の力で整備していくことを設計ワークショップで決定し、設計段階から活動をスタート。樹種調査や間伐体験、森遊び等を通じて参加者の結束力を高めている（写真6、7）。開校までに活動の組織化を目指し、枯れ木撤去や遊歩道整備等を進めていく。この森をきっかけとして、地域住民や卒業生が学校とつながり、皆で学校を支え続けていく関係がつけられることを目指している。



（写真6）里山にある樹種を学習



（写真7）森の間伐に挑戦

視 点

利用者の「気持ち」を 育てるデザインプロセス

完成後の使われ方を設計の最初から意識し、ハードづくりと合わせてソフトの流れをつくる。新たな活動組織や維持管理のしくみづくり、施設に組み込まれる作品づくりなどプロジェクトの特性に合わせた手法を考える。これらの取り組みにおける参加者の声は設計に反映され、自分たちがプロセスに関わっている、という気持ちが芽生える。施設への愛着としくみがつながることで、永く大切に使い続けられるとともに、さらには施設の新たな活用が生まれることを期待する。

（名古屋事務所設計部・9年目 柱健太郎）



社会への種まき

建物を活用した環境教育

小中学校において、校舎を活用した環境教育プログラム作りのサポートや、建物に施された環境配慮技術の原理を伝える出前授業を行う。

環境教育授業

「夏の暮らし方を考えよう」

@若狭町立三方中学校（福井県） 2010.03 竣工
環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のモデル校。校舎を使って環境配慮を学ぶ環境教育プログラムを展開中。

授業の流れ

初めに、「なぜ、夏は暑いと感じるのか？」や、「どうすれば教室を涼しくできるか？」等、
温熱環境のしくみをクイズ等を交えてレクチャー。

校舎を使って体感で確かめよう！

環境教育とは？

環境の保全についての理解を深めるために
行われる環境の保全に関する教育及び学習をいう。

（※環境保全活動・環境教育推進法より）
文科省が定める新学習指導要領に環境教育の充実に関する内容が追加されたことや、省エネ意識の高まりを受け、全国の小・中学校で総合的な学習の時間や関連教科において、特にエネルギー分野の環境教育の充実が図られている。

ミッション 1

風の通り道を調べよう！

風船の向きを矢印でマップに書き込もう！
（気づいたことも書き込もう）

校内 30 か所に風船を設置し、風の流れを可視化。風船の向きを矢印でマップに描き込んでいき、校内の風の道を探る。

風船がゆらぐ向きをチェック→

ミッション 2

窓を開けると本当に涼しいか確かめよう！

閉め切り 開け放つ

温度・湿度・風速・体感をチェック！

開口部を閉め切った教室と開放した教室において、気流の有無による温度・湿度・風速や体感温度の違いを知り、建具を開放することの大切さを学ぶ。

閉め切った教室での温度湿度等や体感を確認→

生徒の感想

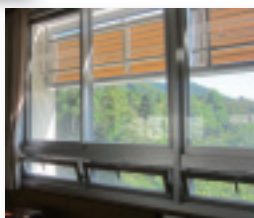
窓を開けてあるのと閉めてあるのと体感温度が全然違うことが分かった。
室温、湿度は同じぐらいでも、風があるのとないのと違うということが分かった。
季節によって季節に合った窓の開け閉めをしていきたいと思う。

この日、一番伝えたかったこと。
ちゃんと伝わった！

すぐに表れる成果

意識の変化

夏季夜間の涼しい空気を教室に取り入れる（ナイトパージ）ために、給気窓を夜間に開放できるようになった。

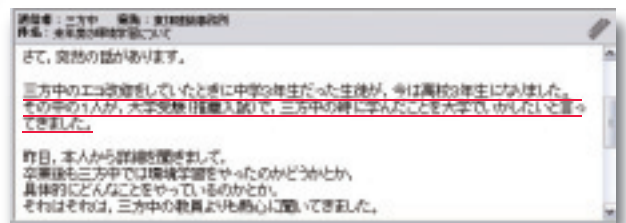


夜間開放可能な給気窓

時間をかけて表れる成果

人材の育成

先日、右のような嬉しい知らせが届いた。校舎を使った環境教育の活動が、その真の目的である「持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成」に着実につながっている。



若狭町立三方中学校の先生からのメール 2012.10.11

（名古屋事務所設計部・
8年目 久保 久志）

建物に様々な環境配慮技術を施しても、それを利用者が理解して活用しなければ宝の持ち腐れとなる。特に学校では、教職員や行政担当者の異動、児童・生徒の卒業によってあつという間に竣工当時のことを知る人はいなくなってしまう。このような状況の中で、校舎に散りばめられた環境配慮技術（風の塔や通風・採光に配慮した建具、ライトシェルフ等）をその効果を体感しながら原理を学ぶ環境教育授業を、プログラム化して受け継いでいくことは、照明や建具等、建物の適切な運用方法を継承していくことにもつながる。また、学習教材としての校舎の活用は、子供たちの校舎への愛着や大切に使う心を育む。さらに、環境配慮の意識が子供たちを通して少しずつ家庭や地域にも広がっていく。

視点

なぜ 設計事務所が「環境教育」なのか



社内への種まき

環境 station

月に一度、建築の環境配慮にまつわる情報をまとめた「環境 station」というレポートを環境計画室から社内向けに発行している。

建築設計者が環境配慮の意識を持ってプロジェクトに取り組むことは、社会的な責務として、ごく当たり前になってきた。このような状況において、環境配慮に関わる情報やノウハウを、環境計画室（建築の環境配慮を専門とする部署）だけで蓄積するのではなく、社内専用の WEB を利用し、全社員に対して広く情報発信する試みを始めた。「環境 station」と名付けられたこのサイトは月に一度、4月「自然採光」、5月「自然通風」、6月「雨水利用」…というように、各月ごとのテーマに沿ってコンテンツが更新される。発行をスタートした 2011 年度を「基礎編」と位置づけ、各環境配慮技術の基礎知識やしぐみについてまとめ、2012 年度以降は、それぞれのテーマの中からより具体的に掘り下げた実務的なトピックを挙げて紹介している。

社内 WEB ページ



環境配慮についてヒントを得たい時に、分野ごとにコンテンツを検索できる。

紙面事例 「自然採光」



単なる読み物ではなく、東畑の環境配慮設計の実績を活かした事例物件や実測データ等を交えながら、「設計実務に活用する」という視点で紙面を構成。

視点

知識を共有する

環境 station の取り組みは、紙面に盛り込まれた情報自体を設計に活かしてもらうと共に、月1回の定期発行を重ねることで、社員一人ひとりの環境配慮への意識を高めていくことをねらいとしている。編集の際に気を付けていることは、「とってつけたような」環境配慮技術とならないために、建築トータル目線を持つ意識の大切さを伝えること。創刊から約一年半が経過したが、その存在が徐々に社内に浸透し、環境 station をきっかけとして、環境配慮設計に取り組みたいという依頼も増えてきた。東畑所員一人ひとりが自信をもって、建築の環境配慮について語れる日が来ることを願っている。

(本社 環境計画室・3年目 横川 彩香)





社 内 へ の 種 ま き

議論を深める場づくり

日常業務とは別に、定期的に社内勉強会を行っている。U-35も積極的に参加・発表している。



設計倫理を考える会

設計行為において、設計者は常に判断を求められている。言い換えれば、設計行為とは設計者が「何をもって正しいと考えるか」という思考の表明であろう。

何が正しいかという、正解のない問いに対して皆で考え、議論を交わす集まりが「設計倫理を考える会（通称：倫理会）」である。設計における倫理とは設計者の節度であり、判断基準である。ともすれば自己完結しがちなこのテーマを、複数で議論することで個人の想像を超え、設計事務所としての倫理観の形成・共有を図ることが倫理会の趣旨である。

2011年度は「私の倫理にかなうもの・かなわないもの」について事例と共に発表し、設計者としての倫理観とは何かについて議論を交わした。全12回にわたる議論を通じて「倫理とは個人個人が持つもの。自らが他人を思いやり、自問自答を繰り返す行為の質が節度を決定づける」という主宰者の考えが参加者に共有され始めている。

主宰：中村文紀
(大阪事務所 設計部長)



主宰者・中村文紀は長年の設計経験から、「自分が正しいということを決めつけない」ことの重要性を説く。いかなる意見も謙虚に受け止め、「設計者としての立ち位置」を自らに問い続けることが倫理観を形成すると言い、他者（クライアント・利用者）の喜びを自己（設計者）の喜びと感ずることが出来たならば、これに勝ることはないだろうと続ける。特に若手所員に対しては、「今後の世の中を見据えるまなざし」「皆で考えるという姿勢」を常に意識し、設計に取り組んで欲しいと期待を込めて語る。

(大阪事務所 設計部・
4年目 広瀬和也)

「U-35世代は、設計事務所の一所員に留まらない積極的な思考や議論が、ことに今の時代に必要なだろう」と。

若手会

設計事務所ではチームで設計に取り組む。チームの体制は、ベテラン・中堅・若手となることが多く、若手所員同士が同じチームとなる機会は少ない。こうした背景から、若手所員の交流・情報交換を目的として始まったのが「若手会」だ。毎回、持ち回りで発表し、設計思想・近作紹介・社外活動・旅行記等、現在までに様々な内容の議論が繰り広げられている。

2012年度は「若手のふるまい」と題し、チームの結末点となる中堅が発表者となり、設計事務所における若手所員の役割やチームのあり方について皆で考えている。

経験を通して語られる言葉は若手所員にとって示唆に富んでおり、自らのふるまいについて改めて考える機会となっている。



会場は、ホワイトボード壁面に大画面で映写できるインタラクティブな会議室。2012年度「若手のふるまい」では、1所員の経歴を定量化するため、仕事量とモチベーションをグラフ化。過去を振り返りながら、議論する。

1th	住宅完成報告会
2th	K 保育園コンペ若手デザインレビュー
3th	カンボジアレポート
4th	アルパート・カーンについて
5th	北欧レポート
6th	自邸について
7th	T コンペについて
8th	社長を招く
9th	S 複合施設報告会
10th	M 氏の10年史
11th	からほりまちアート
12th	北海道旅行記
13th	建築技師の仕事 - 組織の設計者 -
14th	サステナブルな建築・都市・モノ
15th	近代建築と代表作
16th	T 研修所報告会
17th	電気設備のエンジニアリング
18th	学生時の取り組み
19th	T オフィスビル報告会
20th	自身のアート活動について

第20回までのプログラム内容

視 点

対話することで
広がる考え方

今回取り上げた2つの議論を深める場は、講演会形式のように一方的にレクチャーを受けるということはない。発表者は持ち回り形式となっているため、参加者全員が自らの考えに端を発する。つまり相手がいるからこそ始まるディスカッションに主眼を置いている。

何より上下関係を忘れてしまいがちなほど面白いネタが集まる2つの議論の場は、U-35にとっても自らの発言に跳ね返りが得られ、他の人のリアクションが新鮮に聞こえる。フランクに議論を行うことで相手と考えを共有できたとき、自らの射程が広がるからだろう。

こういった議論の後、同世代でよく話すことがある。「U-35世代は、設計事務所の一所員に留まらない積極的な思考や議論が、ことに今の時代に必要なだろう」と。

U-35 建築奮闘記

U-35 が中心となって設計を進めたプロジェクト2物件を取り上げ、建物が完成するまでのプロセスを座談会形式で振り返る。チームで振り返ることによって、全体を通じた建築のプロセスを見つめなおし、今後の設計の進め方について考える。



1 かえで保育園

座談会メンバー 串本 佑介（設計部・5年目 設計時2年目）
工藤 征志（機械設備部・6年目 設計時3年目）
山本 敦 （構造部・5年目 設計時2年目）
コーディネーター 大西 広朗（設計部・6年目）

大西:かえで保育園の座談会を始めたいと思います。最初に物件の概要や敷地条件を教えてください。

串本:西宮市にある酒造メーカーが、地域貢献の一環として新たに保育園事業を立ち上げられるということで、設計・監理を東畑がさせていただくことになりました。敷地は、北側と西側にマンションが隣接し、南側と東側に道路がある角地です。敷地の条件から、南東側は園庭を設けた開けた空間とし、北西側は閉じた空間とする構成を最初に考えました。

大西:敷地の条件と環境がうまくリンクしていますね。インフラ関係や地盤等はどうですか。

工藤:電気はキュービクルを置いて高压で受電するか、置かずに低压で受電するかという話の中で、スペースの有効利用やメンテナンス等のランニングコストを抑えることを考え、低压で受電することにしました。それにより、電気はコンセントや照明等の弱電に限定し、その他の電気容量の大きくなりそうなものはガスで対応することになりました。

山本:地盤関係では、この周辺の地域は六甲山からの水を使ってお酒を作っている工場が多数あるため、地下水を汚さない地業計画とする必要がありました。そのため、地下水位より上の層を支持層とする、べた基礎を採用しています。

ワンルームの家

大西:続いて、建物のコンセプトとそのコンセプトを具体化していく過程について聞かせて下さい。

串本:保育園というと、子供の年齢によって部屋を分けるのが一般的だと思うのですが、今回は、子供達が走り回れて年齢差に関係なくコミュニケーションが生まれやすいように、部屋の区切りがないワンルームの空間を作りたいという思いがありました。

工藤:区切りがない空間は空調を細かく制御するのが難しく、いくつかの無駄がでてしまいますが、クライ

アント側から、ワンルームという提案に賛同いただき、建物全体を一体的な空調としました。

串本:施設っぽくない家のような空間をつくりたいという思いと、大人ではなく子供のスケールに合った空間にしたいと考えました。また、コストメリットも考慮し、階高・天井高を抑えています。



山本:区切りがない広い空間（9mスパン）であることに加えて、階高が低かったため、天井は構造の梁と設備のダクトのせめぎ合いでした（笑）。

工藤:そうですね、設計段階から現場レベルの図面を書いて検討しました。居室空間を確保するために、パイプスペースも出来るだけ小さくして欲しいと意匠から要望がありました。設計段階では、普段 1/50 や 1/100 の図面を書いて検討するのですが、この時は、1/10 や 1/20 の図面を書いて職人さんの手の大きさも考えて徹底的にやりました。これぐらいやらないと実際に配管が納まるか心配で・・・（汗）現場で納まっているのを確認してようやく安心できました。

串本:設備や構造には苦勞をかけましたが、そのおかげで子供のスケールに合った空間ができました。

大西:先程、ワンルームという提案を受け入れていただいたという話がありましたが、串本さんはクライアントに対しての説明は初めてでしたか。

串本:クライアントへの説明を全て任されたのは、この物件が初めてです。最初は、こちらの考えているプランや思いを伝えれば良いと思っていたのですが、思っていた以上に難しかったです。できるだけ分かりやすい資料を作成し、丁寧に話をすることを

設計・監理チームを構成する意匠・構造・設備という状況の違う者同士の対話、同世代でも建築設計とは違う立場で社会と関わる者同士の対話を通して、U-35である自分達が何を考えているのか、これからどのようなことを考えなければならないのかを考察する。



清松学園 かえで保育園	
所在地	兵庫県西宮市
用途	保育園
規模	S造 地上2階
建築面積	512.4㎡
延床面積	749.9㎡
竣工	2011年

心がけました。また、今回の物件では、BIM(3次元CAD)を計画の段階から使用し、立体的に体感してもらうことが出来るように様々なバリエーションのモデルを作りました。打ち合わせの場でモデルに手を加えたり、様々な角度から見ていただくことでイメージの共有に役立ちました。

大西：BIMという話がありましたが、構造・設備からBIMについて思っていることはありますか。

山本：この物件では、BIMを使って構造・設備の連携を図る所までは至っていませんが、スペース効率を極力高めたい場合等には、BIMを使うことでチーム全体で空間の把握が容易になるように思います。

工藤：若い設計チームだったので、お互いの分野の事を知るために頻りに打ち合わせをしており、チーム全員が建物の中身を全て把握していたと思います。どこにダクトや配管が配置されていて、梁せいがどれくらいか等、聞かれたらみんなが答えられたはず。そういう意味では、みんな頭の中で3次元の図面を描いていたと思います。これは、BIMがいくら進化しても設計者として大事なことだと思います。

水平と垂直

大西：外観のデザインはどのように決めましたか。

串本：設計チームで議論し、閉じたい部分は壁の意匠、開きたい部分は庇やバルコニーが必要なことから水平な意匠とし、垂直・水平ラインで構成されたシンプルな形態としました。北側・西側から見ると壁っぽい建物ですが、南側・東側から見るとオープンな建物になっています。また、酒蔵が多い地域なので、その酒蔵のイメージから、白・黒という2色の構成にしました。

山本：この水平ラインの庇が床のレベルよりだいぶ下がった位置にあって、かつ、庇の出が長いので鉄骨の納まりに苦労しました。なぜこの位置なのかと議論を持ちかけたこともありましたが、あの時は串本さんの熱意に負けました。

工藤：設備の面では、庇のレベルが低く、出が長いということは、日射負荷の軽減に有利に働くので、あの時は串本さんの意匠に賛同していました。

串本：建物の外観も当然デザインの一つであり、デザインとは機能を持ったものでなければならないと

思っています。内部の部屋の使い方から、建物外部に必要な庇・バルコニーなどから、敷地条件から、日照条件から、その他にも多くの条件があると思いますが、それらを上手くまとめることができたと思います。ただ、まとめていく過程でのチーム内での意識共有がスムーズに行かなかった部分もあり、その後の物件では、できるだけコミュニケーションを図るように心がけています。

建物をつくりあげること

大西：現場監理について話を聞いていきたいと思っています。設計時のチームで監理されたのですか。

串本：各担当者は設計チームと同じメンバーで、監理部のベテランの方にも加わっていただいています。まだ現場経験も浅かったですし、監理部の方には色々教えてもらうことも多く、大変勉強になりました。

大西：この物件では若手の現場見学会というのを企画していたと思いますが、これはどのような経緯で始めたのですか。

串本：自分も含めてですが、現場経験の浅い若手が実際の現場を見る機会を設けて一緒に勉強しようと思い、見学会を企画しました。

山本：そのような企画もあって、この物件では現場によく足を運びました。図面を描く上では納まっているけれど、実際現場を見てみると、窮屈な納まりになっている部分があり、身を持って読みの甘さを思い知らされました。施工業者と知恵を出し合いながら協議を重ねることで、建物をつくり上げることができたと思います。図面を完成させるわけではなく、建物を完成させることを常に心がけないといけないと感じました。



大西：保育園ということで配慮したことはありますか。

工藤：子供が使う上での安全性には十分に配慮したつもりだったのですが、例えばコンセントやスイッチの位置にしても、園長先生は子供の安全性と先生の使いやすさの両方を考えられていて、その見方が勉強になりました。

串本：合唱の舞台になる大階段、走り回れるスロープなど、子供達を楽しめる空間を多く作ることを考えました。同時に、階段下の絵本の部屋といったアルコープ状の空間も設けています。ホールの壁には鉄粉を含んだ塗料で描かれた木があり、子供達が磁石のついた葉っぱ等を自由に木に貼り付けられるようになっています。これは園長先生からの提案です。他にも数字を楽しく覚えてもらうために、大階段に段数を示す数字を設けたり、ロッククライミング壁を設けたり、子供達を楽しませる仕掛けを提案いただきました。空間にさらに質を与えられたと思います。



串本：竣工後、保育園に招待していただき、園長先生から感謝の言葉までいただけて嬉しかったですね。

山本：二十数年ぶりに、子供達の小さい椅子で食事をして懐かしかったです(笑)。

大西：このあたりで、かえで保育園の座談会を終了したいと思います。最後に感想をお願いします。

山本：3年経って振り返ることで、皆、様々な考えを持っているけれど、クライアントや利用者にとって良いものを作ろうという思いは共通であることが再確認でき、その重要性を改めて感じました。

串本：設計時から丸3年になりますが、例えば今、改めて同じ敷地で保育園を設計するとなっても、こんなによい保育園は生まれてないかもしれません。それも園長先生をはじめ関係者の方々とのお話しのおかげだと思います。子供たちの笑顔を見ると、とても感慨深いものがあります。今回改めて振り返り、設計というものの根っこの部分を垣間見れたような気がします。



2 コープアイメゾン柏原

座談会メンバー 大西 広朗（設計部・6年目 設計時4年目）
工藤 征志（機械設備部・6年目 設計時4年目）
寺島 雄一郎（構造部・5年目 設計時3年目）
コーディネーター 山本 敦 （構造部・5年目）

山本：コープアイメゾン柏原の座談会を始めたいと思います。物件の概要から聞かせて下さい。

大西：この物件は、大阪いずみ市民生活協同組合が新たに介護付の有料老人ホームを作られるということで、以前からショッピングセンター等の設計の仕事をしていただいているつながりで東畑が設計・監理をさせていただくことになりました。協同組合ということで、地域社会のくらしに貢献する団体であり、今回も高齢化社会に対応した事業の一環で、老人ホームを作られるということでした。最小限の投資で最大限の還元を目標にされているので、出来るだけ無駄のない計画を求められました。

コンパクトとゆとり

山本：続いて建物の計画についての話を聞いていきたいと思います。今回の敷地は斜面地だということですが、敷地の造成はどうされましたか。

大西：無駄のない計画を求められていたのと、事業スケジュールの制限もあって、できるだけ土地の造成は行わずに原型をそのまま生かして計画することになりました。斜面に建物をそっと置くような形です。

工藤：敷地の傾斜と排水の流れる方向が同じだったので、設備面では敷地の高低差を活かした、合理的な計画としました。

寺島：基礎に関しては、支持層レベルの浅い部分はラップルコンクリートで固め、深い部分は地盤改良（柱状改良）を行っています。支持層のレベル差が大きく、どのレベルに設定するか苦労しました。

山本：クライアントの要望はどのように取り入れていましたか。

大西：介護のしやすいよう動線をなるべく短くして、緊急時にも対応しやすい計画にして欲しいという要望がありました。敷地形状に則したL型の配置計画に対して、L型の廊下をとって、両側に個室を設けるとい、建築計画的には一番コンパクトで面積効率に

優れた計画としました。

工藤：今回は、オール電化という要望があり、給湯も電気で行うことになったのですが、電気で給湯する計画が私にとって初めての経験だったので苦労しました。給湯タンクを置いてお湯を供給することになるので、クライアントに1日で使うお湯の量を何回もヒアリングしてタンクの容量を決めていきました。初めてでしたが、クライアントの協力を得られ、やりきることができたと思っています。

山本：コンパクトな設計という中で、個室の間口が通常より広く感じますが、意図があるのでしょうか。

大西：府の認可を受ける有料老人ホームの場合、18㎡以上という面積の規定があるので、普通の敷地では個室を効率よく割るために間口をできるだけ小さくして3m×6mが基準のようにになっています。今回はできるだけ間口を広くして広がりや開放感のある空間となるように 3.6m×5.5mという個室の大きさにしています。この60cmが大きな効果を生んでいると思います。

山本：構造・設備の面で工夫したことはありますか。

寺島：床振動の軽減や、設備配管の配置しやすさを考えてボイドスラブを採用しています。

工藤：通常、火災時の消火ポンプの起動のために設けられる非常用発電機を、停電時の給水確保として給水ポンプにも電気を送れるようにしています。

質の高い建物にするために

山本：外観・内観はどの部分に重点を置きましたか。

大西：コストを抑えながら、いかに質の高い雰囲気を出していくかを考えて、外観ではアプローチからよく見える妻壁にはタイルを貼って、その他の部分は吹付仕上の壁と打放しの庇、目隠しルーバーによるシンプルな構成としています。内装についても、部分的に濃い色目を使ってラグジュアリーな雰囲気を出せるよう、心がけました。

山本：現場監理の中で気付いたことを教えてください。

大西：足元まわりの細かい段差等にはクライアント側もかなり気を使っておられて、設計段階でもなるべく配慮したつもりだったのですが、実際現場で施工していくと施工誤差等で少しレベル差が出る所がありました。現場ではスリッパをぬいですり足で繰り返し確認していただき、引っかかる部分等は、施工業者と

施工方法の見直しも含めて協議しました。もう一步踏み込んだ配慮が必要だと痛感させられました。

工藤：トイレのボタンやスイッチの位置決めは実際にモデルを作って、クライアントと一緒に機器の組合せパターンを様々検討し決めていきました。実際にモデルを作ると図面上では見えていないものが見えてきて、参考になりました。



山本：座談会を終えての感想を聞かせて下さい。

大西：振り返ることは大事だと感じました。様々な制約の中で必死にもがいていると、頭で分かっているけど大切なことを見失うことが多いように思います。この物件では組合員や入居者の方々にとっての幸福が最上位の課題だけど、実務レベルではコスト・法的な要件・納まりやスケジュール等の組合せで建築を組み上げていくことが少なからずあります。でも、このような場で説明しようとなると、実務的な課題だけでは上手く説明できないことに気がきました。使う・作る・創る、どの立場に立った時にも、最終形と最上位課題の関係がきちんと整理されていないと駄目だと改めて感じました。

工藤：改めて言葉にすることで、自分の足りない部分がクリアになったと思います。自分が苦労した部分をこういった機会を通じて皆で話し合い、若手のレベルアップを図っていけたらと思います。貴重な機会をありがとうございました。

大阪いずみ市民生活協同組合
コープアイメゾン柏原
所在地 大阪府柏原市
用途 介護付有料老人ホーム
規模 RC造 地上2階
建築面積 812.4㎡
延床面積 1,559.9㎡
竣工 2011年





光がさし込み人々を迎え入れるエントランス庇



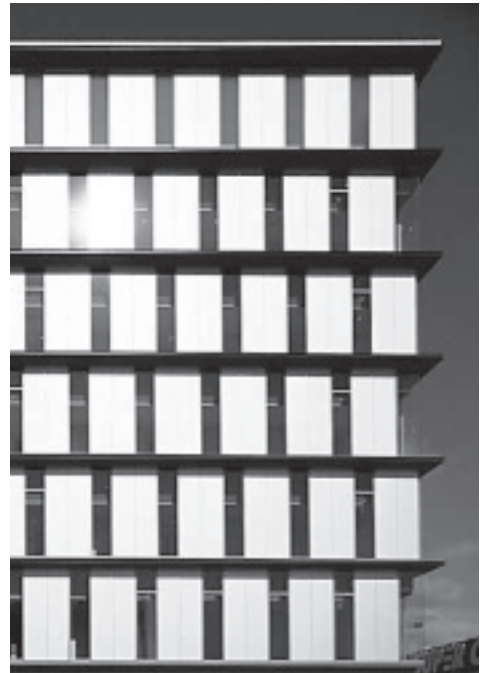
子どもたちお気に入りの壁の穴



おだやかさを表現したアプローチ空間



サインと融合したPS



新しい街並みをつくるリズムカルなファサード



開放性のために壁からもち出した階段

U-35 の チ ャ レ ン ジ



クリニックと街をつなげる吹抜け



強靱さを感じさせる消防士訓練棟



やわらかい光が漏れ、居場所が点在する廊下



のびやかな空間を演出したエントランス



光あふれる軽やかな階段



周囲の既存建物のデザインを展開させた附属ゴミ庫



女性目線で居心地のよさを追求したトイレ



内部空間の機能構成が表出した表情豊かな中庭

U-35の視点

ー建築・場所・まちについて考えるー

東畑だけでなく、様々な環境や方法で建築を通じて社会との接点をもつU-35世代が集い、自分たちが感じていること、考えていることについて意見を交わした。置かれている状況や起ころうとしている変化に対して自分たちはどういった行動をしていくべきなのか。思考をぶつけ合うことで、U-35の視点で建築・場所・まちのこれからについて模索した。

はじめに

不動：はじめに、皆さんの仕事や活動について紹介をお願いします。皆さんが興味のあることについてもお話いただければと思います。

野村：設計部の医療・福祉チームに属しています。これまで特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、研究・実験施設などを設計しました。

横川：環境配慮のための設計提案などを行っている環境計画室という部署に所属しています。学校エコ改修において、ハードの整備だけでなく、使い方を一緒に考えるソフト整備や、設計した学校への出前授業を通した環境教育などを行なっています。建物と人との距離をいかに近づけていけるかということに興味があります。

橋本：学生時代は建築計画の研究室にいましたが、建物を作る仕組みや事業者としての関わりに興味があり、今の職種を選びました。ファシリティマネジメントやバリアフリー設計、耐震改修といったことに関わってきました。最近、「愛される駅」という本の出版に携わりました。興味深い地方の駅を紹介するという主旨で、本の中ではそれぞれの駅の個性や、古い駅舎のさよならパーティーなど、事業者と建物の関わり方についても書いています。

豊田：私も元々設計がやりたくて大学では建築学科に入ったのですが、建物が作られるプロセスの中で企画の部分に携わりたいと思い、今の職場を選びました。普段の業務では事業収支などをベースにして建築を考えていますが、建物の本体だけではなく、建物を使う人がうまく使えるような場所とすることで建物がよくなるのではないかと考えています。

高橋：大学院でブラウンフィールドの研究をしています。ブラウンフィールドとは、簡単に言うと、日本では土壤汚染地とされていますが、英国では低未利用地とされているという違いがあります。そうした違いも研究対象になるので、言葉の定義や選択について敏感に捉えています。言葉の定義によって政策や予算の割り振りも違ってくると思うし、例えば「遺産」か

「廃墟」というように選択される言葉によって、建物や場所の意味が変わるといったことも興味の対象です。

樋野：外国人市民の人権保障や多文化共生を柱とした支援事業を行っています。私はその中でもコミュニティ・カフェの企画・運営を担当しています。私たちが作っているコミュニティ・カフェは外国人市民にとっての居場所の一つであると捉えているのですが、それと地域とがどう交わり、地域の中でどう根付いていくのか、コミュニティの再構築も視野に入れています。地域の多様性にどう目を向けてもらうか、お互いを認め合う土壌をどう作っていくのか、ボランティアの活動情報誌などを通してそういうことを模索・発信しています。

それぞれの立場で考えること

不動：皆さんがそれぞれの立場で重視していることについて聞きたいと思います。

野村：設計ではクライアントの要望を満たすことが第一条件です。さらに福祉施設等では、補助金制度によって設計期間が短くなるといった制約も多々あります。こういった条件をクリアしながらも、それを超えていかに良いものを提案できるかが重要だと思います。クライアントの考え方や価値観に対して、揺さぶりをかけるような提案ができないかという意識を持って設計を行っています。

不動：建築やまちの価値を利用者に伝えるという役割が設計者にはあると思います。そのため設計者ができることは、誠実に設計する、その姿を見てもらうことしかないのかなと思っています。設計プロセスに色々な人を巻き込んでやっている横川さんはどう感じていますか。

横川：建築の専門家だけがわかるようなフォルムやディテールへのこだわりは、建物を実際に使うおじさん、おばさんや子供に喜ばれるような対象ではないのではないかという思いを持っています。これは空気感とか匂いとか音とかそういうことにもともと興味があったことも影響していると思います。私が初めて担当した物件

は小学校だったのですが、ワークショップを通じて地域の人や先生方とどんな学校にしたいかと考えていく中で、利用者の存在を常に実感出来る状況にあったことも大きいと思います。公共物件において、ワークショップを通してのソフト整備に対して報酬を与えるという動きが少しずつ出てきています。現時点ですでにそれに携わった人間として、何が良かったのか、何が問題だったのかというのをしっかりと見つめ、改善していくことが重要だと思います。

樋野：コミュニティ・カフェに携わっていて、地域との関わり方や地域の中でその場所がどういう風に育っていくのかということを考える上で、ワークショップなどを通して地域の人がそこに関わるといことはとても重要なことだと思っています。

コミュニティ・カフェにはボランティアや地域の人や職員、外国人や日本人、学生やリタイアした人など、いろいろな人が関わってきます。そんな人達が日常生活の中でなんとなくふらっと立ち寄ったり集まったりしてくるような状態が、その場所が地域に根付いているということなのかなと思います。

不動：建築・まちの価値を伝えるという点で高橋さんに聞きたいのですが、研究者という立場として何か大切にしていることはありますか。

高橋：研究というのは、ある視点に焦点をあてて調査や分析を行なっていくことですが、論文にするためには科学的根拠のある情報や論考のみを発表することになります。そういう制限がある中、背後には自分の理想を持っていて、こうじゃないか、ああじゃないかと思いながらやっています。そういった理想を持っておくことが重要だと思っていて、10年後、20年後に自分の立場が変わったときに貯めていた思いを発信出来るようにしたいと考えています。

不動：そういう理想をどう発信していくのかというところが大切なところであり、難しいところだと思うんですが。

高橋：今、情報を取得するツールは色々ありま



すよね。冒頭でも言葉の定義の話をしたんですが、情報や言葉を精査して人に伝えていかなければいけないというのは、私の立場から思うところです。

不動：橋本さんの「愛される駅」の話の中で興味深いのが、利用者が主体的に建物に関わっているということです。そうした状況が生まれている理由をどう考えますか。

橋本：地方に限定すると、単純に建物に接している時間が長いということが言えると思います。どんな建物であろうが毎日そこから学校に通った思い出とか、帰ってきた時に駅員さんに「おかえり」って言ってもらった思い出とか、そうしたことが駅という場所に対する愛着を生んでいるということを感じました。（横川さんの発表された）環境教育授業のビデオを見ていて、窓際の照明を消しても明るさが変わらないということを生徒にいちいち体感させて教えないと分かっていないということが印象的でした。リノベーションやDIYが流行ってきて、住みこなす、空間を使いこなすということが広まってきていますが、建築が生活から離れてしまっているのを感じています。

建物と人とのかわり

橋本：グラフィックデザイナーの原研哉さんが、「デザインの役割のひとつは人がこういうものが欲しいということを少しずつ正していくことだ」ということを書いていて、それを「欲望のエデュケーション」と呼んでいます。それがとても印象に残っています。エコに関し

て言うと、今はなんとなく世間一般に環境に配慮した建物がいいという価値観があるけれども、それはいつ生まれたのか、何かきっかけがあったのでしょうか。

横川：日本の場合は京都議定書が策定されたことで、エコという言葉が流行り出したと思います。環境配慮といっても色々な側面があります。私の立場から考えているのは、クライアントも設計者も含めて、「環境」というキーワードをきっかけとして、プロジェクトを面白く展開していこうとする動きが広まって欲しいと思っています。建物が出来る前の土壌をつくること、そのためのきっかけを作ることは重要だと思います。今まではワークショップを設計事務所がやるということは珍しかったと思います。ワークショップを行いながら学校エコ改修をしたとしても、設計者がいなくなり、自治体も関わらなくなり、先生も変わってしまったというような状況で当初の設計意図が受け継がれないということが実際に多く起きています。10年後にちゃんと仕組みが続いているかどうか、20年後はどうかというところを注視してみていく必要があると思います。

橋本：提供された空間やサービスを利用者が享受するという形とは違う場所との関わり方をこれから考えていく必要があると思います。

私の経験の話をすると、駅のベンチに手作りの座布団が敷かれているのが今までは許せなかったんです。でも今は、利用者が座った時に冷たい思いをしたので他の人のことを考えて何か物を提供するという状況がすごく面白いと思うし、

それを排除してはいけないと思います。

高橋：そういうことをする利用者を巻き込んで駅をもっと良くしようということになれば、綺麗な生地で作ってくれたりすると思います。

橋本：そうなんです。その人も場所を良くしようとしているんです。ただ、目指すベクトルがずれていることが課題だと思います。

野村：その話は面白いと思います。やはり設計者としては、カッコいい空間を作るためには座布団を置くのはまずいでしょう、と思ってしまいう。でも、カッコいいという一元的な価値ではなくて、いろいろな価値観や使われ方を許容できる空間を考えることは、新しい価値観を考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。

横川：聞いていて思うのは、やはり話の背景にあるその駅が建物として愛されている結果であるということです。空間の中に人の存在というか痕跡みたいなものが見えることは、私はいいことだと思います。

愛着は設計出来るか

不動：建物への愛着は結果としてついてくるもので、それを狙って設計することは難しいと思います。愛着が湧いているというのは何となくいいことだというのはわかりますが、機能的に使うことが出来ればそれが愛着につながることもあるのではないかと思います。建物の企画に携わっている豊田さんはどう思いますか。

豊田：建物が愛されるべきかと問われると、もちろん愛されるべきだと思います。ただ対象は色々あるのではないかと考えていて、不特定多

数に愛されるべきだというのは押し付けがましい部分もあるのではと思っています。

不動：それでは、愛される建物を作ることは可能だと思いますか。

豊田：設計者のセンスを用いて、ある事業性の範囲の中でいかに良いものを創り上げるかを考える人がどれだけ増えていくかということだと思います。事業性に加味されないプラスアルファの要素をいかに滑り込ませていくのかといったような。ある意味事業者のエゴでできたものが受け入れられるかどうかということだと思いますが、それが結果的に愛される建物になればいいと思います。駅をつくる場合にもワークショップを開き、住民を巻き込みながらやっている事例もあると思います。橋本さんはそうした動きをどう思いますか。

橋本：個人的には建物をつくるということを世間に対して開いていくべきだと思っています。僕らが作ろうとしている駅というのは、どんな人が使うのかもわからないし、一度作ってしまうと50年60年70年ずっと使わなければならないし、使ってもらわなければならないのです。なので、作ること自体にもっと関わってもらうことが、長く自分の場所として獲得してもらうきっかけが生まれる可能性を含んでいるのではないかとと思っています。

対話を通じて思うこと

野村：僕らの世代は、組織の中ではまだまだ発言力が及ばない部分があります。ただ、組織に属していることを、いかに自分にとってプラスとできるかを意識するべきだと思います。この雑誌の企画で、東畑が設計した淡路島の五色図書館の見学をしました。うまく使われている部分を嬉しく思う反面、設計当時と現在とでは社会や経済の状況が違うので、設計意図と使い勝手とのズレも感じました。しかし、そういった状況を知ること、そのズレを経験として積極的に捉えるべきではないでしょうか。組織としての80年の蓄積を、これからの仕組みづくりや、ものづくりに繋げていくことが重要だと改めて感じました。

樋野：建築のことをあまり知らなかったのも、建築関係の人が建築に対する愛着といったこと

を考えていることが意外でした。建築家という職人気質という感じがしていたので、使う側はあまり意見を言わない方がいいのかなというイメージでした。

この座談会のメンバーの所属や立場はそれぞれ違いますが、社会という枠組みで私たちは繋がっています。私たちはまだ若手ということで、それはただの理想だとか経験がないからと、自分の考えが組織の中で認められなくて自分が間違っているのかと悶々とすることも多いと思いますが、今回の座談会みたいに異分野の同世代同士で考えを共有したり発展させたりしていくことで、それぞれの立場で何か突破口を見つけていけるんじゃないかなと思います。

豊田：今日は色々な話が出ましたが、ワークショップに関して言うと、何でもかんでもワークショップに巻き込めばいいわけではないと私は思っています。むしろワークショップが流行りすぎているんじゃないかという考えもあります。設計でいうと、作ったものをいかにさりげなく社会に出して、それを気に入ってもらえるかという部分で力量が試されるのではないかと考えており、そういう力量を身につけていくことも必要だと思います。

橋本：問題意識を持ってる人たちが異なる専門性を持ってここにすることが今日はすごく面白かったかなと思います。それぞれの組織あるいは立場でいいものをつくっていくために互いに刺激しあったり、教育し合うことがやはり大事だし、そのためにはこれまで自分たちがやってきたことをもう一度振り返らないといけないんだろうなと思います。

誰が意思を持ってその場所を用意しようとするのか、強い意思が事業者側にあるのであれば別に何も聞かずにそのまま突っ走ればいいんだし、使ってもらう人たちの意見が大事だと思えば、徹底的にワークショップをやって、使ってくれる人たちの言葉をどれだけ拾い上げるかってことに時間を割けばいいんだし、その建物ごと、場所ごとの意味を考えなければいけないと思いました。

高橋：色々な立場の方々の考えを聞いて思ったのは、例えば設計する立場においては、敷地や法律などの条件もあるかと思いますが、その背

後にはその場所を使う地域の人たちやユーザーがいるということを設計する人が意識するかもしれないかで、同じ予算の中でも出来ることは変わってくるのかなと思います。

私のように文章を書いてそれを発表して社会に訴えかけていくという立場の間は、やっぱりそういった背後にある状況を調査して情報として提供していくことが大切だなと感じました。そういうことを改めて実感できたので、色々な人の価値観を聞くことが出来てよかったです。

横川：ソフトだったり、ワークショップといった話が多く出てきて、建築やまちに対してそこで行なわれる活動に重きが置かれているような傾向になってきていることを感じますが、では建築は箱があればいいのかという疑問が出てきます。最低限をこなしていくのが設計者なのかというところではなくて、豊田さんが、「さりげなく」と言っていたことに関係してくると思うんですが、建築に特に興味がない人の無意識にどう働きかけていくかというところが大切なのだと思います。ある場所に対して何となくそこが気持ちよかったという印象が残るということは、視覚的なデザインというよりも肌に触れる素材感や空気・光の状態など、無意識なところへの働きかけが重要だと思っています。

不動：このような対話をしてみて、やはり同世代は根本的な部分で考えていることや問題意識が共通しているのかなという実感があります。社会的に様々な出来事が起こるとともに、縮小、シェアなど様々なキーワードが出てきていて、建築を取り巻く状況が変わって来ていると言えるのではないのでしょうか。今回は、参加やワークショップの話が色濃く出ましたが、ユーザーやクライアントを設計プロセスにいかに巻き込むかということが重要視されてきている気がします。決定権を委ねるということではなく、一体となって設計プロセスが進んでいくというような形がありえるのではないかと個人的には思います。

なかなか上手く議論をまとめることは出来ませんでした。このような機会はとても貴重だと思っています。これからも何らかの形で継続していければいいのかもしれない。

皆さん、本日はありがとうございました。



U-35の声

Q.1 入社以来関わった物件数（ビルディングタイプ）は？／Q.2 東畑ってどんなところ？／Q.3 今の仕事を志したきっかけは？
Q.4 尊敬する上司はどんな人？／Q.5 自分の変えないといけないところは？／Q.6 好きな建物・まちは？

疲れてへとへとやのに
やめられない
とまらないこの仕事！

名古屋事務所
設計部 入社 8 年目
●三重大学大学院修了

久保 久志
クボ ヒサシ

- Q.1 12件（小学校／中学校／老人福祉施設…）
- Q.2 働くときはしっかり働き、遊ぶときはしっかり遊ぶ
- Q.3 大工である父親の背中を見て育ち、高校のときに自宅が実際に建ちあがる姿を間近でみたとき
- Q.4 任せるところはとことん任せ、締めるところはしっかり締める
- Q.5 若手というくりに甘えず責任と自覚ある行動をする
- Q.6 東京カテドラル聖マリア大聖堂（建築の力強さを体感した）

大阪事務所
設備部 入社 2 年目
●立命館大学大学院修了

西谷 太一
ニシタニ タイチ

- Q.1 9件（学校／集合住宅／銀行…）
- Q.2 仕事は大変だけど、居心地がいい
- Q.3 阪神・淡路大震災で被災し、家が全壊したとき
- Q.4 強くて愉快
- Q.5 自分に厳しく、他人に厳しく（良い意味で）
- Q.6 四万十川

大阪マラソン
完走しました！

会社内のイベントも
いろいろ楽しんでいます！

大阪事務所
設備部 入社 1 年目
●大阪大学大学院修了

安井 さおり
ヤスイ サオリ

- Q.1 3件（放送局／学生寮／庁舎）
- Q.2 人間味にあふれた、温かいところ
- Q.3 建築模型への憧れ
- Q.4 安心感がある
- Q.5 時間の使い方
- Q.6 サグラダ・ファミリア／アヤソフィア

与えられる仕事は
その人次第
運も実力のうち！

大阪事務所
設計部 入社 6 年目
●大阪大学大学院修了

大西 広朗
オオニシ ヒロアキ

- Q.1 13件（市場／庁舎／診療所…）
- Q.2 上司とフラットな関係を築きやすい
- Q.3 当時好きな人が建築学科を目指していた
- Q.4 理解力と説得力を兼ね備え、困ったときに逃げない
- Q.5 施主の意見に折れない強い心がほしい
- Q.6 ポルトガル／チュニジア

大阪事務所
設計部 入社 3 年目
●大阪大学大学院修了

不動 剛志
フドウ ツヨシ

- Q.1 5件（診療所／研究所／老人ホーム…）
- Q.2 頑張りは認めてもらえる、がんばらないとチャンスは逃げていく
- Q.3 阪神・淡路大震災で被災し、建物が人の心を与える影響を感じて
- Q.4 どのような空間をつくるべきか、建築に対する理念を持っている
- Q.5 自分にしかできないことをみつける
- Q.6 ドゥッロブニク（クローアチア）

もっと頑張らないと！

仕事が忙しい時と
そうでもない時の
差が結構ある！

東京事務所
構造部 入社 8 年目
●明治大学大学院修了

大城 達彦
オオシロ タツヒコ

- Q.1 13件（百貨店／小学校／病院／…）
- Q.2 若い人たちがのびのび仕事ができる
- Q.3 なんとなく
- Q.4 決断力がある
- Q.5 計画性を身に付ける
- Q.6 横浜の大根橋から見た景色

心にうるおいを
生活にいろどりを！

時かめ種は生えぬ…
種を蒔こう！

本社
環境計画室 入社 3 年目
●京都工芸繊維大学大学院修了

横川 彩香
ヨコカワ アヤカ

- Q.1 たくさん（小学校／大学／官庁／病院…）
- Q.2 ぎらぎらせず、ひたむき、あたたかい
- Q.3 小さいころから見ていた渡部篤志の建物探訪が面白すぎたから
- Q.4 猫の画がうまい
- Q.5 感情的になりやすいところ、我慢強いこと
- Q.6 安曇野の山と、雲と、霧と、ちひろ美術館

大阪事務所
構造部 入社 5 年目
●関西大学大学院修了

山本 敦
ヤマモト アツシ

- Q.1 14件（事務所／大学／礼拝堂／工場…）
- Q.2 フラットな事務所
- Q.3 理系で一番カッコ良さそうだった
- Q.4 最後に責任をとってくれる
- Q.5 スケジュールに余裕を持たせること（公私ともに）
- Q.6 比叡の山々から見る琵琶湖

テーマも自由。構成も自由。20頁の中に何を表現するか？業務の合間を縫って集まり、うんうんと悩みながら、皆で無い知恵を絞った秋の夜な夜な、今振り返ると、学生の頃にコンペに取り組んでいた時のような、非常にクリエイティブでワクワクする時間でした。私達が感じているありのままの「今」を、シャッターを切るように写し取り、このような形で残すことが出来たのは大変有難いことだと感じます。若輩者たちにこのようなチャンスを与え、また編集に協力して下さった方々、さらに、この80周年まで歴史を積み重ねて来られた先輩方一人ひとりに感謝します。そして、この本を手にした皆様の方に、何か一つでも明日に繋がる種を残せたなら、これ程嬉しいことはないと思います。 横川 彩香（本社 環境計画室）

様々な双方向性のソーシャルネットワークが一般化し、自らの考えを社会に向け容易に発信できるようになった今だからこそ、雑誌という一方向性のアナログツールは今を切り取ったスクラップとして新たな価値を見出すように思う。まさにこの雑誌は、言葉足らずで未完成で苦悩に満ちたいまの僕らをそのまま切り取ったものとなった。中身としてはいささか雑多で読みづらいと感じる読者も少なくないだろう。しかし、少なくとも今の僕らの奔走と熱気が伝わる誌面となったのではないだろうか。いつまでもアサッテへのまなざしを持ち続けたい。

様々な人々を巻き込むことで、東畑建築事務所らしさ、U-35らしさというものが表れた興味深い特集になったと思う。それぞれの持ち味や個性が重ね合わされることで、まなざしの視野が広がり、そこから新しい価値が生みだされていくそのプロセスは、自身の価値観を広げてくれたと同時に、自分らしさとは何かということを改めて気付くきっかけを与えてくれたように思う。編集にあたってご協力頂いた関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、この特集を手にした方々にとっても、これが未来につながる何かのきっかけとなることを願っている。 下田 康晴（大阪事務所 設計部）

80周年特集をU-35の力で完成させたことは非常に大きな成長になったと思う。それぞれの個性を尊重しつつも柔軟な対応を求められる編集作業は、今後も組織事務所で活躍するにあたっての財産となったと思う。今回学び得た様々なことを糧とし、今後もU-35のまなざしは未来を見据えていきたいと思う。末筆とはなりましたが、特集号発刊にあたり多くの方々にお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。 河村 明広（本社 情報企画室）

東畑建築事務所は大阪・東京・名古屋・九州に事務所を持つため、若手社員はなかなか顔を合わせる機会がない。今回、若手社員を中心に編集作業を行い、これまで触れ合うことのなかった社員と共に1つの特集を作り上げることができたことは、私にとって面白い経験であった。特に我社の核を担う大阪事務所の若手社員の熱意は、とても刺激になった。雑誌の内容もさることながら、今回の企画から若手社員の熱意を感じ取ってもらえたら、嬉しい限りである。 鶴飼 浩平（名古屋事務所 設計部）

私たちにとって今回の機会はとても貴重な経験となりました。この特集の制作にあたりご協力いただいた東畑建築事務所の先輩方、クライアントの方々、インタビューをさせていただいた皆様、座談会に参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。 制作メンバー 一同

制作
（企画・取材・撮影・編集）
東畑建築事務所 U-35

市野憲一郎	伊藤良	岩本晃大	植政人	鶴飼浩平	大城達彦	大西広朗	小島茂也	加納浩史	河村明広	菊地健作
木村慎司	串本佑介	工藤征志	久保久志	小林彩子	坂本裕樹	下田康晴	鈴木達也	曾我部暁人	辻村典子	寺島雄一郎
長島薫	長嶺安佐子	中牟田昌慶	西谷太一	長嶺安佐子	中牟田昌慶	西谷太一	野村祥平	柱健太郎	東拓郎	広瀬和也
藤田渉	不動剛志	松下拓真	森本嘉章	三矢大祐	山本敦	横川彩香	（五十音順）			

U-35らしい東畑建築事務所80周年特集を作るために、各々が考え、意見をぶつけ合いながら出した答えが今回の紙面になっている。議論を重ねながら答えを導く過程は苦しくもあったが、新しいことが生まれそうな期待感に満ちていた時間でもあった。誌面であれ、建築であれ、モノを作り出す際には皆で知恵を出し議論を重ねることが必要不可欠であることを改めて感じた。この誌面を作りあげたことを糧とし、未来に価値あるモノを世に送り出していきたい。 山本 敦（大阪事務所 構造部）

「この情報を誌面にすることは誰かのためになるのか？」と、編集集中私は疑問を持ち続けてきた。建物を設計し世の中に送り出すことは社会に向けてメッセージを発するということであると思う。そう考えると、この特集を編集することには建築設計との共通点があったのかもしれない。情報をまとめ、発信するためには準備とアイデア、そして覚悟が必要であることを痛感した。今後社会にメッセージを発していく場面でも、アイデアと覚悟が必要なのだろう。 不動 剛志（大阪事務所 設計部）

今回の特集は何一つ建築の雑誌らしくないかもしれませんが。建築写真も多くは掲載してませんし、論文などありません。それは我々がスポットを当てたかったのは「ひと」だからです。内容だけでなく企画・編集に至るまで設計事務所のU-35がそれぞれ独自の視点で取り組んでいます。何か頑張っているなど読んで頂くだけでも十分ですが。読者の心を打つ何かをこれらのコンテンツで披露できたことを信じて世に送り出します。 広瀬 和也（大阪事務所 設計部）

今回の編集にあたって、なにを、どのように、何のために発信するのか、メンバー全体で議論しながら進められたことは、有意義であったし、私自身にとっても、多くの発見と成長に繋がったと感じている。建築設計というフィールドにおいても、議論を重ね、常に未来に向かって価値あるものを創造するという意志を共有しながら邁進していきたい。 長島 薫（大阪事務所 設計部）

制作を終えて

9月から2ヶ月半。設計者とは何か、私たちU-35が制作する意味は何か、悩みつばなしの日々だった。作品を探訪し、クライアントと話をし、座談会をし、夜中まで議論し…。誌面は何となくできていくけど、何を伝えたいのか、分からない。でも動くしかない。そんな中で単純に思ったこと、僕らはこんなに熱いんだ！ということが伝えられればよいのでは、と。私たちはそれぞれ強い個性を持ち、建築に対して熱い思いを持っている。言葉足らずだし、まとまってないし、表現不足だし。読みにくいし見にくいかもしれないが、私たちの、背伸びせず率直な思いの詰まった冊子が完成したと思う。こんな熱い仲間とともに、設計者であることを肝に銘じ、よい建築を世に送り出していきたい。 串本 佑介（大阪事務所 設計部）

今回の紙面作成にあたり、最も印象深いのは「作品探訪」で、創業者東畑謙三の設計した建物を見学できたことです。恥ずかしながら、入社8年にして初めての機会でした。新しい建物ではないですが、使い手に愛され、街にも愛されていることを目の当たりにして、誇らしい気持ちと、自分が設計に携わってきたもの、これから携わるものも、こうあってほしいという気持ちになりました。また、事務所の垣根を越えて、若手のみんなで協力して、この紙面を作り上げられたことを嬉しく思っています。 大城 達彦（東京事務所 構造部）

特集

脱成長の時代を考える

なぜ国々は、豊か社会や暮らしを実現するため、成長を追求してきた。
そのため、成長を前提とした経済社会の運営方式が根付いています。
社会を捉える様々な問題解決も、成長を通じて、若しくは..
成長の果実を利用して解決するのが一般的です。

これらも成長を求めるとは必要です。しかし、空洞化や衰退化が
進行している地方都市の現状を見ると、スラップアンドビルド型の処方箋に
基づく経済成長に依存せずに地域の問題を解決していく方法も必要だ
と気がきます。成長できなければ地域の問題解決が通じ、その中で、さらに
成長が難しくなり、状況が悪化する、という悪循環を阻止・予防する
「脱成長型の処方箋」を求められています。

考えてみると、有形無形の資産を豊富に有している大阪・関西は、
脱成長型の取組みを主導すべき地域に違いないとも知れません。
強い府需要がありこれを前提とする大型開発が成り立つエリアは
限られており、まちの再生は従来とは異なり方法で進めざるを
得ていく、といえます。

今回の特集では、大阪・関西が脱成長型都市づくりのフロントランナー
になるという問題意識を下敷きにした上で、脱成長型の方法論や
ビジョン、セクター、仕組み等も考えたいと思います。

総論

人口減少、高齢化時代の集約型都市圏構造 ～京都府丹後地域を事例に～／矢作 弘

各論

人口減少社会の到来に備えて ～大阪府人口減少社会白書から～

／大阪府政策企画部企画室計画グループ

ストック活用型の団地再生 ―観月橋団地再生計画―／星田逸郎

脱成長時代における「減築」という選択／鈴木克彦

京町家の利活用／西村孝平

まちの魅力と活力を引き出す「まちなかバル」

～日本版「メインストリートプログラム」をめざして～／中塚 一

「自ずと成らしめるまちづくり」の意義と手法／久 隆浩

コミュニティデザインという手法／山崎 亮

企画：計画系分科会

鈴木克彦／高橋和也／不動剛志／紅谷昇平／松田奈緒子／三宅次郎／守井 辰／吉村英祐

人口減少、高齡化時代の集約型都市圏構造

～京都府丹後地域を事例に～

龍谷大学教授

矢作 弘

1947年、東京生まれ。
横浜市立大学卒、日本経済新聞ロサンゼルス支局長、編集員を経て2002年大阪市立大学大学院創造都市研究科教授。2011年から現職。この間、オハイオ州立大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）客員研究員。社会環境科学博士。
著書に『都市はよみがえるか』（岩波書店）、『ロサンゼルス』（中公新書）、『町並み保存運動 in U.S.A.』（学芸出版社）、『産業遺産とまちづくり』（学芸出版社）、『大型店とまちづくり』（岩波新書）、『『都市縮小』の時代』（角川新書）、『持続可能な都市』（岩波書店、共著）がある。

■人口減少、高齡化の進行

人口減少と高齡化が急ピッチである。若者が去った後、残された高齡者の暮らしの持続可能性が困難になっている過疎地を、「限界集落」と呼ぶようになった。その表現を援用すれば、今後20～30年の間に、大都市圏の外にある地方都市の多くが「限界都市」になる。ここで「限界都市」というのは、ある一定レベルの質量の都市機能（行政サービス、医療、教育、小売り、文化活動など）を持続できなくなる都市のことを意味する。地方都市政府は、長い不況と産業の喪失が重なって税収基盤が脆弱化した。毎年度の財政運営もままならなくなっている。既存の都市インフラの更新はおろか、維持管理が難しくなる。今後、拡散型都市構造から集約型都市構造への転換が、喫緊の政策課題になる。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2060年の日本の人口は、8673万人になる。人口の減少は、低い出生率が長期間続くためである。特殊合計出生率は、2010年1.39、2024年1.35である。最近は、雇用不安が未婚率のアップ、少子化に拍車をかけている。30～34歳の未婚率は、男性47%、女性35%に達している（2010年国勢調査、日本経済新聞2012年10月27日）。

2010～2015年に、人口が増加する都道府県は、東京、神奈川、愛知、三重、滋賀、沖縄の1都5県に過ぎない。2030～2035年には、秋田、青森、和歌山、山口県の人口減少率は6%を超える。地方の中核的な都市でも人口減少が顕著である。人口の自然減に社会減が追い討ちをかけ、人口の減り方が激しくなる。2000～2006年には、人口10万人以上の都市の27.5%が人口を減らした（拙著『『都市縮小』の時代』角川新書）。2005～2006年に限定すると、10万人以上都市の45.5%が人口マイナス都市であった。22県都が人口を減らした。直近では、おそらく10万人以上都市の過半が人口マイナス都市である。人口が10万人に満たない地方中小都市の場合には、人口減少はさらに急激である。

高齡化の進展は、＜出生率の低下×長寿化＞のためである。2010年の平均寿命は、男性79.64歳、女性84.19歳。50年後には、男性86.39歳、

女性が90.93歳になる。その結果、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2060年の高齡化率（65歳以上）は39.9%に達する。長寿社会は悪いことではない。世界に自慢できる話である。人口の、年齢別構成がバランスを欠くこと（ピヤ樽型や逆三角形型）が問題なのである。若者や中年層のいなくなった高齡化都市では、日々の暮らしを支える経済的、社会的条件が劣化する。都市の持続可能性が危うくなる。

日本の人口は、中長期的にプラスに転じる気配はない。高齡化も止まらない。縮小都市が、都市類型の基本的パターンの1つになる。これまでの都市研究や都市政策は、成長や拡大を自明／当然として受け入れ、さらなる成長や拡大、あるいは成長を望ましい方向に管理／誘導（成長管理政策）するための研究、政策展開であった。都市が縮小することを前提に、政策を考案しなければならなくなったのは、初めての経験である。研究者や、政策担当者の戸惑いもそこにある。多くの地方都市が、縮小することを前提に長期計画や総合計画を立案することが出来ずにいる。

■縮小都市の「かたち」

長期間、人口が減り続けること、高齡者が社会の大部になることを受容し、持続可能な「縮小都市の「かたち」」を描かなければならなくなった。「かたち」というのは、単に建築的、物理的、可視的な意味に止まらない。人々の働き方／暮らし方を含む、都市の総体について考えている。一般的に「都市の縮小」を、否定的に捉える傾向が強い。しかし、最近の欧米の都市では、都市縮小を避けがたい現実として受け止める、そしてむしろ既存の都市資源を、環境負荷を軽減する方向で再構築し、持続可能な「都市の「かたち」」に転換するチャンスである——と発想を転換し、縮小を考える都市研究が力を得るようになった（ex.「Grow Smaller/Smart Declining政策」などと呼ばれる）。

縮小都市は、集約型都市構造に向かわなければならない。田畑、森林、湖水を潰して都市域を拡散させることを止めなければならない。「都市の密度」について再考することが必要になる。スプロールとは、移動を車に依存

する、土地浪費型の都市開発である（Andres Duany/Elizabeth Plater-Zyberk/Jeff Speck, *Suburban Nation: The Rise of Sprawl and the Decline of the American Dream*, North Point Press 2000）。スプロールは「無秩序な都市開発の結果」と定義されることが多いが、大概の場合は、都市計画に沿って計画的、大規模に行われてきたのである（ロバータ・B・グラッツ『都市再生』富田鞆彦／宮路真知子訳、晶文社 1993年）。

この間、地方都市政府の間で繰り広げられてきた大規模小売店舗や工場の誘致合戦、宅地開発競争のことを想起すれば、スプロール開発の大半が、行政が主導し、あるいは民間開発を容認し、計画的に取り組みられてきたことは明らかである。地方都市郊外の、幹線道路沿いの醜悪な風景は、しばしば計画的スプロール開発の到達点である。

成長主義がよし、とされた時代の都市政策では、都市間競争が奨励された。文化／スポーツ施設など公共施設の充足度を隣の都市と競い、公共投資を継続的に拡大することが地方都市政府の主要な政策であった。

しかし、その結果は、悲惨であった。隣接する都市同士が、隣よりも大きな大型店の誘致を競い合った。その判断自体は合理的であった。ところが実際には、自然が破壊され、競争に敗北した多くの大型店が空き店舗として放置されるようになった。広大な空き駐車場には、セイタカアワダチ草が繁茂している。荒廃した大型空き店舗は、街並み景観として醜悪だし、地域の治安悪化にもつながる。都市間競争を是とした結果の、「合成の誤謬」である。「隣の都市にあるのなら、うちにも欲しい」と立派な公共文化施設を建てたが、「あまり使われない」という公共投資のムダ話も耳にする。

都市縮小の時代には、都市間競争を推奨し、限られた都市資源を奪い合い、都市機能の充足を競い合うことは、もはや持続可能ではない。地方都市の都市政策は、従前の都市間競争主義を唾棄し、都市間連携を希求する方向に、コペルニクス的に路線転換しなければならない。都市圏単位で隣接する都市が協働する枠組みを構築し、都市圏全体として集約型都市構造を如何に実現するか、を考えなければ

ならない時代になる。

■京都府北部地域にみる高齢化

京都府北部地域（丹後）は、全国の人口動態に比べ人口減少、高齢化のペースが早い。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、府北部地域の人口減少は、府の平均を上回ってはるかに激しい。府北部地域にある4都市を調べると、福知山市の人口は、2010年の8.2万人から2035年には6.4万人に減る。22.0%の減少である。舞鶴市は9.2万人から6.9万人に、24.8%の減少。綾部市は3.8万人から2.7万人に、28.7%の減少である。宮津市は2.15万人から1.2万人に44.8%減、半減に近い。高齢化率も急ピッチで上昇する。京都府の2010年の高齢化率は23.4%、2035年には30.8%になる。府北部地域では、福知山市26.0%→35.0%、舞鶴市26.4%→34.0%、綾部市32.8%→40.4%、宮津市35.8→51.5%である。

上記の人口減少率も、高齢化率も、府の、あるいはそれぞれの都市の平均値である。当然、縮退は、域内で斑模様を描きながら進行する。人口の減少率、高齢化率がそれぞれの都市の平均を超えてはるかに速いスピードで進行する地区が多数出る。府北部地域の4都市では、「限界地区化」する集落風景が支配的なランドスケープになる。否、府北部地域4都市自体が、持続可能性を問われる、「限界都市化」の厳しい現実と直面することになる。

京都府北部地域は、国土開発軸の外に位置し、戦後、政府の開発政策から取り残されることが多かった。JR山陰本線は、園部駅以北が単線である。府北部地域は、これまで公共交通の便に恵まれなかった。高速道路の建設も遅かった。地理的には、中国山地の東端に位置している。地域の大半は、中山間地である。日本海、及び若狭湾沿いは、山が海に迫っている。海岸沿いの僅かな土地に、半農半漁の家並が散在している。農は棚田か、傾斜地の畑作である。冬の気候は厳しく、積雪が多い。「寒村」という表現を連想させる過疎地域である。

そのためこれまで、都市の成長を牽引する域外からの民間投資が行われることが少なかった。繊維産業が活発だった時代があっ

たが、日米繊維交渉、その後の途上国とのグローバル競争に曝され、昨今は衰退の極みにある。グンゼは、現在の綾部市内が創業の地である。JR綾部駅一帯に広い社有地を持っている。グンゼの旧本社など幾つかの歴史的建造物が残り、往時の盛況ぶりを窺うことができる。福知山市内にも大きな製造現場を持っていた。しかし、いずれも既に賑わいはない。社名の「郡是」は、^{いかるが}何鹿郡の養蚕農家と手を携え、地域の経済社会の振興に貢献することを社是に掲げていたことに由来している。しかし、今は養蚕農家も少なくなった。丹後地方で貴重な現金収入源になっていた機織りは、今や絶滅危惧産業である。

天橋立や丹後半島の舟屋群（伊根町）などが貴重な観光資源になっている以外は、他に内発的産業の発展は乏しい。総合大学もない。若者が就職、就学する場がない。高校を卒業すると同時に、京都市や大阪都市圏、東京に流出してしまう。すなわち、子供たちに対する教育投資を回収できない状態が継続し、地域全体が縮小の拡大再生産に陥って久しい。

■都市の中心性の階層化

成長と発展が前提された時代には、都市間競争が奨励されたが、それは隣の都市を殴打し、蹴落として独り勝ちすることを推奨する弱肉強食の世界であった。その結果、都市間の格差が拡大し、「合成の誤謬」が起きた。資源的にも、環境的にもムダが出た。しかし、都市縮小の時代には、そうした問題解決の方式は、もはや許されない。都市圏内の都市が協働し、都市間で限られた都市資源を再分配し、環境負荷を軽減する方向で集約型の都市圏構造を実現しなければならない。「資源／環境制約の大きくなった時代には、「所有」から「利用」へ、「個有」から「共有」に発想転換しなければならない」という主張がある。そのことは、都市についても真理である。

新自由主義的な、市場主義的な考え方に従えば、非競争的な社会は、効率が悪く、活力が乏しく、創造性が欠落すると説明される。しかし、それは競争、協働に対し一面的な評価である。『競争社会をこえて』（アルフィ・コーン著／山本啓・真水康樹訳、法政大学出版局、1994年）は、「競争」について仔細に論

教育機関は、重要な都市機能の1つである。「都市の中心性の階層化」の考え方に従えば、総合大学は、都市圏内にある最大規模の都市(A)に立地することが望ましい(図1)。単科大学などの場合は、それ以下の都市(B)に立地することが可能である。(C)の都市に

都市圏都市間関係

『社会的共通資本』（宇沢弘文著、岩波書店、2000年）は、社会的共通資本を以下のよう
に定義している。「1つの国ないしは特定の
地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済
生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間の
に魅力ある社会を持続的、安定的に維持する
ことを可能とするような社会的装置」である。

地域個別資本は、それぞれの都市に固有の都市機能を意味する。歴史的、文化的、地理的、自然的諸条件によって形成される、あるいは育まれる都市機能を指している。歴史的街並み空間を誇る観光の機能であったり、海辺の都市の港湾機能であったり、温泉町の機

能であったり、多様にあり得る。都市圏の最上位に位置づけられる都市以外の都市は、地域個別資本をよく養育し、その集積を高度化することによって輝くことが期待される。

■Tax-sharingをめざす

以上の議論は、都市圏の最上位に位置づけられる都市の独り勝ちを容認するものではない。最上位の都市が経済的、社会的、文化的に活性化すれば、そこから滴る益が、それ以下の階層の都市を潤す日が来る、その時になれば全体がハッピーになる、というトリクルダウン理論にも与しない。そうではなく、都市圏内の都市が負担と資源を再配分し、できる限りの公平性を追求する協働の型——都市間連携を求めることが考え方の基本である。

行政——消防、ゴミの収集と焼却、葬祭施設、公共交通、高齢者施設を含む健康福祉施設などを、都市圏内の都市間で如何に協働分担するかを、地域共通資本を集約して配置することと擦り合わせながら検討することが必要である。最終的には、都市圏内都市の間でTax-sharing（税の再配分）を目指すべきである。都市圏内の最上位都市は、中心性を高密度化することができれば、昼夜間人口の増加に結び付く。都市圏内で生じる経済的、社会的な利益を一方的に利得することになる。それを是正するシステムが必要である。Tax-sharingでは、ある基準年度を定め、以降の、例えば最上位都市の固定資産税の増収分の一定割合を、都市圏全体でプールし、再配分する。

Tax-sharingは、都市政府の財布の一部を共有する提案である。大方の研究者、行政職員は、「それは無理だ！」と発するに違いない。アメリカは市場主義の国である。しかし、アメリカのミネアポリス—セントポール都市圏では、Tax-sharingの実績がある（Myron Orfield, *Metro Politics, A Regional Agenda for Community Stability*, Brookings Institution Press 1997）。オハイオ州でも、Tax-sharingの導入を検討している（*Restoring Prosperity, Transforming Communities for the Next Economy*, The Greater Ohio Policy Center / The Brookings Institution Metropolitan Policy Program 2010）。決して机上の空論ではない。

都市縮小に対する研究者の関心、及び都市

政府の対応は、日本の場合、一般的に改善／改良／修繕タイプの施策の検討に止まっている。そうした立場からは、以上の議論は現実味が乏しく、空論と響くかもしれない。しかし、弥縫の積み重ねに終始しては、急激な人口減少、高齢化の下、「限界都市化」する地方都市を、持続可能な「都市の「かたち」」に誘導することはできない。ヨーロッパやアメリカの縮小都市に学び、縮小を、環境負荷を軽減する方向で既存の都市資源を再編するチャンスと捉え、縮小／再編のヴィジョンを構想することが喫緊の課題である。

■京都府北部地域を再編する

京都府北部地域——丹後地方には、福知山、舞鶴、綾部、宮津市がある。地域の中心都市は、福知山である。JR福知山駅に近づく、市内の小高い丘に明智光秀築城の城を眺めることができる。歴史的に丹後地方の中心であったし、農産物を含めて物資の集散地であった。現在も、京都、大阪、神戸から日本海に抜ける交通の要所である。JR山陰本線、福知山線が走り、北近畿タンゴ鉄道宮津線の始発駅である。何よりも昼間人口がプラスである。隣接3市、その他の京都府下、兵庫県都市——そのいずれとの間でも、昼間の流入人口が流出人口を上回っている（図2）。福知山市民の、市内就業率も87%と高い。

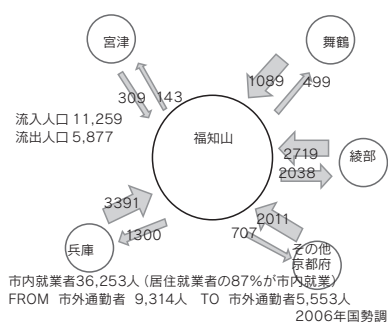


図2 福知山の昼間人口の流入・流出
＜福知山市の中心市街地活性化計画報告書＞

丹後地方を1都市圏と考え、福知山の中心性を階層の最上位に置き、丹後地方が必要とする地域共通資本を福知山の中心市街地に集約／集積する投資を促すことが望ましい。

- ①メディカルコンプレックス（高度医療施設を完備した総合病院）
- ②リテールコンプレックス（買い回り／エンターテイメント／洗練された飲食複合施設）

③高等教育のサブ・キャンパス・コンプレックス（京都市内にある複数の大学がサテライトキャンパスを持ち、カリキュラムの互換／共同履修などを可能にする⇒京都駅前にあるキャンパスプラザの発展型）

④カルチャーコンプレックス（パフォーマンス・アート館、図書館、美術館の複合施設）

京都市まで行かなくても、1）福知山で先端的な高度医療を受けられる（南房総の5万人弱の館山にある亀田総合病院は、東京のトップクラスの病院に負けない高度医療を提供し、地域医療にも熱心である）、2）京都市内に下宿しなくても一流の大学に通学できる（秋田県立の国際教養大学は、秋田市の郊外、交通の不便な過疎地区にあるが、開校後、短日で全国区の優良大学になった）、3）気の利いたエスニックレストランやブティックが並ぶ——など福知山の中心性が向上すれば、「都市の魔力」が育つ。福知山を、丹後都市圏から京都、大阪、神戸への人口流失を食い止める堰にすることを、ある程度できるようになる。丹後都市圏の持続可能性に寄与する。

ほかの都市は、地域個別資本の形成に力を注ぐのである。天橋立の世界遺産登録を目指す運動が起きているが、宮津には、ツーリズム関連の都市機能の集約を目指す道がある。丹後半島には、舟屋群の伊根や、網野など海辺の温泉町がある。その玄関口にある宮津は、観光立地に恵まれている。舞鶴には港がある。国際埠頭が完工し、大型コンテナ船が着岸できるようになった。今後は、環日本海の重要港湾として関西経済の物流基地を目指す。国際観光船の来航も期待できる。

隣同士の都市が横並びに、フルセットの都市機能を競い合う時代ではない。階層化し、補完しながら全体を集約型都市圏構造に導く方が、合理的、かつ全体の利益を最大にすることができる。その際、都市圏内で最大限の公平性が実現するように、民主的精神と専門的叡智が発揮されなければならない。

＜本稿は、サントリー財団の2012年度研究助成、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（関東学院大学）の研究助成を活用しました。龍谷大学LORC／OECD（経済協力開発機構）共催の国際ワークショップ（2012年9月29日）の議論を参考にしました＞

（やはぎ ひろし）

人口減少社会の 到来に備えて

～大阪府人口減少 社会白書から～

大阪府政策企画部 企画室計画グループ

■はじめに

三大都市圏（東京都、大阪府、愛知県）で最も早く人口減少を迎える大阪は、まさに今、日本の大都市がかつて経験したことのない人口減少社会への入り口に差し掛かっている。そのため、大阪府では、これから直面する人口減少社会がもたらす影響や課題を分析・整理し、府民にわかりやすくお示しする「大阪府人口減少社会白書」を2012年3月に策定した。

今回の特集では「脱成長の時代を考える」というテーマであるが、府の白書では、人口減少社会の到来に対して何も対策を講じなければ様々なマイナスの影響があることを問題提起する一方で、高度成長期における膨張・過密化の是正など、これまでの大都市・大阪が抱えてきた課題を変革するチャンスと捉え、「府民が安全で安心して暮らせる定住都市」「日本の成長エンジンとして持続的に発展する都市」の実現をめざすこととしている。

■「人口減少」の潮流

●総人口

大阪府の人口は2010年10月の国勢調査では887万人と、2005年の同調査から約5万人増加であった。しかし、過去の傾向をベースに今後の人口推計を行ったところ、30年後の2040年には724万人となり、30年間で163万人の急激な減少が見込まれる結果となった（図1）。

これは、高度成長期である1968年の722万人に相当する人口であることから、1968年から1998年までの30年間で増加した人口が、そ

の後、現在に至る10年あまり維持され、これからの30年間で同程度減少することとなる。

●高齢者人口・生産年齢人口・年少人口

高齢者人口の割合は年々増加し、2040年には、全体の38.4%を占める。一方、生産年齢人口の割合は、2040年には、現在の64.4%から52.4%まで減少。年少人口の割合は、9.3%と全体の1割未満を割り込む。

人口構成上、特徴的なのは、昭和30年代に大量流入した「団塊の世代」と、その子供達である「団塊ジュニア世代」。10年後には「団塊の世代」が全て高齢者になり、30年後には団塊ジュニア世代も高齢期に突入する。この2つの大きな波が、大阪府の人口構成を大きく変動させていくこととなる。

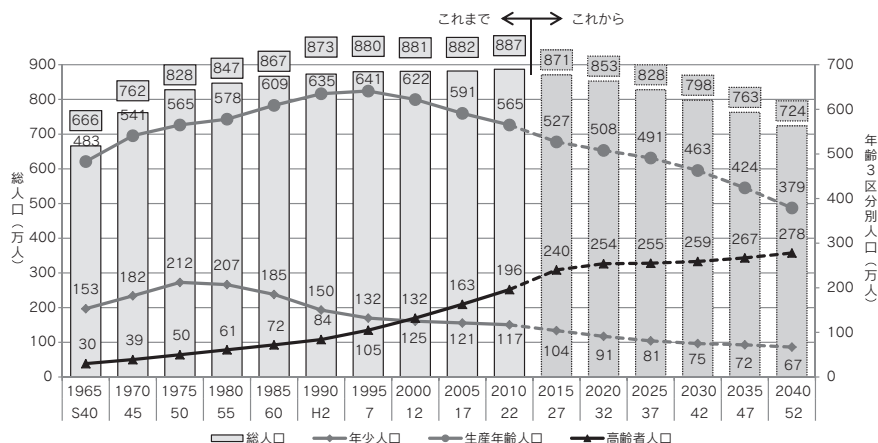
●社会移動

大阪府の社会移動の状況をみると、1976年以降、1995年を除き、一貫して転出超過の傾向が続いている。

但し、2011年は、東日本大震災の影響もあり、転入者が転出者を上回る「社会増」となった。年代別にみると、15～24歳は転入超過であるが、他の年代は概ね転出超過傾向で、特に30～39歳の転出超過が顕著である。中堅世代の人口流出による労働力の減少、活力の低下が懸念される。

■影響と課題

人口減少社会においては、高齢化による生活不安の増大、生産年齢人口の減少による経済成長への悪影響、人口減少・世帯数の減少による空き家・空き地の増加など、府民の生活や経済、都市構造など様々な分野において影響が予測される。



出典：2010(H22)年までは総務省「国勢調査」。将来推計については、大阪府「大阪府の将来推計人口の点検について」(H21.3)における大阪府の人口推計(ケース2)を基に、府試算。

図1 大阪の人口推移と将来推計

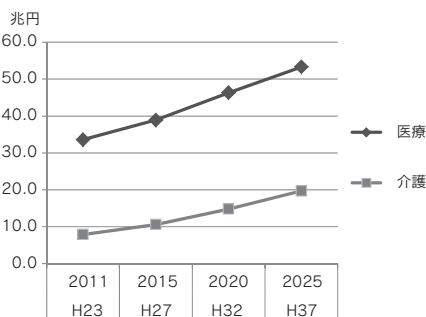
ここでは、「経済」「都市」の分野から、人口減少社会が与える影響、課題をいくつかお示しする。

●経済分野

人口減少下においては、大阪全体の経済規模の拡大は難しくなるものの、中長期的に一人ひとりの豊かさを確保する観点から、一人当たりの府内総生産等の持続的成長をめざしていくことが重要と考える。

(1) 国内市場の規模・構造の変化

一人当たりの消費量や所得が増えない限り、消費市場は縮小すると見込まれる。構造面で見ると、住宅や車、子ども用品など人口が減少する子ども・現役世代向けの市場で縮小の恐れがある一方、医療・福祉関連産業等、人口が増加する高齢者向けの市場は大きな拡大が見込まれる（図2）。また、国内市場の縮小を補うためには、海外需要の取込みも重要である。



出典：厚生労働省「参考推計 社会保障に係る費用の将来推計について」

図2 社会保障に係る医療費・介護費の将来推計(全国)

(2) 生産年齢人口減少による労働力の減少

減少する労働力人口を補うためには、女性や高齢者等の潜在的な労働力を活かす観点が重要。加えて、労働者一人ひとりの能力向上により生産性向上を図ることも不可欠となる。

●都市分野

大阪府では、高度成長期の人口増加に伴い、都市インフラが次々と整備され、市街地は大きく拡大（図3）。さらに、工場等制限法（1964年～2002年）によって、大阪市内を中心に工場や大学等の立地が制限されたため、郊外への分散、都心部の空洞化が一層進んだ。近年は、人口停滞期に入り、都心回帰の傾向がみられる。

今後の人口減少を踏まえると、計画的な土地利用の誘導や都市構造の転換が重要と考える。

(1) 都市インフラの需要の変化

生産年齢人口の減少等により、鉄道・バスなどの利用者数は減少傾向にあり、公共交通の利用促進等によるサービスの維持や地域住民の協働等による移動手段の確保が求められる。

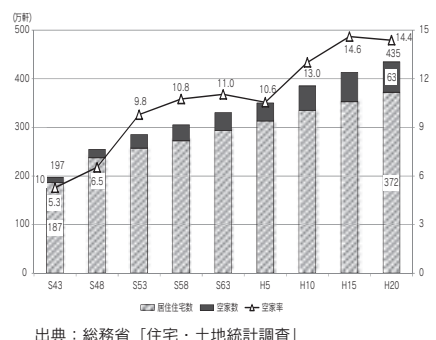
また、市街地の拡大にあわせて整備してきた都市インフラは、人口減少期に更新時期を迎えることから、将来に向けて長寿化や計画的な維持管理が不可欠である。あわせて、高齢者の増加に伴うバリアフリー化などを進めることも必要と考える。

(2) 都市魅力の向上

人口減少の中、交流人口を増やし、にぎわいや活力を維持していくためには、新たな文化や価値観を創造できる魅力ある都市であることが重要である。今後、人口減少に伴い余剰空間の発生が見込まれるため、これまで利用が限られていた公共空間や過密であった地域にも、みどりの創出や新たな都市魅力創出の可能性が期待される。

(3) 住宅供給の過剰、需給ミスマッチ

現在、府内の住宅ストックは世帯数を大きく上回り、空き家が増加している（図4）。人口および世帯数の減少が進むと、郊外を中心に今以上に住宅ストックの流動化や他用途への転用等、有効活用を図ることが重要となる。



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

図4 住宅数、空き家数、空き家率の推移(大阪府)

■人口減少社会に向けた対応

人口減少社会の到来は未曾有の変化をもたらし、今後数十年単位で続くものと思われることから、この変化を単にマイナスにとどめることなく、プラスにしていけることが重要で

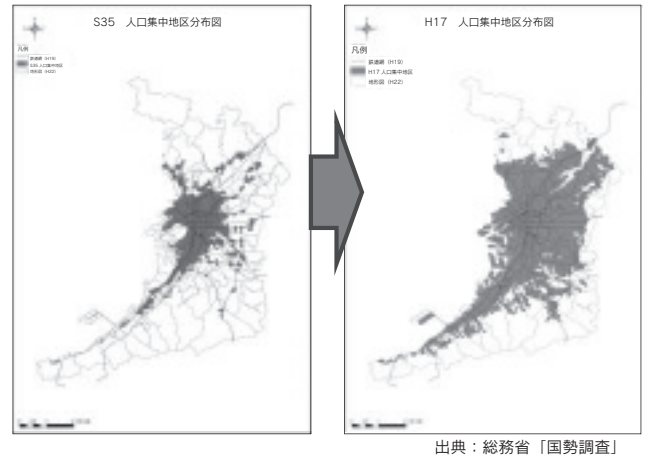


図3 市街地の拡大(人口集中地区の分布)

ある。

このため、白書では、3つの観点から、人口減少社会に対する取組みの方向性をまとめている。

◆「変革のチャンス」：都市の拡大を前提とした仕組みから、今あるストックを長く効果的に使う仕組みに転換するなど、制度疲労を起こしている高度成長期等につくられた制度や仕組み、そして考え方やライフスタイルを改革する。

◆「将来への備え」：高齢者世帯の急増に対し、地域社会が高齢者単独世帯等をサポートできるよう地域コミュニティを再生するなど、将来顕在化、あるいは、今後ますます深刻となることが見込まれる課題に対して、しっかりと備える。

◆「持続的発展」：人口減少によって生まれる余剰な空間やストックは、新たなサービスや産業の資源となる可能性があるなど、プラス面を見出すことで、新たな価値の創造につなげるにより持続的発展の実現をめざす。

■おわりに

人口減少社会の到来に対応するためには、府はもとより、国、市町村、経済界、そして、府民一人ひとりが課題を共有した上で、様々な制度・仕組み、地域社会のあり方、生活スタイル等を人口減少社会にふさわしいものに変えていくが必要である。

今回の白書が示した影響・課題をオール大阪で共有し、人口減少社会下においても「明るく笑顔あふれる大阪」を実現していきたいと考えている。

ストック活用型の 団地再生

—観月橋団地再生計画—

株式会社星田逸郎空間都市研究所

星田逸郎

1958年 大阪府生まれ。
1981年 神戸大学工学部環境計画学科卒業。
設計事務所勤務の後、2001年星田逸郎空間都市研究所設立。都市プランニング、地域計画から集合住宅・個人住宅の設計やランドスケープデザインなどを行う。ストック改修関係としては武庫川団地再生マスタープラン（2001～2005）、向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験（2008～2010／都市住宅学会賞）、観月橋団地再生計画（2011～2012／都市住宅学会賞・グッドデザイン特別賞）、「団地再生まちづくり2・3」水曜社（共著）、「向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験」学芸出版社電子書籍（共著）などがある。

日本の伝統的な住空間である辻や露地、縁側や土間などは、家人と近隣とが適度に触れ合える領域であり、幼児や子供・老人が家族だけでなく身近に共存し、それが人間形成の潜在的な教育にもなっていた。また住まい手が居住環境に対して自ら考え、手を掛け、四季の快適環境のための簾や障子、水打ちや道の掃除などを通して、日常の細やかなドラマや感受性が保たれてきた。場所との関わりが深いほど人間としての居場所やアイデンティティの確立が得られやすい事は精神医学や社会学など様々な分野でもいわれている。

現在の日本の状況を見るに、建設に際しての経済・制度・政策等を総合した広義での社会の設計能力（事業・政策・設計条件をデザインする力）は劣化の一途をたどっていると言わねばならない。高度成長の時代を終えてもなお短期の最大限の利潤確保を優先し、高容積化、中間領域の消失、地形や場所的経歴の消尽、機能やコスト・環境など過度に単純化された空間設計のパラメーターの貧困などが進んでいる。今なぜストック改修なのか。私にとってそれは、余剰床が確保できず一括建替えが出来ないから、エネルギー抑制の時代が到来するから「仕方なく」なのではない。あくまでも住環境と暮らし・人間の文化が良好であるための選択が何なのかを考える上で数少ない有力な選択肢として有る。

今回の観月橋団地のような、築後40～50年を経たRCの中層階段室型団地は多く存在するが、EVの不在や、排水管の老朽等の課題もある半面、半世紀を経た樹林に覆われた屋外環境や、地面に近い住宅、全ての住戸が階段室に面しコンパクトな近隣単位を持ち、建築の奥行きが浅く（6.3m!）北廊下がないため窓は南北に開放出来通風や光環境は素晴らしい。以下に、観月橋団地で行ったリノベーションPRJの概要を紹介する。



図1 現況平面図



図2 現況立面図平面図

■観月橋団地と再生事業

観月橋団地は京都市伏見区にある、昭和37年管理開始のUR（都市再生機構）の賃貸団地である。「集約型」と呼ばれる再編手法により、当初の14棟540戸の内、4棟140戸を撤去し街を活性化する他用途の2街区として譲渡する（図3）。残る10棟400戸にも多数の空き家があり、その入居促進の為に住戸改修と募集が今回の業務である。



写真1



写真2

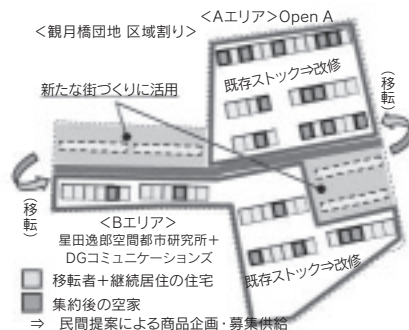


図3 配置図

約50年の歳月を経て団地内の樹木はケヤキ街路を中心に住棟を超える高さまで育ち見事な緑に包まれた環境を形成している（写真1、2）。一方入居者の高齢化に加え、奥まった立地のため実際の魅力が見えにくく、コミュニティや地区イメージの再編が必要であった。我々は、事業としての入居促進と、住環境計画としてのコミュニティの活性化を目指し、今回対象の60戸に若い世帯を呼び込む事を目標とした。

今回は民間のノウハウを大きく取り入れる事を目的として、我々民間チーム（Aエリア：（株）オープン・エー、Bエリア：（株）星田逸郎空間都市研究所+（株）DGコミュニケーションズ）に対して、マーケティング、企画、事業

計算と家賃設定、設計、積算、監理、広告、募集案内までを1つのバック業務として任されることとなった。一般に公的業務が部署に分化しがちな中で画一的な試みである。

■住戸改修の試み

住戸は50年を経て老朽し色あせてはいたが、周辺環境の豊かさや光と風の入る開放性が感じられた。全ての窓から全て違った魅力の緑や眺望が楽しめる事はカタログに載らない財産である（写真3）。



写真 3



図 4 現況平面図

プランは、1DK、2DKが2タイプ、3DK（図4）とあり、それぞれ和室を中心に構成された機能的（多様な住みこなしが可能）でコンパクトな典型的な団地プランである。

入居成約の多寡に比例して我々の業務費も減額されるという有る意味画一的なルールであるため、工事コストは家賃アップの限度と連動した配慮が必要であり合理的で且つ効果の高い改修デザインが必要となる。我々の改修のポイントは大きく3つ（図5）。

- 1) 豊かな屋外環境を目いっぱい取り入れるため空間を開放化しシンプルに明るくする。
- 2) 新しいデザイン要素を最小限に絞り、経年の空間との対比で魅力をつくる。
- 3) 畳を和洋を問わないニュートラルな素材と見直し合理性とデザインを両立する。

新しいデザインとはリビング中央の白いプレートリングである。これは様々な設備や配線配管を収納するダクトであり、荒々しい既存の内観を新しいツルツと白い表面が引き締める

デザインとなる（図6、写真4、5、6）。

Aエリア側も土間プランや北リビングなど、団地における新しい斬新なプラン型を創出している（写真7）。



図 5 改修平面図



図 6 住戸アクセスメ



写真 4



写真 5

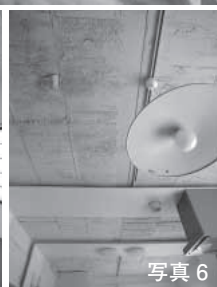


写真 6



写真 7

■団地全体のデザイン

住環境計画だけでなく事業戦略としても、住戸だけでなく団地全体の再生計画による魅力や暮らしの向上が不可欠である。外壁改修

工事に伴い、我々が色彩計画や住棟ロゴ・サインデザイン（協働：ASYL佐藤直樹氏）も担当した（写真8）。50年前の住棟はシンプルでエッジの効いたフォルムと温かい肌合いを持つヒューマンスケールの建築であり、白を基調としたモダンでシンプルな色遣いで十分美しい。我慢というデザインの態度こそが旧建築を逆に際立たせる。



写真 8

■広告と募集

広告は、駅広告から団地WEB、設計者のブログや現地案内者によるTwitter、更には有名なWEBサイト「東京R不動産」を運営するオープン・エーがこれを機に「団地R不動産」を開始する事となった。



図 7 団地WEB・ブログ

■再生計画の継続

今回の募集は若い需要層に受け入れられ、抽選や募集開始では文字通り行列が出来るほどの活況を呈した。完売だけでなくまだまだ需要層が次の展開を待っている。新しい住まい手と我々のコミュニケーションもあり家具配置のアドバイスやTV撮影も兼ねたお宅訪問など繋がりが継続している。新旧の住民の共生を願う我々設計者としてはそのお手伝いをしたいと企画を練っている所である。

また、屋外空間の外構整備も控えており、我々としては住まい手が住戸だけでなく団地という街に暮らせて新旧が仲良く暮らせるようなスペースを、従来の作り過ぎ押しつけ型の整備でなく、渋くシンプルにニュートラルな感覚であたって行きたいと思っている。

（ほしだ いづろう）

脱成長時代における「減築」という選択

京都工芸繊維大学大学院教授
工学博士

鈴木克彦

1953年静岡県生まれ。
大阪大学工学部建築工学科卒業、同大学大学院修了後、京都工芸繊維大学工学部住環境学科助手を経て現職。工学博士。一級建築士。
2004年に日本建築協会「建築と社会」賞（論考部門）、2008年に日本マンション学会論文賞、日本建築学会賞（論文）、2010年に都市住宅学会賞業績賞（共同受賞）等を受賞。著書に「建築協定の運営とまちづくり」（鹿島出版会、1992）、「現代建築学 建築計画1」（共著、鹿島出版会、2002）、「マンション学事典」（共著、民事法研究会、2008）等がある。

■脱成長時代の到来

政治家やエコノミストからは「経済成長」や「景気回復」というスローガンを耳にすることが多くなった。かつての高度経済成長期に味わった経済的に豊かな時代の夢が忘れられないようである。しかしながら、いまや少子高齢社会が進行し、大阪府の人口総数は2010年の887万人から30年後の2040年には724万人に減少すると見込まれている。この人口減少傾向は、3大都市（東京都・愛知県）の中で最も深刻な状況である。住宅ストック数もすでに世帯数を上回り、空家は700万戸を超えている。一方で、経済活動はますます縮小し、企業利益や労働賃金などの所得は減少傾向が続いている。

このように脱成長時代を迎え、建築に対する量的需要が急激に収縮している社会になっても大規模マンションやオフィスビルは次々と建設され、各地で「共有地（コモンズ）の悲劇」^注が繰り返されている。その結果、良好な住環境は変貌を余儀なくされ、夜になっても明かりの灯らないマンションが増加し、郊外住宅地は空き地だらけ、オフィスの空室率も一向に改善されない状況が続いている。



写真1 空き地が目立つ郊外住宅地

■経済成長なき社会発展

戦後の過去60年間は開発の時代であり、人々の願望や空想を駆り立ててきた。しかし、開発を繰り返したことによって環境や社会、経済、文化、政治など全ての面で深刻な危機をもたらすことになり、万人の目標を達成することはもはや不可能な時代となった。いまや開発幻想から目覚めるときであり、不断の経済成長という神話から脱却し、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムからの抜本的な構造転換が求められる時代になったのではないだろうか。

このような時代を迎えた中、経済成長を前提としない社会発展というテーマが関心を集めている。そのキーワードが「DECROISSANCE」である。これは不断の経済成長というパラダイムを批判する概念であり、脱成長の時代を象徴する考え方として各界で注目されている。2008年10月14日、フランスの国会で緑の党のイヴ・コシェ議員が「もはや成長を追い求めることは反経済的であり、反社会的であり、反エコロジーである」と断じ、DECROISSANCE という価値観の重要性を主張したことで注目されることになった。これまで繰り返されてきた成長社会の破壊的仕組みから脱出するための方向転換の分岐点として、「脱成長」という考え方に注目が集まっているのである。

■「減築」による都市の再生

脱成長を象徴する建築行為が「減築」である。工事コストを費やして建築規模を縮小することには、高度経済成長期の経済モデルを妄信している市場原理主義者には非常識と思えるであろう。しかし、減築したことによって空間の価値や耐震性が向上し、コミュニティが再生した事例は多々見られる。ドイツのライネフェルデーヴォルビス市では、東西ドイツの統一に伴い、人口1.7万人のうち1989年までに毎年500人もの人口が流出し、都市の大半を占めるライネフェルデ団地でも1/4が空家となった。その対策として、1994年から政府の補助金を導入することにより、住棟全部や必要のない住戸の取り壊し（減築）を実施した。その結果、大幅に改善された住環境に魅力を感じた企業が進出することになり、減築された建物を社宅として活用することで人口は増加に転じ、失業率も改善された。解体されたPCパネルも戸建住宅の壁面としてリユースする等、資源活用がなされている。



写真2 減築された住棟（ライネフェルデ団地）

同様な試みは欧州各地で展開されている。アムステルダム市の住宅不足解消のために建設されたベルマミーア団地では、移民の増加もあって住環境の荒廃が進み、空家率が25%にも達してコミュニティが深刻な状況に陥った。荒廃したコミュニティを再生するために、市と住宅協会は10～12階建の高層六角形ブロックの半数を取り壊し、小スケールの低層住宅群に建て替えることを決定し、残る高層ブロックは「ベルマミーア博物館」としてリノベーションすることになった。この団地では住宅形式や所有形態に幅をもたせることによってソーシャルミックスを進め、画一的な「団地」から多様な都市機能を入り混ぜた「まち」へと変貌しようとしている。



写真3 減築工事中のベルマミーア団地 (2012)



写真4 低層住宅に建て替えられた住区

■向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験

我が国も「つくっては壊す」フロー消費型社会から「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」ストック型社会への転換期を迎えている。こうした社会状況を背景に、UR都市機構により向ヶ丘第一団地においてストック再生実証試験が実施された(2008～11年)。筆者らも共同研究者として参加したこの先駆的な技術開発プロジェクトは、昭和35年に管理開始された中層階段室型住棟を活用して高経年団地の再生の可能性を探ったものである(詳しくは「建築と社会」2011年1月号を参照)。

再生にあたっては既存環境の良さを最大限に継承しつつ、魅力ある集住体に再生すべく多様な住棟改修を実施したが、エレベータがなくアクセスが不自由な上層階を「減築」する試みも実施した。26号棟(壁式4階建)では「サスティナブル・コミュニティに向けた団地再生」のテーマのもと、最上階の一部を減築して「共用ルーフテラス」を新たに創出した(写真5)。竣工後に行った生活検証試験では、居住体験者から「ぜいたくな空間で、つつい、くつろぎに出たくなる。おそらく自然に近所つきあいが始まりやすいのでは。」(40代男性)等のコメントが寄せられた。



写真5 一部減築によって創出された共用テラス

28号棟(ラーメン式5階建)では、アクセスの不便さから空家率が高くなりがちな上部2層を全面的に減築する施工を行った(写真6)。2層減築した結果、コスト面や居住中における減築工事の安全性と防水性能の確保については課題ではあるが、IS値の足りないラーメン構造5階建住棟を耐震改修工事することなしに耐震性を確保できることが確認できた。また、景観の改善や空間価値の向上に対しても減築の効果が検証できた。

■脱成長時代における「減築」の可能性

建築基準法等の現行法体系は新築を前提とした内容となっており、減築という建築行為は規定がない。ストック型社会に向けて、私法や行政法を含め、ストックの有効活用を視野に入れた法整備が望まれるが、今後は人口減少を社会背景として減築が求められる条件(土地利用変更による日影規制への適合、空室率の増加による治安の悪化等)が整えば、デザイン手法の一つとして選択される可能性を十分に備えている。密集市街地の更新においても、減築を主とした立体区画整理のような手法により市街地の安全性と住環境の質を向



写真6 上部2層減築による住棟再生

上させていくことが考えられよう。容積率を最大限利用することが最適解である時代は終焉したのである。Smart Decline(かしこい縮小)の時代の到来である。

最後に、「脱成長」の時代を予測していたメキシコの経済学者グスタボ・エステバ(1992)の言葉を紹介する。(引用文献:ヴォルフガン・ザックス編、三浦清隆他訳「脱『開発』の時代」晶文社、1996)

「私たちは、そろそろ現実感覚を取り戻すべきだ。開発幻想から目覚めなければならない。借り物の開発の夢など見ずに、自分たちの夢を見ようではないか。」

注) 多数者が利用できる共有資源が、乱獲を繰り返す結果、資源の枯渇を招いてしまうという経済学における法則。生態学者ギャレット・ハーディン氏(1915～2003年)が1968年に発表し、広く認知される。

(すずき かつひこ)

京町家の利活用

株式会社八清 代表取締役社長

西村孝平

1950年 京都生まれ。
 1973年 立命館大学経営学部卒業
 1973年 積水ハウス京都営業入社
 1975年 株式会社八清入社
 2000年以後、京町家を中心とした中古再生販売業務をメインとした不動産業を営んでいる。
 過去の主な再生事業：京宿家（町家の1棟1組の宿屋）、京だんらん（京町家のシェアハウス）
 その他の事業：京町家検定（パソコンによる検定）石畳プロジェクト（通路、私道の石畳化）など。
 京都府コンサルティング協会と共同事業：京町家証券化（1億500万円の証券発行）まちや絆プロジェクト（管理信託による京町家再生事業参画）など。

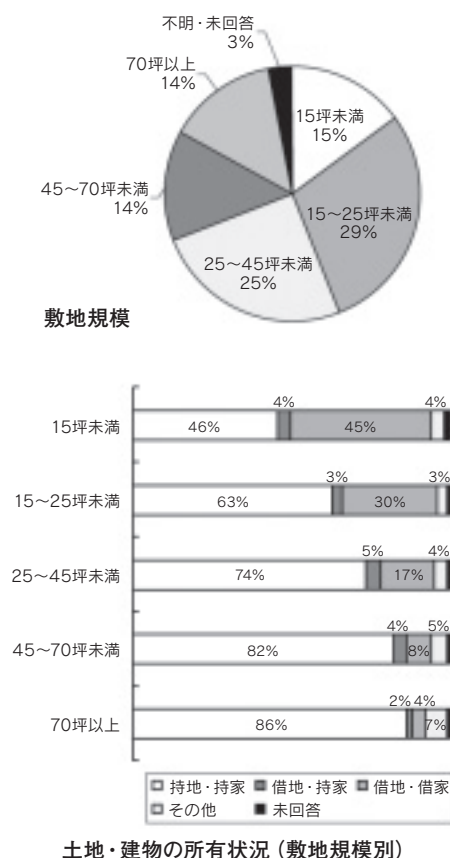
■京町家の調査

47,735軒、これは京都市等が2008年10月から2009年3月に悉皆調査した京町家の件数である。エリアは京都市の中心部から伏見までの広範囲であるが、区画整理地区は除外されているので実際には5万軒を優に超す京町家が現存することは間違いない。

調査時のアンケートの回答も含めて概要をお伝えする。建物の状態は68%が良好で、不十分または修理が必要な町家は32%である。空き家は前回調査よりも増加して10%、約5,000軒である。これは京都市の空き家率（14.1%）より少ない数字である。

所有者の年齢は予想通り60歳から70歳台が70%を占め、持ち家が68%であった。敷地規模は25坪以下が44%、25坪から45坪が25%で、45坪未満が全体の70%弱と小規模の町家が多くを占めていることがわかる。

また、居住者の意識調査では、回答者の50%が京町家とは認識せず「普通の本造住宅」と捉えている所有者が多いことが特徴であり、最近の10年間に水回りを一番とする改修をしている町家が61%もあった。



京都市・財団法人京都市景観まちづくりセンター・立命館大学「平成20・21年度「京町家まちづくり調査」記録集」（2011.3）より

京都の街並みを特徴づける京町家は戦災に遭わなかった。そのおかげで5万軒を超える町家が現存するが、毎年2%（約1,000軒）の京町家が解体されている現実がある事も見逃してはならない。何故解体されるのかはいろいろな理由があるが、間取りが今のライフスタイルに合わない、設備が老朽化している、厨子二階など建物が土地の有効活用に合わないなどのほか、所有者の高齢化による相続の処分と関連するケースも散見する。

■京町家の活用

当社が本格的に京町家の取扱いを始めたのは2001年、今から11年前である。京町家の保全・再生を目的としたNPO法人京町家再生研究会の不動産流通部門の立ち上げの協力と参画を要請された時である。

当初は京町家が仕事になるかならないかは半信半疑の状態であったが、改装を施さない京町家のオープンハウスを初めて実施した時に、私の考えは変わったのである。購入は別として非常に多くの方が見学に来られ、また驚いたことに今まで経験したことのない幅広い年代の来客があったのである。これは「行ける」。京町家は、今のライフスタイルに合った改装を施せば、若い人に絶対評価される住宅であると。

2005年8月には当社の京町家モデルハウスが中京区の壬生に完成し、リ・ストック京町家としてオープンした。全改装した京町家の反響が知りたくて取得したアンケートは、当社のリノベーションの基本になった。

あくまでも京町家の意匠を残し、若い人でも受け入れられる設備をつけ、狭いながらも坪庭を作庭、上がり降りが不便な「通り庭」は和室と一体にした杉の無垢材の床に柿渋を塗った自然素材のダイニングとし、食堂のテーブルには炭火の使える炉を設置、風呂は桧板を壁に張った木の香りのする浴室に、トイレの手洗いは信楽焼のボウルを使い、モダンで木の香りがする京町家が完成したのである。

今まで評価された京町家の良さを新築の住宅と比較すると、京町家は新築に比べてスペックや快適性ではまず菌が立たない。しかし、自然とのかかわりを持つことができる住

宅であり、ある時には樹齢300年を超える縁甲板を使った内縁が施してあるなど「木の文化」を楽しめたり、機械では作れない、今では高価で手に入れることのできない木製の建具を使ったり、暑くなると夏の室礼に建具の入れ替えなど季節を感じながら「暮らしの文化」を楽しむことができる。また坪庭には癒しや風を運ぶ「空間の文化」があり、火袋や大きな梁は広々とした圧迫感のない空間を、千本格子や瓦屋根も美しいリズム感のあるファサードを作っている。

居住用以外の京町家の活用方法として「京貸家」を開発した。今まで、改装していない古い町家ばかりが流通していた貸家のなかで、当社の「京貸家」は若い人たちから人気を集めた。ライフスタイルに合わない昔の町家をモダンにすることで新築のマンション並みの賃料で貸すことが出来、なおかつ路地状敷地に建つ再建築不可の「京貸家」は採算の良い商品となった。

リ・ストック京町家の販売をする中で興味ある活用の購入者が現れた。それは居住でもなく、貸家でもない、宿泊施設としての町家であった。当社は早速宿のニーズを調査。観光都市京都には年間5,000万人もの観光客が四季折々訪れる。宿屋として1日1組の貸切宿屋は京都へ来る観光客に受け入れられるのではないかと。特に東京などの住居形態はほとんどマンション暮らし。築100年の京町家は新鮮で、なおかつ旅館のように傍目を気にすることなくゆっくりくつろげる空間は商品になるのでは。但し当社は不動産業者。旅館業をすることは本業ではない。商品として京町家の宿屋を収益物件として売ることを考えた。

今まで、市の中心部にある京町家の店舗の中には、大きな空間を求めるあまり、柱や壁が取り除かれ、構造的にかなり無理をしている飲食店が散見していた。そのような折に、京町家の宿屋はほぼ住宅の形態の間取りのまま活用できるため将来住宅に転用することも簡単であり、京町家の収益物件として「京貸家」以上の収益を望める商品となったのである。2009年から販売を開始した。商品名を「京宿家」として、外国人の宿泊施設「マチャレジデンスイン」も含めて現在16軒が稼働し、当社の商品ではないがプロデュースした宿屋

が6軒あり、3年間に合計22件の京町家の宿屋が稼働している。「京宿家」は収益物件としての京町家の利活用であり、このビジネスモデルは京都商工会議所の第1回知恵ビジネス認定企業に認定され、商工会議所からのバックアップもあり、京宿家という宿泊施設が認知されるようになった。またこのビジネスモデルは京都府中小企業優良企業として表彰されるきっかけになりメディアにも多く取り上げられた。



京宿家さくら庵

今までの利活用が比較的狭小な京町家に限定されていたため、解体される大型の京町家には頭を痛めていたところへ、東福寺の近くに大きな京町家が仕入れできることになった。

今まで貸家では出来なかった賃料が取れること、京町家は若い人から人気があるなど、京町家のシェアハウスは人気が出るのではないかという思いで「京だんらん東福寺」を2011年3月に完成させた。大きな特徴はだんらんのできる共有スペースが建物の50%あり、楽しめる空間である。また、入居者がだんらんしやすい管理を心がけ、ルール作りに苦心した。学生を入れない社会人だけの住まいとし、当社が共有部分の清掃から管理までを一括管理することで、賃料が安いだけのシェアではなく事業介在型のシェアハウスとしてオープンした。男性3人女性3人の計6人が入居し、完成後1年半経過したが、入居者は和気藹藹と生活を楽しんでいる。



京だんらん東福寺シェアハウス

■京町家の利活用の課題

京町家を利活用するにあたって、問題点の第1は建築基準法の条項にリノベーションに対する具体的な施工基準が少ない事である。第6条に大規模の模様替えと大規模の修繕の項目があり、第2条の定義には大規模とは主要構造部の過半にわたる修繕もしくは模様替えを言うのであるが、主要構造部である階段等の改修ができない事にある。建築基準法が1950年に施行されたこともあり、100年も経過した京町家を改修やリノベーションすることは想定されていなかったのである。世の中がストック活用と言われている現状を鑑みると、建築基準法が時代に合っていない現実がある。また京都には路地ろうじと言われる突き当りの通路に接道している再建築不可の住宅が803軒あり、解体すると空き地にしかならず、なおかつ狭小敷地が多く風呂もない。リノベーションして再生しても、風呂のない住宅はニーズがなく、既存不適格住宅として増築することもできないという建築基準法と活用の板挟みになってしまう事である。

京都らしい「木の文化」の象徴としての京町家のような戦前の建物には、建築基準法の防火規定など今の建築基準と整合性を持たすのは難しい問題である。

また、シェアハウスなど京町家の有効活用は新しい居住形態であり、全国的に取扱いについて議論されているが、京都においては規模にかかわらず、シェアハウスを「寄宿舍」に認定したようである。当社の第1号シェアハウスは住宅と認定され用途変更の必要がなかったが、次に計画した「京だんらん島原(仮称)」は「寄宿舍」と認定されたため、用途変更のために確認申請が必要となり、防火や仕上げ面で難しい問題や施工基準を要求されている。社員寮のような大規模のシェアハウスと当社の取り扱うシェアハウスに同じ安全基準を求めると、折角の京町家の活用が出来なくなってしまう。京町家の有効活用を望むならリノベーションを後押しする運用を望むところである。

(にしむら こうへい)

まちの魅力と 活力を引き出す 「まちなかバル」

～日本版「メインストリート
プログラム」をめざして～

株式会社地域計画建築研究所
(アルパック) 大阪事務所長

中塚 一

1961年京都府生まれ滋賀県育ち。
広島大学工学部第四類建築学科卒業。
住友林業株式会社を経て、1988年(株)地域計画
建築研究所(アルパック)入所。
2012年取締役大阪事務所長に就任。
技術士(建設部門:都市及び地方計画)、一
級建築士、中心市街地商業活性化アドバイザー。
専門分野は、地域・まちづくり支援、市街
地・住環境整備、都市デザイン。
著書:「地域のチカラ」(共著、自治体研究
社)など。

■時代の転換期における「元気なまち」とは？

現在、私達を取り巻く社会経済情勢は、特
集テーマ「脱成長の時代を考える」の通り、
世界的規模で変革期の真っただ中である。ま
ちづくりや再開発の現場においても、従来の
社会システムや仕組みが機能不全を起こし、
特に、各地の中心市街地においては、「シャッ
ター通り」と揶揄されるように、完全に機能
不全に陥り、「そもそも商店街は、もう要ら
ないのではないか？」という意見も多く聞く。

そのような情勢の中で、今、「元気なまち」
「元気な人々が集まるまち」として着目を集め
ているのが、兵庫県伊丹市の中心市街地「伊
丹郷町」である。

■歴史・文化的資源が集積した「伊丹郷町」

伊丹市は、大阪国際空港(伊丹空港)の西
側に位置する人口約20万人の衛星都市であり、
大阪から約10km、神戸から約20kmのいわゆる
ベッドタウンとしての性格と猪名川沿いの内
陸型工業都市としての性格を有するまちであ
る。古くは、摂津国の西摂とよばれた土地で、
伊丹城(有岡城)の城下町として、また江戸
時代には「清酒発祥の地」として発展した。

伊丹市の中心市街地である「郷町」におい
ては、日本三大俳諧コレクションの柿衛文庫
など個性豊かな芸術・文化施設が9施設立地
しており、さらに酒蔵を飲食店と企業博物館
にリノベーションした白雪ブルワリービレ
ジ長寿蔵や、築330年を超える旧岡田家住宅・
酒蔵などの歴史・文化的資源が多く残ってい
る。



酒蔵をリノベーションした飲食店等

■まちを「作る」から「使う」時代への転換

このような歴史・文化的資源が豊富で、東
西南北の歩行者優先道路や中央部の三軒寺前

広場などの基盤施設が整った郷町であるが、
空き店舗の増加、小売り販売額の減少など商
業機能の低迷や、南北方向の歩行者通行量の
減少など、その魅力ある既存ストックを十分
に生かし切れていない状況にあった。

いわば、まちを「作る」時代から、市民
(伊丹を愛する町衆)がまちを「使う」時代へ
と転換していく節目を向かえていた。

■伊丹版メインストリートプログラムの展開

このようなパラダイムシフトに際して、伊
丹市では、町衆のまちへの愛着や誇り(ハー
ト)を基本に、様々なまちづくり活動(ソフ
ト)を展開し、そのために必要な場(ハード)
を段階的に修復整備するという手順で、事業
展開されている。その展開は、全米1900地区
以上で展開されている「メインストリートプ
ログラム」に照らし合わせると、次のように
整理される。

(1)「生活の質の向上」が基本目標

中心市街地の再生は、コミュニティの再生
であり、即ち市民及び来街者の「生活の質
(クオリティ・オブ・ライフ)を向上させる」
ことが基本目標となっている。

(2) 4つのアプローチ

①組織運営

総合的な地域プラットフォームとしての中
心市街地活性化協議会の他、NPO法人いたみ
タウンセンター、伊丹酒蔵通り協議会、市立
伊丹高等学校や各種大学の学生、伊丹市文化
財ボランティアの会、いたみアピールプラン
推進協議会など、伊丹を愛する様々な人々
による、地域ぐるみ(まち衆)の活動が、相互
に連携・協力しながら展開されている。言わ
ば伊丹を愛する様々な人々による、地域ぐる
み(まち衆)の活動が、相互に連携・協力し
ながら展開されている。



通りの町家を再現した店舗とマンション

②デザイン

景観法にもとづく景観計画を策定し、酒蔵や町家のまちなみを生かした風格と賑わいあるまちなみを積極的に規制誘導している。また景観マネジメントの実践として、市内芸術大学や一般公募による17店舗への暖簾や日よけ幕の設置、協力企業による社会貢献型パナー広告の社会実験、まちなかサイン整備などを展開している。

③プロモーション

中心市街地全体を宣伝していくためのCI戦略、まちなかバルや鳴く虫と郷町、伊丹オートラク等の伊丹ならではの個性的なイベント、郷町ブランドの商品開発、伊丹まちづくり大学によるまちづくりサポーターの人材育成等が展開されている。

④経済再構築

中心市街地の商業や居住、文化、教育を含めた総合的な経済基盤を向上させるために、歩行者優先道路沿道への新規商業施設の立地促進助成、ことば文化都市伊丹の拠点としての「ことば蔵（新図書館）」の建設、民間マンションによる景観に配慮したまちなか居住の供給等が進んでいる。

■伊丹まちなかバルの衝撃

特に、2009年秋から開催している「伊丹まちなかバル」は、函館西部地区バル街の協力も得て、伊丹の町衆のつながりを生かし、その後の様々なまちづくり活動（伊丹まちなか映像祭、伊丹郷町屋台村など）を生むエポックメイキングとなった。

（1）補助金無しで永遠に継続していく仕組み

まちなかバルの仕組みは、参加者が5枚綴りのバルチケット（前売り3,000円/冊、当日3,500円/冊）を購入し、バルマップを片手にまち歩き感覚で、各店舗のバルメニュー（1ドリンク+1フード）を飲み歩くという至ってシンプルは仕組みである。



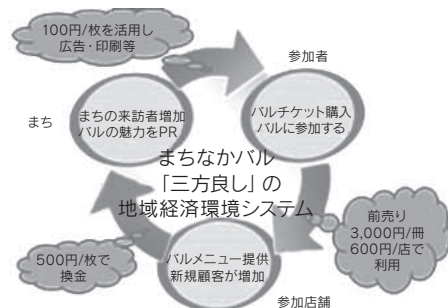
まちなかバルの賑わい

核心部分は、参加店舗にとって、従来のイベントのように広場の屋台等に出張するのではなく、自分の店で自慢のバルメニューを提供するため、「暖簾をくぐる」という新規顧客開拓のハードルを低くし、店の雰囲気やメニュー等をPRする絶好の機会となっている点にある。そのためイベント後も、バルマップを日常使用する女性客を中心に、リピーターが増加するという地域に根付いた好効果を及ぼしている。



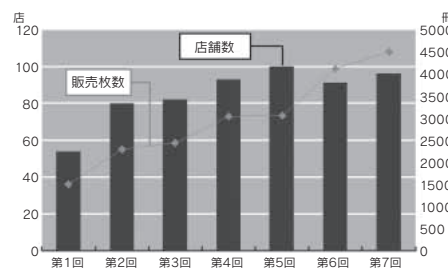
魅力的なバルメニュー

また、まちにとっては、これまで中心市街地を利用していない20～40歳代の来訪者を増やすと共に、売り上げの一部を広告・印刷費等に充当することで、第2回からは実行委員会が補助金無しで自主運営する、参加者・店・まちの「三方良し」の地域経済循環イベントに発展している点にある。



まちなかバルの地域経済循環システム

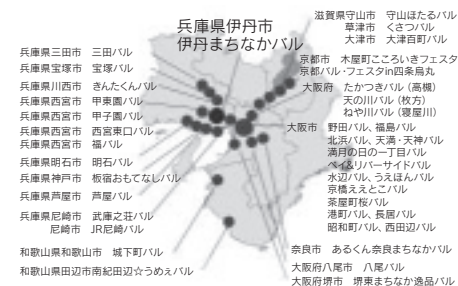
伊丹では、2009年秋の第1回に54店舗が参加し、チケット販売が約1,500冊、そして2回/年開催し、2012年秋の第7回には96店舗が参加し、チケット販売が約4,500冊、参加者1万人以上の一大イベントに成長した。



バル参加店とチケット枚数の推移

（2）まちなかバルはコミュニケーションツール

関西では、伊丹で開催した後、企画運営ノウハウをリナックスのようにフリーソフトとすることで、40地区以上のまちに飛火している。現在、河川で船を乗り継ぐ水辺バル、地域の野菜を使った地産地消バル、河川再生をテーマにLEDの蛍カゴを持って廻るバルなど、各地域の資源を活用した新企画の様々な「まちなかバル」が毎週のように開催されており、関西の春と秋の一大風物詩となってきた。



関西でのまちなかバルの主な開催地

これも、伊丹まちなかバルで同時開催している近畿バルサミットにおいて、「まちなかバル」が単なる一過性のイベントではなく、「人と店とまちをつなぐコミュニケーションツール」であることを、フェイス・ツウ・フェイスでシェアし、共有しているからではないかと考える。



音楽イベントとまちなかバルのコラボ

■「つながる まちづくり」

イギリスの都市計画家パツィー・ヒーリーは、「都市とは物理的な対象ではなく、流動する大衆の絡み合った流れにおける、柔軟で束縛されることがない結びつきである」と提唱している。

私達も、まちを人と人との関係性による「人間の行動」そのものとして捉え、様々なつながりをこれからも大切にし、地域の方々による自主的な活動や事業が、「そのまちでの暮らし」を一緒に楽しみながら展開されていく事を、支援してきたいと考えている。

（なかつか はじめ）

「自ずと成らしめるまちづくり」の意義と手法

近畿大学総合社会学部教授

久 隆浩

1958年高知県生まれ、大阪育ち。
1986年大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了。工学博士。財団法人21世紀ひょうご創造協会主任研究員、大阪大学工学部助手、近畿大学理工学部助教授、同教授などを経て、2010年より現職。もともと都市計画が専門だが、近年は現場に入り分野横断的にまちづくり活動・市民活動の支援をおこなっている。主な著書に『都市・まちづくり学入門』『21世紀の都市像』『自治都市大阪の創造』『地方分権時代のまちづくり条例』『はじめての環境デザイン学』『景観からのまちづくり』などがある。

■「自ずと成らしめる」とは

2011年10月、日本都市計画学会関西支部設立20周年を記念して『都市・まちづくり学入門』を出版した。出版元の学芸出版社のホームページには、次のような内容紹介文が掲載されている。「パワーとマネーにより「大きくつくる」都市計画は終わった。これからは個々人が自分の周囲にある環境の特性や周りにいる他者との関係性を意識し、小さな自律的な変化を積み重ねながら「自ずと成らしめる」まちづくりの時代だ。」

「自ずと成らしめる」という言葉は、達磨大師の「結果自然成」から採ったものである。仏教を伝えるためにインドから中国へ渡り、布教に努めた日々の積み重ねがやがて大きな大輪として花開いた、そうした自らの経験に基づいた言葉である。正しい方向に向かって努力をしていけば、花が咲くように時期が来れば大成することを意味している。これからのまちづくりを表すにふさわしい言葉としてこれを本のキャッチフレーズにした。

しかし、これが専門家にはなかなか理解されない。今までの「自分たちがまちをつくるんだ」という姿勢が理解を阻んでいると思われる。東日本大震災の復興まちづくりでも、すぐに将来図が描かれる。たしかに将来図は大切である。しかし、まずは住民に寄り添い、住民の声に耳を傾けながら、ともに絵を描いていくことが必要だと思う。

■アテネ憲章から新アテネ憲章へ

近代都市計画の方向を定めたものに「アテネ憲章」がある。1933年、ル・コルビュジエやワルター・グロピウス、ミース・ファン・デル・ローエといった近代建築の巨匠たちが集まり組織された「近代建築国際会議」の第4回大会で採択されたものであり、読者の方々にはその内容は十分認識されていると思う。一方、2003年にはヨーロッパ都市計画家評議会が「新アテネ憲章」を採択した。その内容は70年の時を経て、アテネ憲章とは大きく違ったものとなっている。

たとえば、プランナーの役割について、アテネ憲章には「計画は専門家によって行われた厳密な分析研究に基づかなければならない」と

と書かれている。計画は専門家主導で行うということである。それに対し、新アテネ憲章では次のように記されている。「プランナーの役割は、社会開発や計画法、政策の開発に進化している。これらは、それぞれの国の政治や社会的枠組みの違いによって、また、その中で計画者がビジョン作成者、技術者、マネージャー、アドバイザー、メンター（本人の自発的・自律的な発達を促す人）、インストラクター（指導者）のいずれを担うかによって、さまざまである。」以前にくらべ計画者の職能が多様化していることがわかる。この文章に出てくるメンターは、住民主体のまちづくりの支援で重要な役割を担う専門家であり、住民の主体性を育てていくのがその仕事である。すなわち、アテネ憲章の時代は専門家が先導して都市をつくっていく時代であったのに対し、これからは住民主体のまちづくりを促進するためのしかけづくりも専門家の重要な仕事になっていくということを意味している。

■都市を育む

「自ずと成らしまるまちづくり」と同様の趣旨で、ジャーナリストのロバータ・グラッツは「都市を育む」(urban husbandry)という言い方をしている。彼女はこう説明する。

「点在する小コミュニティ」で「ゆるやかで自然で、過激でない変化、ほんとうの社会的、経済的要求にこたえるような変化」を「多くの参加者がすこしずつ力を出し、小さな変化から大きな違いを作っていく」

この文章にはこれからのまちづくりのあり方を示唆する重要なキーワードと内容が盛り込まれている。まずはじめの「点在する小コミュニティで」という部分は主体と範囲の話である。身近な地域の単位で取り組むことを示している。続く「ゆるやかで自然で、過激でない変化、ほんとうの社会的、経済的要求にこたえるような変化」はまちの変容のあり方について述べている。スクラップ・アンド・ビルト型の大規模再開発は「過激な変化」ということになる。それにくらべ、建築物の個別更新を積み重ねていくような時間をかけたゆっくりとした空間変容をよしとする考え方である。

また「ほんとうの社会的、経済的要求にこたえるような変化」とは、投機目的など経済活動を活性化させることのみを意図とした開発ではなく、住民の生活の質的向上をめざした開発を指した言葉である。さらに「多くの参加者がすこしずつ力を出し、小さな変化から大きな違いを作っていく」という内容は、身近な活動を積み重ねていって大きなものにしていくことを指している。

■地域資源を活用したまちづくり

そもそも脱成長時代に入り費用的にも大規模開発はむずかしくなっており、また人口減少時代にはその必要性も低くなってきた。金をかけずに知恵を働かせ、地域資源を活用するまちづくりが求められる時代なのである。

水俣でまちづくりを担ってきた吉本哲郎氏は「ないものねだり」をやめて「あるものさがし」をしようと呼びかけている。高速道路が欲しい、音楽ホールが欲しいというように、従来のまちづくりは地域にないものをねだってきた。今までにないものを新しくつくるには費用やパワーが必要である。一方、地域にある資源をさがし、それを活用するまちづくりはすぐにでも始められる。そうした発想である。そのためには住民が地域のことを知らなければならない。そこで始めたのが「水俣学」であり、それが各地の「地元学」の嚆矢となった。

ないものを他人にねだるよりも、自分が持っているもの、自分のまわりにあるものを活用して、創造的に活動を行うほうが、実現性の高いまちづくりとなる。グラッツも言うように、一人ひとりができることは小さいかもしれないが、それを合わせると相当のものになっていく。これが小さな力で効率的にまちづくりを行っていく手法である。アートを活かしたまちづくり、市民音楽祭、まちなかバル、等々各地で市民主体のまちづくりイベントが活発になっているのは、こうしたまちづくりの一環と捉えることができる。

一人ひとりの力は限られているが、それをつないでいって大きな力とする。これこそネットワークの妙味といえる。今後ますますネットワーク社会が進展していくことが予想されるが、地域資源を活用した市民主体のま

ちづくりはネットワーク社会に対応したまちづくりと捉えることができる。

■近代都市計画からポストモダンのまちづくりへ

哲学者のユルゲン・ハーバーマスは、近代は「経済システム」と「国家・行政システム」を発展させ、これを活用して社会を動かしてきた時代だと分析する。彼が指摘するように、現在は私的領域では「経済システム」によって活動が行われ、また公的領域では「国家・行政システム」によって活動が行われている。しかし、ハーバーマスはこうしたシステムが、私たちが暮らす「生活世界」を植民地化していると指摘している。

たとえば世界的な不況を考えてみよう。グローバルな経済システムの動きに私たちの生活は振り回されている。私たちがつくりだしたシステムが巨大で複雑なものになってしまい、政治家や専門家も操作不能に陥っている。こうした状況を克服するためには、私たち一人ひとりが当事者として関わり、自らが操作可能なシステムを新たに生み出していく必要がある。

冒頭に記した「パワーとマネーにより「大きくつくる」都市計画は終わった。これからは個々人が自分の周囲にある環境の特性や周りにいる他者との関係性を意識し、小さな自律的な変化を積み重ねながら「自ずと成らしめる」まちづくりの時代だ」という文章は、こうした時代の変化を説明したものでもある。経済システムは貨幣・市場を用いて動かすもの、また国家・行政システムは権力を用いて動かすものである。都市計画でも、民間開発は市場経済のなかにあって貨幣（マネー）で動かしてきたし、行政が用いてきた都市計画制限は法に基づく権力（パワー）で動かしてきた。これがパワーとマネーによる都市計画である。それに対し、これからは環境や他者との関係を意識し、自律的に行動していくことが求められる。

■「まちづくり井戸端会議」のススメ

自らが暮らすまちを自らの手で暮らしやすくしていく、その活動を自発的に担っていくことが住民主体のまちづくりであり、ポスト

モダンのネットワーク社会に求められる社会システムと位置づけることができる。従来の巨大で複雑なシステムではなく、身近な地域で自らが動けばその変化が実感できる適正規模のシステムが構築できるかどうか、が今問われている。

じつは都市計画の分野ではこうした考えは新しいものではない。1920年代にクラレンス・A・ペリーが考案した「近隣住区論」も同様の発想に立っている。彼が「小学校区」に着目したのは、当時のアメリカで起こっていた社会的無関心、コミュニティの希薄化を克服するためであった。身近な地域でコミュニティを再構築することを通じて、社会に関心を持ってもらおうというものである。

では個々人の自発的な活動をつないでいってまちづくりにつなげていくためのしくみとは具体的にどのようなものだろうか。そのしかけとして筆者はおもに小学校区単位で「まちづくり井戸端会議」の開催を進めている。月1回程度の頻度で集まり、情報交換を行う場づくりである。ここは、出入り自由でテーマもみんなで持ち寄り、合意形成を目的としないゆるやかな会合である。しかし、そこに主体的で創造的な人々が参加するといろいろなものが動きだす。そんなわくわくする会合を関西各地で動かしている。

たとえば奈良県大和郡山市では、NPO法人K-Pool Projectを中心にアートを絡めた面白いまちづくりが進行中であるが、ここでも「にぎわっ茶会」という集まりが月1回開催され、若者を中心に元気な人々が集まりアイデアを実現させている。遊郭として使われていた旧川本家住宅を活用し、8月には金魚をモチーフとしたアート作品を展示した「大金魚博覧会」、10月には「こおりやま音楽祭」の一環としてコンサートの開催、11月には奈良県各地で開催されたHANARARTの一会場として現代アートの展示など、次々にイベントが企画、実施されている。

百聞は一見にしかず、興味を持った読者の方は一度覗いてもらって、まちづくり井戸端会議の魅力的な雰囲気を体験してもらいたい。そして、各地に広めてもらいたいと思う。

（ひさ たかひろ）

コミュニティデザイン という手法

コミュニティデザイナー
studio-L代表
京都造形芸術大学教授

山崎 亮

1973年愛知県生まれ。
大阪府立大学大学院修了後、SEN環境計画室勤務を経て2005年にstudio-Lを設立。現在、studio-L代表。京都造形芸術大学教授。
主な著書に『コミュニティデザイン（学芸出版社）』『ソーシャルデザイン・アトラス（鹿島出版会）』『コミュニティデザインの時代（中公新書）』『まちの幸福論（NHK出版）』などがある。2012年度は「studio-L伊賀事務所」「震災はじまり手帳」「Brilliaレジデンス六甲アイランド」でグッドデザイン賞を受賞。

■コミュニティデザインの可能性

日本において「つながり」や「コミュニティ」が大切だと言われ始めたのは1960年代のことである。この頃、農村人口が減り、都市人口が増え、隣に誰が住んでいるのか分からないまま生活する人が増えた。その後、鬱、自殺、孤立死など、つながりがなくなることによる社会問題は存在し続けた。さらに2つの大震災を経て、いざというときに人のつながりが大切だということを実感した。もはや、黙っていても人と人がつながるという時代ではないのである。

「人と人がつながる仕組みをつくる」というコミュニティデザインもまた、1960年代からずっと重要だと言われ続けてきた。ニュータウンを建設する際もコミュニティを生み出すようなデザインが重視された。公共施設を設計する際にもコミュニティの参加によるデザインが盛んになった。脱成長時代の今、新たにニュータウンをつくったり公共施設を建設することは少なくなったが、それでも人と人とのつながりを生み出す必要は消えていない。それどころか、ますます高まっているといえよう。ここに、新しいタイプのコミュニティデザインが求められることになる。それは、建設事業を伴わないコミュニティデザインである。

■コミュニティデザインの方法

私たちが関わっているコミュニティデザインには、大別すると2つの方法がある。ひとつは個人と個人をつなげて新しいコミュニティを生み出す方法。もうひとつは既に存在するコミュニティ同士をつなげて地域の課題を解決する力を生み出す方法である。

①人と人とがつながるコミュニティづくり

兵庫県姫路市の家島地域で取り組んだプロジェクトでは、それまで共に活動したことが



写真1 福山でのお互いについてより深く知り合うアイスブレイク

無かった女性たちのコミュニティをつくり、特産品を開発し、その販売益で島の広報をつくったり福祉タクシーを走らせたりしている。このコミュニティは2006年に「NPO法人いえしま」を設立し、現在は観光コンシェルジュ養成などに取り組んでいる。

島根県隠岐郡の海士町^{あまちよう}では、総合振興計画を住民とともに作り、そのプロセスで4つのコミュニティが誕生した。「ひと」「産業」「暮らし」「環境」のそれぞれをテーマに活動するコミュニティが町内各所で活動している。またそこに参加していた数名の住民が集落支援員となって高齢者支援をスタートしている。

長崎県^{ひがしそのぎちよう}の東彼杵町では、総合計画を見直すことをきっかけに、海士町のように複数のコミュニティを生み出し、町内各所で活動し始めることを目論んでいる。人口は先に挙げた家島地域と同じくらいなので、きっとユニークな人がいることだろう。こうした人たちとオリジナルコミュニティをつくり、公益的な活動が展開できる仕組みをつくりたい。

広島県の福山市では、中心市街地を元気にしたいという気持ちを持つ50人の市民とワークショップを重ね、まちなかで実施する公益活動について計画している（写真1）。佐賀県の佐賀市では、まちなかの「空き家」「空き地」「水路や道路」「大型施設」など活動場所別にコミュニティが生まれ、それらの活動をインターネット経由で発信する「情報発信」コミュニティも活動を開始している（写真2）。こうした公益活動のことを彼らは「よか活動」と呼んでいる。「余暇活動」と「良か活動」を掛けた造語だ。

大阪市の北加賀屋地区では、工業地域のなかに点在する空き地を「クリエイティブファーム」という農地につくり変え、北加賀屋の特徴であるアートの持つクリエイティブティと、農を楽しむコミュニティをつくった。同じ地域に住んでいても知らなかった人たちが



写真2 佐賀で4つの空間資源でしたいことを考える

が多く、「アート」と「農」というテーマによって結びつけられた住民たちが活動し始めている（写真3）。

②コミュニティ同士がつながるきっかけづくり

個人を集めて新たなコミュニティをつくるという方法とは別に、既に存在するコミュニティが集まるきっかけをつくる方法を採用することもある。この方法は、兵庫県の有馬富士公園で学んだものだ。公園の周辺で活動するNPOやサークル団体、クラブ活動団体などの市民活動団体が公園でさまざまな活動を展開することで、来園者が何度も公園を訪れることになった。また、活動団体同士が知り合い、協働でプロジェクトを実施するようになったこともある。

鹿児島県のマルヤガーデンズでは、デパートの中にコミュニティのためのスペースを準備し、地域で活動する団体が館内各所で活動している。大阪市阿倍野区にある近鉄百貨店阿倍野店では新本店の建設が進んでいるが、ここにもコミュニティスペースが設けられ、大阪、奈良、和歌山など、天王寺につながる沿線のコミュニティが百貨店内で活動するため準備を進めている（写真4）。30団体ごとにワークショップを行い、既存の百貨店内でトライアルイベントを繰り返しながら100団体、150団体と徐々に団体数を増やしていく予定だ。

宮崎県の延岡市では、公園や百貨店内で取り組んできたコミュニティ同士のつながりを中心市街地に適用し、延岡駅および周辺地域の各所で既存のコミュニティが活動するきっかけをつくっている。駅舎や駅前広場が改修されることを契機に、商店街のアーケード下や空き店舗、駅前広場、駅舎などで市民活動団体がさまざまなプログラムを実施するという計画だ。現在、ワークショップによる話し合いを続けながら、いつ、どこで、どの団体が、どんな活動をするのかを検討している。

横浜市の東横線跡地では、高架線路だった

細長い空間を公園化し、数十メートル毎に既存のコミュニティが活動するという計画を検討中である。1000以上のNPO法人を調べ、少しずつ話を聴きながら公園で活動する意志の有無を確認している。大分県大分市の鉄道跡地も同様に細長い空間であり、すでに住民とともにフィールドワークを重ねている（写真

5、6）。現地では何ができそうかを話し合い、準備を進めているところだ。東京都立川市の市庁舎跡地は子育て支援などの公共的機能に加え、一部がマンガパークとして活用されることになったため、マンガのテーマに呼応した市民活動団体が施設各所で活動するための準備を進めている。『美味しんぼ』の本棚近くで料理教室を、『キャプテン翼』の本棚近くでサッカー教室を、といった具合だ。

■コミュニティデザインの手順

こうしたプロジェクトを進める際、以下のような4段階のプロセスでプロジェクトを進めることが多い。まずは住民のなかで興味深い活動に携わっている人へのヒアリングを実施する。50人から100人くらいヒアリングし、後に続くワークショップに参加してもらえよう友達になる。次にワークショップを実施し、ヒアリングで知り合った人たちと一般公募の参加者とともに「まちの良い点と悪い点」「まちの将来像」「将来像を実現するためにできること」「活動をいつから開始するか」などを話し合う。さらにチームビルディングを実施し、新たに生まれたコミュニティ内のつながりを強固にしたり、コミュニティ同士の結びつきを強くしたりする。そして、実際に活動が始まったらそれを出来る限りサポートする。ただし、サポートしすぎると自立的な活動へと発展しにくいいため、状況を観察しつつ徐々にサポートを弱め、必要性が認められなくなったら地域を去る。

どの段階でも、専門家として答えを教える

という方法は用いない。市民が自ら試行錯誤し、新たな方法を生み出すことを手伝う。コミュニティデザインの方法は、「お腹を空かせた人に魚を与えるのではなく、魚の獲り方を教えること」というアメリカインディアンのお話と似ている。

■今後の展望

今後取り組まねばならないと考えていることは、コミュニティデザイナーを育てることである。商店街、ニュータウン、限界集落、企業、行政、大学など、人と人とのつながりが必要な場所は驚くほど多い。うちの事務所には、私たちが想像する以上に多様な主体から仕事の依頼がある。「それもコミュニティデザインの仕事なのか！」と毎回気づかされる。当然、我々だけでは手が足りない。そんなときに起きた東日本大震災。この復興プロセスでは、住民の合意形成が重要になる。今後、復興のソフト面に関わる復興支援員などにコミュニティデザインの手法を伝えていきたいと考えている。さらに、東北の大学にコミュニティデザイン学科をつくり、学生たちが現場でコミュニティデザインを実施しながら学ぶ環境を生み出したい。ここで学んだ学生たちが、将来的に全国各地で活躍するようになることを願っている。

東北は今後、コミュニティデザインを実地で学ぶ絶好のフィールドになるだろう。皮肉な言い方だが、今回の震災で東日本のコミュニティデザインが盛んになるはずだ。それは、この17年間に西日本が経験してきたプロセスでもある。コミュニティデザインが関西から生まれた背景には、阪神・淡路大震災とその後の復興が存在する。人々とじっくり話し合い、合意を形成し、まちづくりを進めるための知見が蓄積されたのである。その意味で、今後の東日本におけるコミュニティデザインの発展に期待したい。（やまざき りょう）



写真3 北加賀屋クリエイティブファームのメンバー



写真4 近鉄百貨店阿倍野店内でのトライアルイベント



写真5 大分での疑似活動「バスケットボール」



写真6 大分での疑似活動「綱引き」

人口減少により総需要が低下していく今日では、多大な時間と資源を投入して成長を追求しても上手くいくとは限りません。成長に失敗した時のことも考える必要があります。それ故に「脱成長」というコンセプトが登場するのですが、これは成長を否定しているものではありません。安定的な成長（＝低成長）は社会の安定には欠かせないし、成長戦略は沈滞化した状況を変えるために必要です。成長の追求を通じてでないと、本当に必要な経済・社会の新陳代謝の活発化が難しいと思います。今の状況をブレークスルーするためには、脱成長の具体論の品揃えを充実させることが必要です。今後の展開を注目していこうと思います。

（守井 辰）

会社の仕事の話で恐縮ですが、このたび阪神尼崎駅高架下の商業施設「尼セン」が、新しく「アマスタアマセン」として生まれ変わりました。まだ全体オープンしていませんが、本誌が発行される頃にはたくさんお客様で賑わっていると願って、開業準備で走り回っています。尼センの開業は1964年、実に45年以上も前からのご出店者様も含めたリニューアルで、全く新しいものをつくるのではなく、かといって昔のままでなく、長年皆様に愛されてきた「尼セン」らしさってなんだろう・・・と常に考えながら計画を進めています。高架下は一度つくったら簡単にはなくならない場所、街に対する責任は重いなぁと感じる今日この頃です。

（三宅次郎）

今後の日本は、人口の成長を脱するのは確実であるが、世界では人口が減少しても、生活の質や経済を成長させている国は存在する。そう考えると、成長という言葉にこだわるのも不自然だ。より豊かで幸せな社会を目指した努力の結果が、社会や都市の「成長」だったり、「縮退」だったりするだけのよう思う。脱成長とは、「成長」という言葉の呪縛から脱することであり、今回の特集から、社会や空間のあり方をもっと自由に考えるための、具体的で前向きなヒントをもらえた気がする。

（紅谷昇平）

日本の人口減少と少子高齢化がいわれて久しい。その影響はまだ顕著には表れていないが、このままでは着実に社会が衰退していくという危機感は広がりつつある。今回の特集を拝読すると、古い言い方であるが、いわゆる産・官・学・民それぞれが、ハード・ソフト面ですでにかかなりの取り組み組をしていることに、改めて驚かされる。その一方で、相互の連携がとれているか、法制度や社会システムが時代の要請に役立っているか、などの疑問もわいてくる。本特集が、みんなの動きのベクトルを束ねて、困難な時代を前向きに乗り越える一助になることを願っている。

（吉村英祐）

脱成長・縮小という言葉は、成長・拡大という言葉と対比して用いられる言葉である。成長・拡大時代を直接経験していない私は、脱成長・縮小という実感を本当には理解していないのかもしれない。ただ、様々な出来事や状況を目の当たりにし、転換期にあるという実感はある。今回の特集の中で大切なことは、いかに状況を共有（シェア）するか、であると思う。変化する状況にあっても、社会生活を営むのは人の共同体なのだから、それぞれの状況に対する共有感覚を持ち幸福で、充実した共同体をどう作っていくのかを追求し続けるのが理想であると思う。（不動剛志）

特集 脱成長の時代を考える

編集後記

計画系分科会

我が国の経済社会の現況は、人間で例えれば何歳ぐらいなのであろうか？ 経済成長を高らかに唱える政治家やエコノミストたちは、10代や20代の育ち盛りの青年を想定して経済発展を期待しているのであろうか。モノに溢れ、開発されつくした現代の社会は、少なくとも熟年世代に達していると考えるのが市民感覚であろう。こんな社会になっても誰もが若き時代の姿をイメージし続け、老いた真実を写し出す鏡を見ようとしな。そのことが本特集を企画した動機である。成熟社会にはそれなりの生き方があろう。それは、これまで築かってきた貴重な社会ストックを活かし、分かち合うことではなかろうか。頂上を極める人生はすばらしいが、頂上から降りる美学もあるのである。

（鈴木克彦）

特集テーマをどうしようかと編集委員の中で議論している際に、将来に向かって元気が出るようなテーマを考えている中で、委員の方から「減築」といったキーワードが出てきました。その時は自分自身特集テーマとして取り上げることに、あまりピンときていなかったのですが、先日、ベルリンの方と都市再生の観点で話をする機会があり、その際に、少子高齢化社会の中で、大阪関西における減築の方針・取組みなどについて質問があり、少し驚いたのと同時に、ここで特集テーマとして取り上げていたことにその時はじめて納得できました。今回、様々な観点からご執筆いただいた内容は、今後のまちづくりに大いに参考になるものではないかと考えています。

（高橋和也）

建築物の耐震化等に助成

宮下 誠

兵庫県国土整備部住宅建築局建築指導課防災耐震係長

兵庫県は東日本大震災の教訓を踏まえ、今後30年以内の発生確率が60～70%である東南海・南海地震に備えるため、①広域的に重要な役割を担う緊急輸送路の機能を確保するため、緊急輸送路沿道建築物の耐震化②津波浸水想定区域において避難困難者が避難可能な津波避難ビルの耐震化に取り組んでいる。

緊急輸送路沿道建築物の耐震化

■事業の目的

東日本大震災ではM9の巨大地震とそれに伴う津波による甚大な被害が発生した。

これを受け中央防災会議では最大クラスの津波高への対策として、住民の生命を守ることを最優先に避難を軸とする多重防御が必要と結論付けた。

緊急輸送路に面する建築物は、大規模災害での緊急物資の輸送の確保や避難路の確保から早急な耐震化が必要となる。耐震改修を意図する民間建築物の所有者に対し、耐震診断および耐震補強設計に要する費用の一部を補助することによって、輸送路等の確保を図ることとした。

■事業内容

道路を閉塞する可能性の高い建築物の耐震診断および耐震補強設計に対し、事業主体の市町を通じ間接補助する。

○対象施設

(1) 建築年次

昭和56年5月以前に着工された建築物。

(2) 位置・規模

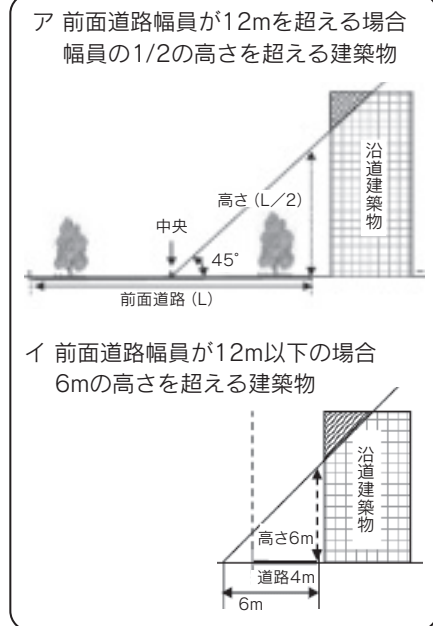
兵庫県地域防災計画に位置づけられた緊急輸送路沿道の建築物であって、その高さが前面道路幅員のおおむね1/2を超えるもの（前面道路が12m以下の場合は、その高さが6mを超えるもの）。

(3) 対象、限度額、負担割合

- ・耐震診断、耐震補強設計費用に助成。補助限度額は両事業とも1棟あたり4,500千円。
- ・負担割合は国1/3、県1/6、市町1/6、事業者1/3。

■成果および今後の課題

平成24年度（10月末）の実績は、耐震診断2件である。現在3市が制度化しており、未創設市町には今後も引き続き制度創設を働きかけていく。



津波避難ビルの耐震化

■事業の目的

津波に対する避難は高台等の安全な場所への避難を原則とするが、津波浸水予想地域では、津波が到達するまでに避難を完了することが困難な地域もある。

このような地域では、市町が行う津波避難ビルの指定を促進し、津波から生命を守る可能性の高い手段を地域内に確保することを目的とする。

■事業内容

各市町の津波避難ビルの指定拡大がすすみ、新耐震基準により建てられた建築物だけでなく、旧耐震基準により建てられた建築物を耐震改修し、津波避難ビルとして指定することが想定される。

そこで、旧耐震基準により建てられた民間建築物のうち、津波避難ビルに指定される予定の建築物を対象に耐震診断費用を事業主体の市町を通じ間接補助する。

○対象施設

(1) 建築年次

昭和56年5月以前に着工された建築物。

(2) 対象施設

津波避難ビルとして、市町の地域防災計画等に位置づけられる予定の建物。

(3) 対象、限度額、負担割合

- ・耐震診断に要する費用に助成。補助限度額は1棟あたり6,500千円

・負担割合は国1/3、県1/6、市町1/6、事業者1/3。

■成果および今後の課題

平成24年度（10月末）現在実績はない。現在1市が制度化しており、未創設市町には今後も引き続き制度創設を働きかけていく。



参考：被災した宮城県の津波避難ビル
（宮城県南三陸町）

住宅の減災対策の取り組み

県は、減災対策として平成18年度に「兵庫県耐震改修促進計画」を策定し、住宅の耐震化率を平成15年時点の78%から、平成27年に97%とする計画目標を定めている。

計画目標を達成するため、「わが家の耐震改修促進事業」を県事業として実施し、耐震診断・改修計画の策定および耐震改修工事に要する費用の一部を補助している。

市町に対する間接補助として住宅所有者が希望する簡易耐震診断を行うことにより、住宅の安全性に対する県民の意識を高め、耐震化への動機付けを行っている。



おわりに

大規模災害から県民の生命財産を守るためには、これらの制度を普及、拡大することが重要である。

今後とも引続き制度のPRを行うとともに、市町に事業創設を積極的に働きかけていきたい。

（みやした まこと）

●宮下誠

1966年生まれ。

1996年兵庫県庁入庁。

計測地震防災のすすめ

草野直幹

白山工業株式会社 市場創造G
地震防災プロジェクトリーダー

建物の地震観測は古くから行なわれている。40年ほど前に我が国最初の超高層ビルである霞が関ビルでは、はじめて設計された柔構造のビルが地震時にどう揺れるのか？動的挙動を確認するために地震計が設置された。その後、超高層ビルの多くで、地震計が設置されてきたが、その目的は、設計の妥当性を確認するための地震観測であった。つまり、地震後に記録を回収し、設計モデルで解析して実測値と比較して安全性を確認すると云う手順を踏むため、結果が出るまで時間がかかり、応急的な防災には利用されなかった。「計測地震防災」の概念は、今までの建物地震観測の実績を踏まえ、さらに一歩進めて、計測しながら即座に防災に役立てようとするものである。ビルの中にいる人が、揺れが収

まった直後に避難すべきか？留まるべきか？地震で止まったエレベータをどこから優先的に点検し、いち早く復旧できるか？余震が続く中、このビルは帰宅困難者を受け入れても大丈夫なのか？など応急の判断をするための定量的材料を地震計測の結果に基づき提供するものである。

システムの概要と特徴

システムの構成は（図1）に示すように、地震計センサー部、地震計記録部、緊急地震速報受信機、加速度・震度警報装置、変位警報装置およびPC表示用のいくつかのアプリケーションからなる。地震計は、超高層ビルの場合7階～10階毎にひとつ設置され、時刻同期のとれた加速度波形を記録する。他の装置は、通常防災センターかビル管理部署に置かれる。地震が発生すると、緊急地震速報により揺れが始まる前にどこでどの程度の地震が発生したかを通知し、初動体制を立ち上げることができる。揺れが始まると、地震計設置階のリアルタイム震度および変位軌跡を表示する。超高層ビルの場合、防災センターがある下層階で高層部の揺れも見ることができるため、非常放送の実施、高層階のテナントからの問い合わせにも的確に対応できる。緊急地震速報と組み合わせ、加速度が小さくても変位が大きくなる長周期地震にもエレベータ制御などが的確にできる。

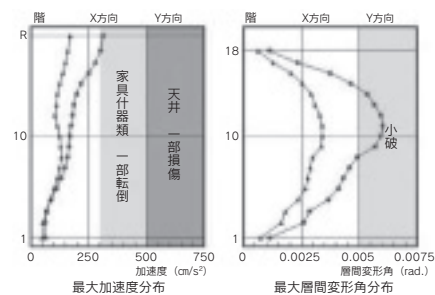


図2 最大加速度分布および最大層間変形角分布表示

地震直後には、数十秒後にビルの被災度判定支援アプリが結果を表示する。つまり、時刻同期された地震計の記録から逆モーダル解析により全層の最大加速度分布および最大層間変形角分布（図2）が表示され、ビルの被災度を判断するための定量的な情報を得ることができる。

実施例

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の時に、東京の超高層ビルで計測地震防災システムが作動した。その時の状況を紹介する。

- ①緊急地震速報の震度Ⅲ以上になる赤丸の大きさを見て、大きな揺れが来ると判断、防災関係者に報知、非常体制をとる。
- ②揺れの最中には、リアルタイム震度、変位軌跡をみてエレベータ制御、ガス漏れ確認、テナントからの問い合わせに対応。
- ③地震直後、被災度判定支援システムの表示画面を見て、ビルの構造に影響なしと判断、全館に安全であることを放送し、防災センター全員で点検作業を開始した。
- ④地震後、エレベータ2基は2時間後に運転開始、テナントにはこのビルが安全であることを観測値で説明。帰宅困難者を受け入れることも即座に判断できた。

今後の展開

本システムは、現在S造の超高層ビルを中心に設置されているが、今後は中小ビルにも展開し、地震直後の建物応急危険度判定にも活用できるようにシステムの改良を進めていく予定である。また、このシステムを生かすためには、各ビルの防災担当者に理解をしてもらう活動を進めていくつもりである。

（くさの なおき）

●草野直幹

1948年生まれ。1975年武蔵工業大学院卒。
1975年 鹿島建設株式会社入社。
1998年 ERS設立 社長。
2007年 白山工業株式会社顧問。

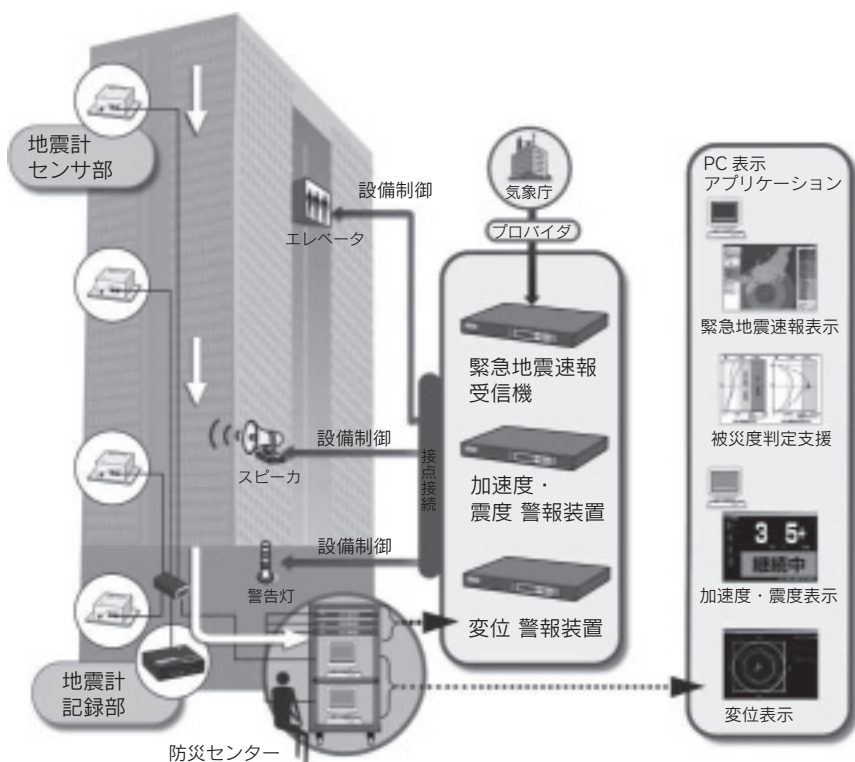


図1 システムソリューション図

日本生命保険 相互会社本店本館

安達 英俊

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

■はじめに

日本生命保険相互会社（以下、日本生命保険）は、明治22年（1889）7月、有限責任日本生命保険会社（資本金30万円）として、大阪で発足する。

本店旧本館は明治29年（1896）、片岡安（1876—1946）、辰野金吾（1886—1919）を監修者に、関野貞（1868—1935・1901年より東京帝国大学助教授、後、教授）の設計で、施工には山本鑑之進らを雇用して、会社直営で着手する。

赤レンガに、北木島産花崗岩の帯を持つ、心斎橋筋に正面がある辰野様式のこの建築は、八角形の塔が象徴的であり（平面図⑩）、今橋四丁目の旧懷徳堂の敷地ほかを購入し、6年の工期を経て、明治35年（1902）竣工する。日本生命保険本店旧本館は、1年後に竣工する「日本銀行大阪支店」とならび、近代大阪を象徴する建築であった。

片岡安は、「日本建築協会」の創立メンバーであり、約30年にわたり（1917—1946）初代会長を務めた。彼は明治32年（1899）、日本生命保険の副社長、片岡直温にその才能を評価され婿養子となる。

その後片岡は、明治38年（1905）辰野片岡建築事務所を開設して、多くの建築の設計監理に携わる。また、大正8年（1919）から昭和21年（1946）にかけて、日本生命保険の取締役役をも務める。

すでに本店旧本館が心斎橋筋に正面をもって建っていたが、昭和12年（1937）御堂筋の開通にあわせ、新たに御堂筋側を正面とする本店旧本館新館（現本館北半分、1期・長谷

部竹腰建築事務所の作品）が現出する。北側と南側に分けて、2期の工事を計画していたが、戦争により、南半分の工事は中断となる。

四半世紀の後に、2期工事（日建設計工務）により、本店本館は、昭和37年（1962年）全体の完成をみる。（『建築と社会』第43輯・昭和37年7月号に掲載）

この戦前戦後にわたる建築は、なんの違和感もなく存在する。その点について論考してゆく。

■戦前、戦後の意匠の継続

長谷部鋭吉（1885—1960）と、竹腰健造（1888—1981）を代表とする長谷部竹腰建築事務所は、昭和8年（1933）住友本店臨時建築部が、前年の世界大恐慌の影響で解散した後、設立される。

意匠に卓越する手腕の長谷部と、経営と全体の取りまとめに長けた竹腰の名コンビである。昭和5年（1930）に竣工した（第2期）住友ビルディングを担当した二人は、その後、大阪証券取引所ビル、宇治電ビル、そして「日本生命保険本店本館」と、大阪を彩る近代建築を生み出す。

竹腰は、長谷部鋭吉没後の特集（『建築と社会』昭和36年3月号）に寄せて次のような文章を残している。

一わが国にいわゆる洋風の建築が移入されてから、近年にいたるまでの間に、建築界は非常な発展をとげた。その間多数の優秀なデザイナーを出しているが、長谷部さんのような芸術的で天才的なデザイナーは少ない。長谷部さんの意匠は、その設計の対象によって



①南東のコーナーの見上げ（石貼りのディテールに着目）

所在地／大阪市中心区今橋3丁目5番12号
設計／長谷部竹腰建築事務所（第一期）
日建設計工務（第二期）
施工／大林組
竣工／昭和13年（第一期）、昭和37年（第二期）
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地上7階、地下3階、塔屋3階
種別／業務ビル



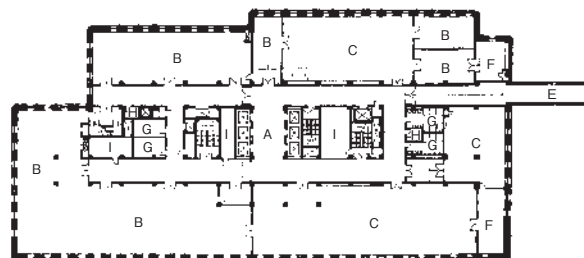
②高架通路を見る



③正面玄関



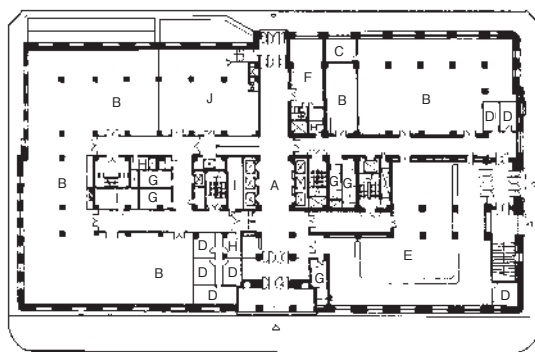
④営業室



⑤6階平面図

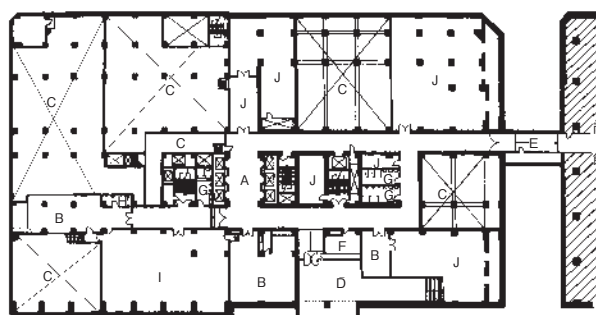
A エレベータホール B 事務室 C 計算機室
E 南館連絡高架通路 F 電源室 G 便所
H 湯沸室 I 機械室

N



⑥1階平面図

A エレベータホール B 事務室 C 会議室 D 応接室
E 営業室 F 保安室 G 便所 H 湯沸室
I 機械室 J 郵便室



⑦地下2階平面図

A エレベータホール B 事務室 C 機械室吹抜 D 地下鉄連絡通路
E 南館連絡地下通路 F 保安室 G 便所 H 湯沸室
I コントロール室 J 倉庫



⑧左：本店旧本館新館、右：本店旧本館1号館（『日本生命七十年史』より）



⑨左：本店旧本館新館、右：本店旧本館1号館（『日本生命七十年史』より）



⑩本店旧本館レイアウト図（『ニッセイ100年史』より）



⑪占領軍による接收時（『ニッセイ100年史』より）

千変万化して思藻極めて豊かであった。一面また、それが長谷部さんの頭からでたものかと疑われるほど、繊細優雅なものも多数ある。住友家の持佛堂である芳泉堂や住宅の家具、照明等にその例が多い。

しかしそのいずれの場合でも、その根幹をなすものはいわゆる気韻静動、気品に富むことである。一

日本生命保険は、昭和7年（1932）本店旧本館1号館の北側の宅地を購入し、本店本館計画がはじまる。

当時社長であった弘世助太郎は欧米視察の際、特にエトナ生命保険会社（アメリカ・ハートフォード市）に注目して、多くの資料を準備する。（註1・日本生命70年史105P）

本店本館は、昭和11年（1936）、片岡安を建築顧問とし、長谷部竹腰建築事務所設計監理、大林組施工にて着工する。敷地面積：1,117坪、建築面積：939坪、延床面積：7,965坪の大計画は、昭和13年10月に1期工事（旧本館新館）の完成をみる。

日本生命保険本店旧本館新館（1期）は世情不穏の中、まず石の外壁工事（現在は花崗岩貼り）を行わずに工事を完成させた。戦時中には、新館の外壁を黒く塗装した経緯もあると、灰聞する。

また、戦後接収された昭和21年ごろの写真には、壁面の花崗岩貼りの痕跡は発見できない。（写真⑩）

戦前戦後の四半世紀の時を経て、同じ北木島産の花崗岩を使用し、北、南と継ぎ目なく、貼りめぐらされたのである。

「住友ビルディング」は、龍山岩がみごとであるが、「日本生命保険本店本館」にも北木島産花崗岩等に建築家諸賢の熱い想いが見え隠れる。

■長谷部竹腰建築事務所の意匠について

日本生命保険本店本館は、基部、胴部、冠部の三層構造をまもりながら、見事に「モダニズム」の様相を示す。

石のディテールは、基部は北木島産花崗岩ピシャン叩き、胴部は同材を千鳥に、江戸切（四周を額縁のように磨き、中央部を粗めに仕上げる）、冠部は軒蛇腹にてスカイラインの境界を示す。

写真⑧⑨は、昭和34年（1959）の本店旧本館1号館解体前の写真である。

日本生命保険本店旧本館新館は、100尺（約31m）軒蛇腹がそろうと同時に、6、7階の間の胴蛇腹（ストリング・コース）も見事に、同じ高さに揃えられており、開口部のバランスも、旧本館1号館を継承している。

深い陰影をおとす開口部は、縦長に施され、窓受けの石のディテールは、格調を与える。その開口部は、横、縦に同じリズムで開けられ、壁面を彩る。

四隅の角は、秀逸なる四分の一のアール（これよりも大きくても小さくてもいけない）が、建築を引き締める。

現在の本館の設計にあたった岡橋作太郎は、『建築と社会』昭和37年7月号に、「設計者のことば」として下記のように記している。

一この建物の北の半分は、日建設計工務の前身である長谷部竹腰建築事務所の設計監理により昭和13年に竣工したものである。その平面計画は今日のいわゆる「コアシステム」の考え方によるものと同一の結果となっている。（中略）時の距りと要求の変化から、第一期のものに全く倣ってしまうわけにはいかなかったが、先輩に対するこの謹願は始終仕事を進めて行くわれわれの上にあった一

平面図⑥を見てみよう。西側の御堂筋から、本館の中央部よりアプローチする。両サイドのニッチには、奥田勝作の「母子像」と「男性像」がおかれる。

作者の言によると、「子供をあやす母子像によって生命の未来を意味する」。「その子の久遠の生命を見守る男子像」として、「生命の泉」と命名されている。

エレベーターホールを中心としたコアの部分は東へと抜け、このエリアが、戦前と戦後の建物を分けていた。建物は、地下2階と6階部にて、南館と連結する。また地下2階からは、地下鉄御堂筋線（大阪市営高速鉄道1号線）淀屋橋駅に直結する。

東側立面のセットバックする様は、時代による斜線制限法令の相違によると考えられる。

旧本館中庭の「懷徳堂記念碑」は、南側の基部の一部に見事に挿入され、歴史の証となる。



⑫ 1階エントランスホール改修後

■今後の計画とその風景

御堂筋の建築群がさま変わりする昨今、こ

の建築はどうなるのかと危惧していたが、なんと、創立の建築意匠の精神が本館であり、改修して使い続けると聞く。

現に、本館は日建設計一部意匠監修、大林組設計施工にて、改修は終わっている。

多くの建築関係者には、この建築の優れた意匠や、歴史の変遷に注目してほしい。

現に、南館の東側には新南館が建ち、東館の建て替え及び南館の改修が始まっている。東館は日建設計による高層業務ビルとなり、高さは本館の約2.5倍となるが、意匠は、長谷部竹腰建築事務所のものを継承するという。現在、敷地の一画に、外装原寸モックアップを見ることができる。北木島産花崗岩は、今日はもう入手できないため、類似した色彩と質感の石が選ばれた。

100尺の街並みの美しさを誇った御堂筋のファサードは、大阪瓦斯ビル、御堂ビル、大丸心斎橋店、日本生命保険、等々が近代建築として残るが、失われた十合百貨店、解体を待つ新歌舞伎座もある。

歴史に翻弄されながら、凛と建つ「日本生命保険本店本館」は、長く存在を示す意匠ゆえ、注視されることも少ないが、その事実を記述するべきとして、再度立ち止まり、御堂筋西側より細部を観察いたし、歴史を紐解き、体感を薦めたい。



⑬俯瞰写真（『ニッセイ100年史より』）

今回の検証にあたり、大谷弘明氏（日建設計）、関係各位のご協力をうけました。お礼申し上げます。

参考文献

- 『日本生命七十年史』日本生命保険相互会社、昭和38年
- 『ニッセイ100年史』日本生命保険相互会社、平成元年
- 『北浜五丁目十三番地から』橋本喬行著、創元社、平成11年
- 『日本建築協会80年史』社団法人日本建築協会、平成11年

（あだち ひでとし／安達英俊建築研究所）

小笠原 絵理

—OGASAWARA ERI—



山中酒の店 本舗『さかふね』にて

経歴

1961年 熊本市生まれ
 1985年 国立奈良女子大学家政学部住居学科卒業
 大和ハウス工業研究開発部入社
 1985年 武市義雄／REA建築工房入所
 1989年 木村博昭／K's architect入所
 1992年～ 間工作舎／一級建築士事務所開設
 近畿大学、京都工芸繊維大学、奈良女子大学他非常勤講師歴任

受賞歴等

2007年 第2回関西建築家新人賞「錦綾幼稚園」
 2007年 日本建築士会連合会優秀賞「錦綾幼稚園」
 第5回JIA熊本住宅賞入賞「南阿蘇の家」
 岐阜県住宅コンペ優秀賞
 いわきまちづくりコンクール優秀賞 ほか
 2008年 JIDビエンナーレ大賞「錦綾幼稚園」
 2011年 大阪ガス住宅設計アワード入賞「私市の家」

聞き手 藤原芳寿（昭和設計）
 写真撮影 河合止揚

より大きな屋根の下で

秋晴れの昼下がり、準備中の山中酒の店本舗『さかふね』の重厚な引き戸を開け声を掛けたところ、出迎えてくれたのは他でもないこの居酒屋を設計した小笠原氏本人であった。店の設えと見事に調和した出で立ちと張りのある声のためか店の女将を思わせた。そんな氏の後ろに見える小窓からは中庭の木々が見え、この店を訪れる客に一気に期待感を高めてくれる。また、靴箱の取手の一つひとつにアイアンワークが施されており、“手づくり”することへのこだわりが伺えた。

客席は中央の不整形な中庭を取り囲むかたちで配置されており、それぞれがまた規則性を持たない不定形な空間である。それでいてそれぞれの領域が適度な距離を保ちながら緩やかに繋がっており、一見して居心地の良さが感じられた。

中庭の奥まで回り2階へ繋がる階段を上ると、そこにもまた客席、さらには屋上デッキがあり、それらが中庭に植えられた山どりの木を挟んで対面している。つまり、全ての客席から、中庭の木々の彩りによって移ろい行く四季を楽しみながらお酒を味わえる計画になっている。

ここでも見られるように小笠原氏の建築にはある共通点がある。大きな屋根の下で連続的かつ立体的なシーンが展開されており、その要所で外部に植えられた木々を効果的に見せている。できる限り自然な計画を意識しているという設計スタイルの原点から伺ってみた。

設計を始めたきっかけは、意外にも遅く大学時代にあったとのこと。ものづくりは好きだったものの、何をしたらいいかわからない。大学では住居系の学科には所属していたが、建築にこだわらず色々な場所に顔を出す学生だったようである。とりあえず、で申し込んだヨーロッパ建築ツアーでは、落ち込んで過ごすことになった。地図すら持たず望んだツアーで、他の参加者との間で建築についての共通言語がなかったからだ。一人落ち込む氏を救ってくれたのはガウディのコロニア・グエル教会地下聖堂だったと言う。この教会で遊び回る近所の子供達が、森と建物に交わっているシーンをみて、こういう場をつくることに関わられたらいいなと思ったことが、建築をつくることになったきっかけだった、と回想する。

その後もインドやトルコなどの国を旅するが、建築を見て回るというよりも街を巡り、現地の子供とふれあい、家に案内されたことに喜びを感じていたという。

実務では住宅の設計が多く、そのうちの一人の施主から、幼稚園の設計も依頼されたという。それが、京都の「錦綾幼稚園」である。楽しみながら設計に望めたのではと伺ったところ、意外にも返答は重いものであった。幼稚園の設計は初めてだったため、子供との関わり方がわからなくて、スタッフと一緒に入園し、子供達のさまざまな生活シーンを細かく観察したり、写真を撮ったと言う。事務所の壁にその写真を貼っておき、設計中も拠り所にしていった。園の先生や父兄の想いはかたちにできたが、本当に子供の目線でつくれているかどうかは今でも疑問に思っていると言う。

幼稚園の設計では、エンドユーザーである園児から要望を直接聞き出すことはなかなかできないからである。

家づくりの際は、お施主様が何かしら人生の岐路に立たれているところに、立ち会っていると感じている。

また家づくりとは、日々の暮らしのベースになる場所、拠り所になる場所をつくることであると言う。

それは親の手から離れ、社会というものに幼児が初めて接する場となる幼稚園や保育園でも同じことが言えるであろう。

子供達を育む場所をつくることは責任が大きい、可能性を秘めている。と語る氏は、あの日教会で見たシーンを再現する機会を窺っているようである。

住宅だけでなく、より大きな屋根の下で子供達の生き生きとした笑い声が聞こえて来る日はそう遠くないように思われた。

第58回 工高生デザインコンクール

設計課題／地域の体育館

【応募校数】12校 【応募作品数】60点

【締切日】平成24年9月28日 【審査会】平成24年10月20日 【表彰式】平成24年11月10日

審査総評

審査委員長 佐々木 栄

本コンクールはほとんどの図面がCADで描かれる現在において、工業高校の建築系生徒の皆さんを対象に設計技能の向上を目的として、黒色鉛筆での表現を基本として手描きにこだわりつづけているコンクールです。工高生の皆さんの手書き図面に触れ、その丁寧さ、ねばりなど建築に対する真剣さと若いリアルな感覚・表現に触れるたびに、改めて建築に対して新鮮な気持ちに立ち戻る機会となっています。

昨年は未曾有の自然災害に見舞われた年でした。東日本大地震、紀伊半島豪雨災害から1年経過し、あの3・11以降、避難所となった学校や体育館で過ごされた被災者の方々の姿、各地からの救援物資やボランティアの方たちの活動、放射能の影響により故郷に帰れない方々の姿に、工校生のみなさんが何を見、何を感じたかを問うことも今回のデザインコンクールの一つのテーマであったと思います。災害においては人が人を助ける、人と人との絆、地域の繋がりとしてのコミュニティについて改めて考え直すよい機会となったのではないのでしょうか。

設計課題「地域の体育館」は工高生の皆さんが授業で計画する建物規模よりかなり大きく機能も複合化し、本デザインコンクールの長い歴史においても初の試みかもしれない社会の情勢を見据えた課題でした。工校生のみなさんにはなかなか手ごわく、きっと暑い夏を過ごされたことでしょう。

審査当日は60点の見ごたえのある力強い応募作品が並んでいました。審査員全員で作品すべてを読み込み、作品のコンセプト・計画・表現について議論し、審査いたしました。いかに「大きなボリュームとなるアリーナを周辺の景観や環境となじませるか」にみなさん一番苦労されていました。

応募作品は地下または半地下化したもの、敷地レベルを利用したもの、屋上緑化・公園化による環境調和案、建築単体としての提案などのいくつかの傾向が見られました。そのなかにはスポーツにとらわれず地域の方々が集い楽しむ新しい空間の提案、大空間にふさわしい構造的なアイディア、床下に区割りした備蓄庫を有事に生活スペースに転用する提案、特定の敷地の特性をよく把握しそこにしかない提案、そして定規を使わずすべての線を手書きした図面もありました。その中より建築デザインへの熱意や楽しんだことがわかること、そして手書きでしっかり書き込んだ秀作10点が入選作品に選ばれました。

入選された皆さんおめでとう。入選された作品はどれも工校生とは思えない計画力、構成力、表現力、総合力の見られるものでしたが、その中で特に正確で美しい図面と独創性、総合力において優れていた3点を選出し、1次審査時より最終審査までを通して審査員一同評価が高かった作品を最優秀案といたしました。

残念ながら入選に漏れた作品においても工校生の皆さんが真正面から真摯に本デザインコンクールに取り組まれたことを強く感じました。応募されたみなさんに感謝するとともに今後の皆さんの活躍に大いに期待しています。また、手描きにこだわりつづけている本コンクールがさらに多くの工校生のみなさんの参加に恵まれ、今後も末長く続けられることを祈念いたします。

【審査委員長】



【学歴】

1957年 石川県生まれ

1980年 神戸大学工学部建築学科 卒業

1982年 神戸大学大学院工学研究科環境計画学専攻 修了

【経歴】

同年 株式会社 昭和設計 入社

現在 執行役員建築部門建築設計部統括

【主な受賞】

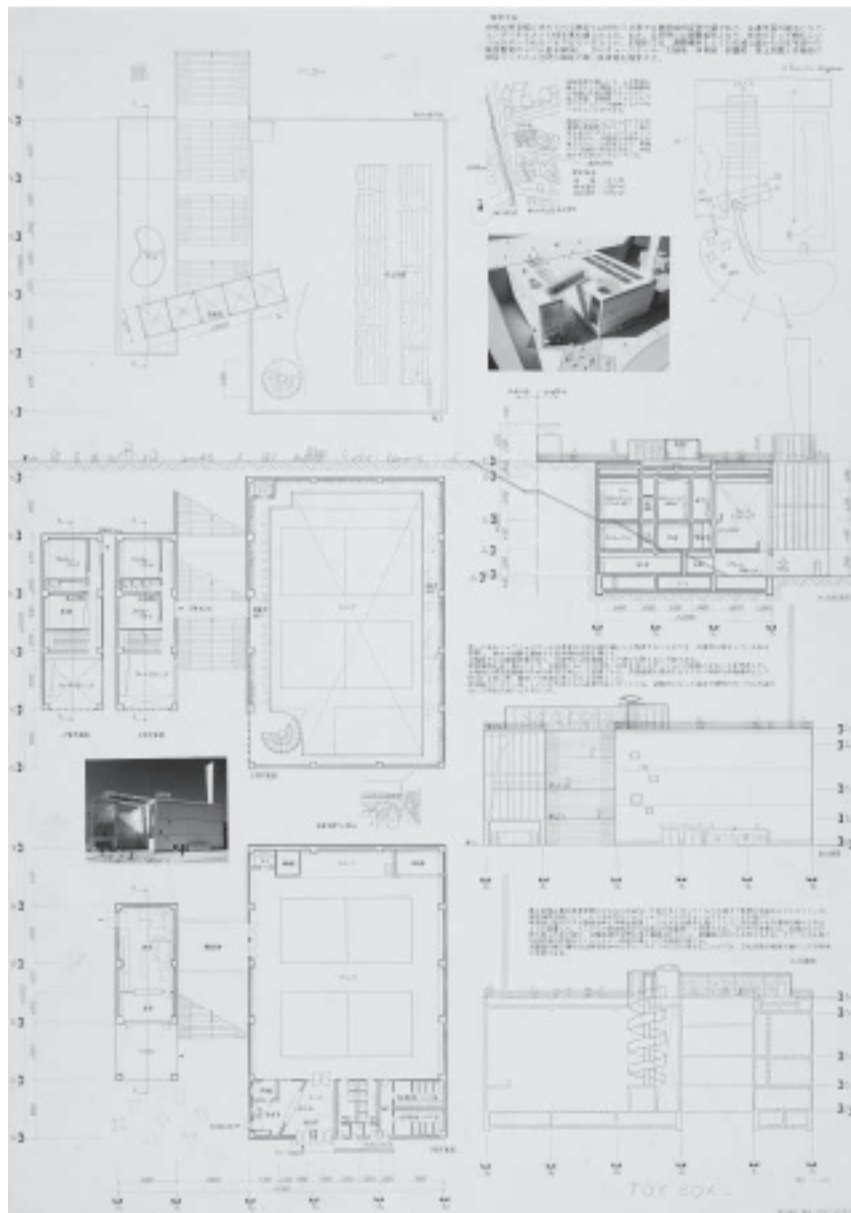
1994年第1回堺市都市景観賞（しんかなCITY）、1996年第9回小樽市都市景観賞（ホテルノルド小樽）、2002年第8回公共建築賞（野島漸層保存館）

【主な作品】

「野島漸層保存館 1998／兵庫」「遠藤照明本社・ショールーム 2006／大阪」「兵庫県考古学博物館 2007／兵庫」「柏原中学校南校舎・柏原法務合同庁舎 2009／兵庫」「泉大津火葬場ゆうしお 2011／大阪」

【審査会】





入選・最優秀賞 西山明日香

広島市立広島工業高等学校 3年

地域の体育館というテーマから、地域交流の場として人が気軽に集えるような場所を第一に考えました。災害時には避難場所となり、住民が不安を軽減できるように備蓄倉庫や厨房を大きく取りました。地域公園から大階段をつなげることで、人の流れを作りました。大階段を施設ではさむことで安心感を得られるようにしました。地域の方から持ち寄った本からなる図書や、屋上菜園、健康維持増進としてそらまめ型のプールやウォールクライミングを設け、生涯学習ができる場としました。形態としてもおもちゃ箱をひっくり返したような、楽しい場所になるように考えました。

通知を受けた時、約3カ月も時間を費やした甲斐があったと思いました。同時に指導してくれた先生方や、模型作りなどを手伝ってくれたクラスメイトに感謝しました。結果が出た後あらためて作品を振り返ると、苦労したこともたくさんありましたが、一つひとつの案を建物の形に表せたことが嬉しかったです。

審査コメント／佐々木 栄

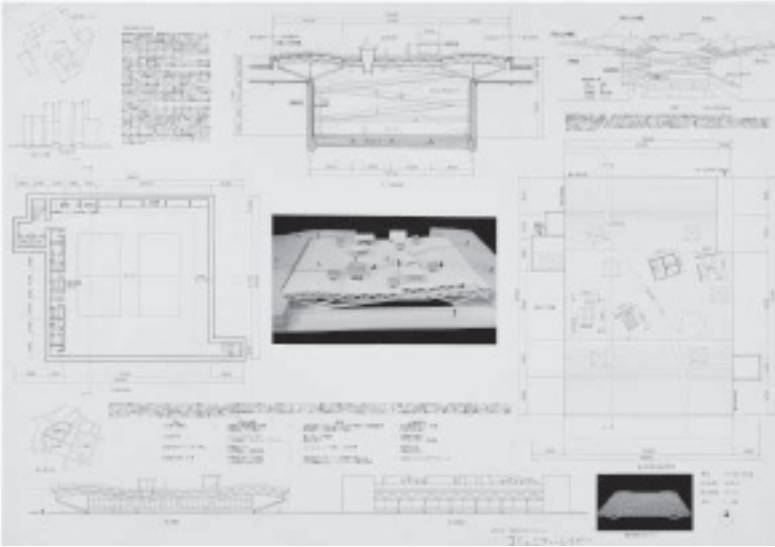
最優秀案「TOY BOX」は大階段を中心として、高低差のある防災園と住宅地を様々な機能により構成し、人と人、空間と空間を結んでいました。

登った先を確かめたくなる大階段、子供たちの歓声が聞こえる屋上プール、花を愛でる人達の笑顔の見える屋上菜園、本とスポーツを楽しむアリーナ、ウォールクライミングが見える広場など様々な人々の生き生きとした姿と豊かな空間が感じられる建築でした。

「地域の体育館」という設計課題に対し、周辺環境を踏まえた地域との関係性、コミュニティの核として、また、災害時の活動の場としての機能・構成など課題に対し真正面から取り組み、環境に配慮した屋上緑化など現代の社会的課題に対する提案も加え見事に総合化された作品でした。工高生とは思えないような計画力、構成力、独自性に加え、本コンペの特徴である手書きによる工校生らしい図面の表現においても完成度が高く、1次審査から最終審査まで常に審査員の高い評価を得、満場一致で最優秀賞に選ばれました。今後の益々の御活躍を期待いたします。

●審査員（50音順・敬称略）一職場は平成24年10月当時一

佐々木 栄／㈱昭和設計執行役員 建築部門建築設計部統括
 上原 徹／㈱日建設設計部門設計部長
 上羽 一輝／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部長
 内海 慎介／㈱竹中工務店大阪本店設計部設計担当部長
 奥田 英雄／㈱大林組大阪本店建築事業部建築設計部副部長
 菅野 忠司／鹿島建設㈱関西支店建築設計部設計部長
 木下 光／関西大学環境都市工学部建築学科准教授
 倉瀬奈千子／㈱田中啓文総合建築研究所統括主任
 武田 史朗／立命館大学理工学部建築都市デザイン学科准教授
 南浦 琢磨／㈱安井建築設計事務所設計部設計主幹



入選・優秀賞 林 聖人、建石玲佳

広島市立広島工業高等学校 3年・2年

この体育館を計画した地域では、高齢者が多く住んでいます。災害時の動線を考えた際に日常動線と非難経路を一致させることで、高齢者が迷うことなく安心して体育館に向かえるのではないかと思います設計しました。また、地下に潜り込むという行為は、日頃から人工地盤下を利用していることから、あまり抵抗なく高齢者の多いこの地域でも対応できると考えました。また体育館内にはショーウィンドウのような備蓄庫があり、日頃からの防災意識の向上が期待でき、地域の人々に避難場だと認識されやすいものとなりました。慣れ親しんだ土地に新しいボリュームを加えるのは、高齢者にとって親しみにくいことから、景観を損なわないためにも地下に計画しました。

自分たちが夏休み頃からずっと考えてきた図面が認められて、優秀賞という賞を頂くことが出来てとても嬉しかったです。今回は学年の違う2人で作品を設計し、初めは考えが食い違ったり、意見が定まらなかったりしましたが、自分たちが考えた案がどんどん形になっていくのが楽しく、さらに結果を出すことができて良かったです。

▲審査コメント／内海慎介

体育館という大空間をいかにして周辺環境に馴染ませるかを考えるとき、地下または半地下化するという方法はコストの制約に阻まれることが多い実施設計と違い、アイデアコンペならではの解答ともいえ、多数の提案があった。そんな中でこの案は以下の点で際立った力作であった。まず基町という場所の課題と高齢化や防災という社会的な課題に真摯に応えるコミュニティの核として、現実的な説得力があった。さらに大空間にふさわしい構造的なアイデアを魅力的な架構として具体的

に提案し、見応えがあった。あえて気になる点を言えば、新設人工地盤と既存部を接続せずに、施設への導入を兼ねた光庭やスリット状の採光を挿入して、外部と内部（地上と地下）の空間的なつながりを表現できなかったか。（天空光をリバウンドさせて立体トラスを美しく見せることなどもできたのではないかな。）また、人工地盤上の青空教室やカルチャースクールも大屋根の下に配し、体育館と一体感をもたせたほうが、みんなの場所という雰囲気により応えられたのではないかな。

入選・優秀賞 藤井春佳 大阪市立工芸高等学校 3年

「地域の体育館」がテーマということで、地元にある江坂公園を舞台とし、小さい頃からよく遊び、お世話になった公園に感謝の意を込め、街のシンボルとなり利用者が増えるようにとこの体育館を計画しました。

完成に行きつくまでに何度も試行錯誤し、考え直した作品であったので、賞をもらえれば、と思っていましたが、自信のある作品ではなかったので優秀賞を頂いたと知った時は、まず驚きました。ですが、日本建築協会主催のコンペティションで賞を頂いたということはとても光栄なことだと実感しています。そして何より、自分の作品に自信がつきこれからの作品制作にも良い影響があると思います。

▶審査コメント／上羽一輝

大阪江坂公園内に屋上菜園を設けた体育館を計画した案である。アリーナや周辺諸室、災害時に対応できる備蓄倉庫など、体育館としての基本機能が円形の建物形状に上手く配置されている。アリーナを地下に配置して、周辺への圧迫感をなくし、屋上を緑化する案は他にも多く見受けられたが、この作品では、屋上菜園とそこで採れた野菜を料理できる調理室、販売スペースを兼ねた食堂、屋上で公園の緑を楽しみながら食事ができる屋上テラスなど、すべてが具体的なイメージを持って表現されている。また、この施設を公園内に併設されている「花と緑の情報センター」が運営しているというところまで記述されているのにも感心させられた。更に特筆すべきは、このコンクールの趣旨を非常によく理解していると思われる表現手法である。手描きであることは勿論ではあるが、収穫された野菜の挿絵やパース、パースに至っては全作品の中で一番目を引かれた秀作であると思われる。ニーズを的確に読み取り、デザインした建築を図面や言葉で表現するという、我々に求められる基本的な職能を、今後の経験を生かして更に醸成されることを期待している





◀審査コメント／武田史朗

住宅街など市街地における体育施設の設計においては、巨大なボリュームと内部に完結した機能性ゆえの圧迫感や閉鎖性が周辺環境に与える悪影響をいかに緩和し、逆にそのスケール感を活かすのかといったことが、工夫のしどころになると考えられる。この作品では、体育館の大きさに勝る大きな庇を街に面して設け、内部にもゆったりとした不整形な「ホール」をおくことで、体育館という特定目的の施設の巨大さを相対化すると同時に、体育館を含む施設全体を地域住民が集まる「大きな傘」に見立てている。体育館の大きさを逆手にとって、地域の人々を招き入れるような優しさを醸し出している点に、好感を抱いた。

造形的なオリジナリティの主張は希薄だが、シンプルでおおらかな空間の分節が、都市空間の段階的な内部空間への取り込みと、透明なガラス1枚では往々にして失敗してしまう体育施設内の活動の「見える化」を、卒なく同時にこなすという結果を導いているように見える。一方、敷地内の「通り抜け」なども言及されつつ明確にはその様子が伝わらず、内部空間のホールも行き止まりになっている。周辺の環境とのより具体的な関係についての表現がなかったことが惜しまれた。

入選 菅野大樹・酒井良輝・安藤翔一 北海道名寄産業高等学校3年

広場を地域の人々で祭りなどに使用できるようにしています。内と外を仕切らず、繋がりを持たせ自由に行き来できるようになっています。テラスはお茶を飲んだり、軽食をとったりできる休憩や、くつろぎの場所としました。親子のスポーツの場を設け、体育館が使えない時に遊び場や、交流の場として使えます。お年寄りのことを考えて足湯を設け、くつろぎの場やお年寄りの交流の場として使えます。

以上のように大屋根の下でみんなが楽しめる体育館にしました。

入選したことを先生から告げられ、授業中でありながら興奮して声を大にして喜んでしまいました。また、この作品には、私達の地域に対する想いをここぞとばかりに表しています。この作品を選んでいただき、大変うれしく心の中は感謝であふれています。ありがとうございました。

入選 清水祐太・江口将司・川端孝幸 北海道名寄産業高等学校3年

この作品を制作するにあたって、私たちが住む町に欲しいと思える様な体育館を設計しました。まず、私たちが住む町の体育館を使っていて、不便だと思うところを書き出す事から始めました。私たちが住む町にはスポーツセンターという地域の体育館があり、不便なところがたくさんありました。例を挙げると、体育館内部が暗いという点がありました。そこでハニカム構造を用いることにより、内部に光を取り入れることで明るい空間を作り出すことができました。また採光だけでなく、名寄という町はたくさん雪が降る町なので、耐久性やデザイン性を考えた結果ハニカム構造を採用しました。

三人で力を合わせて作り上げた作品が、まさか入選になるなんて本当に驚きました。私たちの他に、かなりの時間を使って協力して下さった様々な先生方や、友達にとっても感謝しています。私たちは今回入選という結果でしたが、後輩たちにはさらに上へ上へと目指して欲しいと思います。私たちの3人の中の2人は卒業後、建設会社に進むことになっているので、このコンペや今までの学校生活で得た経験を活かし、地元の発展に努めていければいいと思っています。



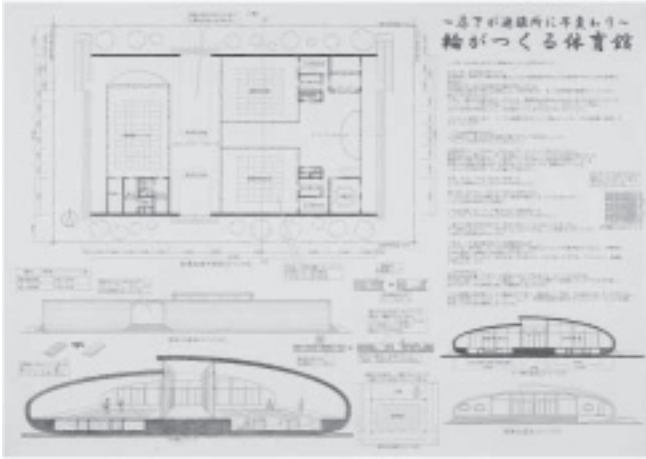
▶審査コメント／菅野忠司

地下埋設や敷地レベルの利用は、建築がより立体的になり、空間の魅力が増大する。そのことに気付いた作品は複数あったが、より一歩前進させた提案がこの作品にはあった。構造形態への着目である。

「なぜハニカムなのか」、教室でこの本に出会ったからと説明にあったが、建築にはこのような出会いはとても重要である。出会いはたまたま偶然なのかもしれないが、出会いを建築に昇華させるためには、挑戦する目的意識が必要である。この作者にはその気持ちがあった。またあらゆる世代に利用してほしいというコンセプトにも好感が持てた。地下

にしたのは地球環境への配慮のみでなく利用者に優しい気持ちが理由であった。ギャラリーフロアーとGLを合わせ、お年寄りも体育館施設に参加できる発想は実際の体育館にも取り入れたいものである。

今回の審査では「建築が大好きだ」と感じさせる作品を選出した。16～18歳の若者は、技術・情報・思考という面では建築のプロには当然かなわない。しかし、建築に対する気持ちはプロと同等でもそれ以上でも全くおかしくなく、私の最大の評価軸におかせていただいた。これからもますます建築を好きになってほしい。



入選 深沢 司 山梨県立甲府工業高等学校 3年

東日本大震災があったことで、避難所として体育館が使われることが多かったけれど、避難してきた人は、プライバシーの確保が全然されていなかったと思います。なので、避難所としての役割を重視し、避難者が快適に過ごすことができるよう「床下」を利用した体育館を考えました。

前回の建築協会のコンペは入選することができなかったのですが、今回は入選することができてとても嬉しかったです。この作品に取りかかることができる期間がとても短かったので、空き時間を探して一生懸命取り組んだ思い入れの強い作品です。その作品で入選できたので満足です。

入選 鈴木佑輔 三重県立四日市工業高等学校 3年

私は小さい頃から外で遊ぶことが多かったです。高校生になった今、周りを見渡すと、小さい子が安全に楽しく遊べるような場所はとても少なくなってしまったと思います。私は今回地域の体育館というコンペのテーマと、この現状がマッチすると思いました。子供たちの遊び場でもあり、人々の交流の場でもある、そんな地域の中心となるような体育館であればいいと思いました。

私は今回、設計製図のコンペで初めて賞を頂きました。小中高と運動部に所属しており、面と向かって相手と勝負するのではなく、見えない相手を思いながら努力するのは難しいことだと思いました。また、結果発表も私にとっては独特なものでとても緊張しましたが、先生からこの通知を知らされた時はとても嬉しくて少し安心しました。多くの時間を費やした自分の努力が少しでも評価されたことを嬉しく思います。

▶審査コメント／上原 徹

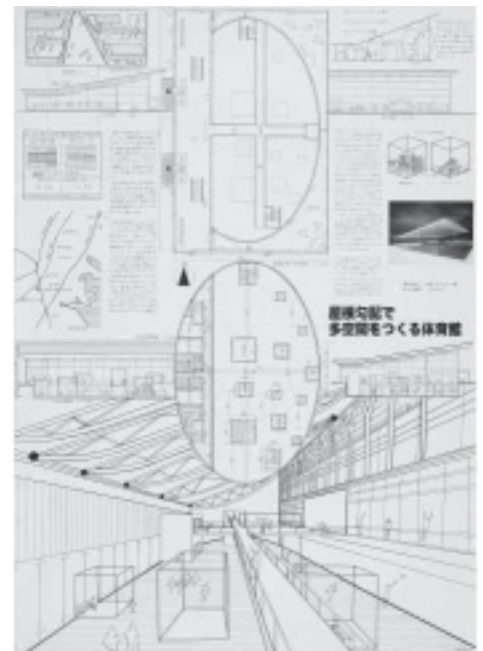
自らの体験と、さらには地元体育館の使用状況の調査まで行い、遊び場としての路地空間の実現、世代を越えたコミュニケーションが生まれる仕掛けづくりなど、一般の人が利用しやすく、また利用したくなる体育館の新しいあり方を提案している。勾配屋根によって生まれる天井高さの違いや、周囲を取り囲むギャラリーや空中廊下が、様々な特徴ある空間を作り出している。さらに防災施設やキッズルームなどボックスを配置することで、そこに生まれる空間とともに、様々な使い方が提案されている。これらの空間の中でスポーツに限らず、利用する人や使い方を限定していないところが魅力的である。

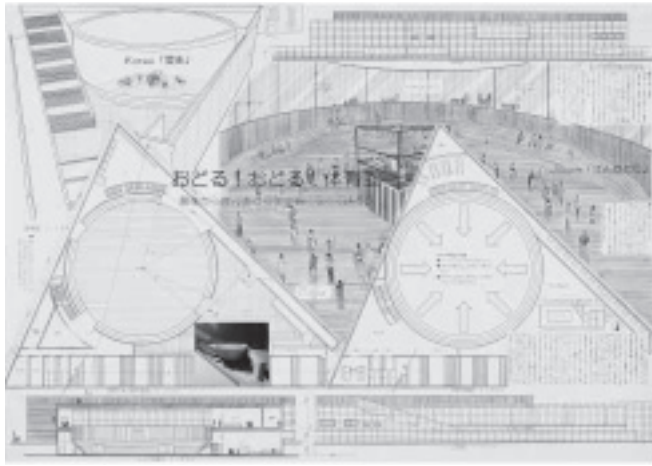
アリーナは地下1階に配置して全体のボリュームを抑えているが、立地の状況がわかればよりその意味合いが出てくること、さらに地上のギャラリーとアリーナの関係をより緊密にする、例えばオープン階段やスロープなどの仕掛けがあれば、より使い方や空間に幅ができたのではないかと思う。図面について言えば、平面の向きと内観パースの方向を合わせていれば、より空間が捉えやすくなったと思うものの、図面構成は大胆で表現に迫力があり、作りたい空間を訴えかけるものになっている。

◀審査コメント／奥田英雄

ふくよかな曲線が訪れる人々を穏やかに結んでくれる、どうやら作者の優しい想いに引き付けられたようである。地域にたたずむユニークな形態は印象のまま愛称がつけられ、ゆるキャラのように地域コミュニティの核になってくれるかもしれない。中央部に挿入された半屋外空間と妻面の大開口により、体育館で営まれる活動が来訪者だけでなく通りすがりの人々にも広くうかがい知ることができ、見る・見られる・互いに語り合うという本来当たり前であったコミュニケーションが触発され地域の結束感醸成の一助になると思われる。そしてこの施設のもうひとつの顔は災害時に機能を発揮する。床下に設けた備蓄庫を有事には区割りした生活スペースに転用する提案は、実際の避難所生活の苦勞をリサーチし発想されたきめ細やかな配慮を感じた。

今回のテーマ「地域の体育館」に期待された地域交流の活性化や災害時の支援拠点など多くの複合的な課題のいくつかを、優しい形態でコンパクトな作品にまとめあげた卓越した感性に好感を持った。しかしながら、せっかく隣接する公園との連続性や、災害時の床下区割りスペースの収容人員とこの体育館を利用するエリア人口との整合性に関して、若干の疑義を感じたことは少し心残りになった。





▲審査コメント／倉渕奈千子

楽しい体育館への思いが紙面いっぱいに込められた案である。体育館と言う身近な課題に取り組むキーワードとして「農楽」と「ぼんおどり」に着眼し、そこから生まれる色々なシーンをうまく素直に建築化した点が評価される。

ランドマークとなる円形は、踊る形態の輪からイメージされており、正面が無いことで皆が主役になれる、円の中心に目が向くので演技に集中できること等の狙いからも選択されている。GLレベルより体育館床を落とすことにより周辺景観になじませた点や、2階各室より体育館内

入選 中村未沙紀 三重県立四日市工業高等学校 2年

「農楽」の練習場所が小学校の体育館にしかない、「ぼんおどり」の練習場所や披露する場所が少ない、という理由で、この作品を制作しました。また私の地域ならではの事を題材にした作品を作りたいと思ったこともあり、「農楽」と「ぼんおどり」に焦点をあてて考えました。

驚きと同時に嬉しさを感じました。先生と一緒に約一か月間頑張った甲斐があったと思います。もっと上の賞に入りたかった気持ちはありますが、今回のこの入選という賞を頂けた事にとっても感謝しています。

部を見ることができる断面計画もうまくまとまっているが踊りを外部へも見せるしかけがあれば、より楽しい館となるであろう。エントランスホール、カフェのプロポーショナルも、一考の余地がありそうである。

図面表現、パース、レイアウトのバランス感覚が良く、細部まで神経の行き届いた仕上がりとなっている。特に一人ひとりを温かい目で描いたパースは、一人ひとりのことを考えながら設計に取り組んだ姿勢が伝わりとても好感を持った。これからもこの姿勢、まなざしを大切にしていきたいと思います。

入選 田中奈生耶 広島市立広島工業高等学校 3年

地域の体育館の設計ということで、コンセプトを「通り抜け」と設定しました。平和公園内に建てることで、慰霊碑めぐりの流れを誘発する新しい動線を提案できればと思い、この体育館を設計しました。そして壁面を大きく開け放ち開放することで、様々な使い方が生まれ、避難時には水平になるまで持ち上げられた壁面が民衆の屋根となります。また普通の日でも壁面を開放することで通り抜けができることや、大きな庇ができることで平和学習などを行うことができます。こういった様々なことが、一つの体育館でできればいいと思い、この形にしました。

図面の作図や模型製作はとてもきつく、模型製作はクラスメイトに手伝ってもらい完成させることができました。そして努力の結果入選することができたのでとても嬉しかったですし、頑張った良かったなと思いました。ですが自分の力だけではなく、先生方の指導やクラスメイトの手伝いがあったからこそこの賞だと思います。またこの活動を活かしてこれからの役立てていきたいです。これから大学に進学して意匠系の勉強を行い、知識を深めていきたいです。



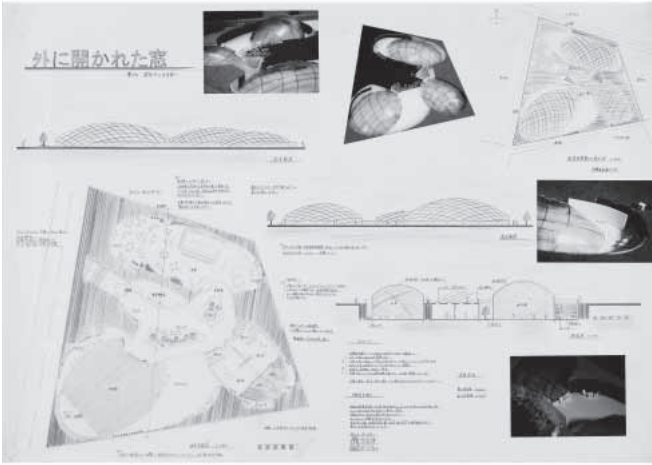
▲審査コメント／南浦琢磨

近代日本の魂である「広島の平和記念公園」を敷地に設定したことは、審査員のなかで賛否両論があった。しかし、作者があえて難しい計画条件を選定し、戦争で学んだ過去の教訓、そして震災・災害に対する未来への備えとともに、「平和」というテーマで結びつけ、新たな「地域の体育館」を求めたチャレンジ精神は大いに評価したい。

計画のポイントである「民衆の屋根」と称した大きく開放する壁面、そして内外一体として機能する空間構成は、高校生離れた洗練されたプランニングと精度の高い図面表現、内部へ引き込まれそうなダイナミックな模型により、強い主張を感じることが容易にできた。

総じて他の作品よりも、「洗練された表現力」と「計画の実効性」をより強く感じられた。

課題と捉えたのは、デザイン全般に工業的なイメージが強く感じられた。「語り部空間」という人伝えで物事を継承していく空間を提案されているが、もう少しヒューマニティーのある空間造りを意識し、あわせて敷地の歴史性・地域性を読み込み新たなデザインの切り口を学んでいただければ、よりコンセプトに筋が通った作品になったのではと感じる。作者の将来の活躍に大いに期待したい。



入選 岡田あゆみ 大阪市立工芸高等学校 3年
「子供を中心とした体育館を考えたい!」と思い、日本で一番出生率が高い沖縄県の糸満市に設計することにしました。自分なりにどうすれば地域と人が繋がるのかを考え、先生からのアドバイスもあり、ドライエリアを設け、その場に応じて有効に使えるように。災害時の時にも使えるお風呂や、大きな食堂もあります。ガラス張りの体育館は開放的で光が射し込み、暖かい空間になっていると思います。自分が入選したと思えなくて、嬉しいという気持ちよりも驚きすぎて何も考えられませんでした。「自分には建築の才能がない」と考えることが多々ありましたが、今回の入選で少しでも自信をつけてこれから活かしていきたいです。自分ひとりの力ではなく、いろいろな方に支えられてできた作品だと思います。努力を忘れず頑張っていきたいです。

◀審査コメント／木下 光

図面に書き込まれている内容を詳しく読むと、沖縄や敷地の歴史及び風土に対するしっかりとした知識を持って、提案していることを感じる。体育館は、通常、大きなボリュームになりやすいため、その地域社会でも存在感を示しがちであるが、丁寧に調べた沖縄の自然環境という文脈をふまえて、敷地を掘り込み、全部埋めるのではなく、半地下にした三つの球状の空間で構成させるという良質なアイデアを導きだしている。だから、地域のシンボルとなりながらも、景観として突出していない。敷地と建築の隙間のスペースであるサンクンガーデンと呼ぶべきオープンスペースも魅力的な場所になりそうであり、そこの植えられた木々がつくる日陰は、沖縄では風が吹くと、とても気持ちのよい場所になるだろう。食堂や子供たちの勉強スペース、温泉などのプログラム構成も、個々の場所の使いわれ方がイメージされやすく、好感がもてる。難をいえば、色の塗り方や図面の書き方など、図面表現がリサーチのようにより丁寧であれば、もっと素晴らしい出来映えになったのではないと思う。

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。
文責・門脇裕之／教育委員会
写真撮影：河合止揚（アトリエリベラ）

●応募学校

- ・北海道名寄産業高等学校
- ・栃木県立宇都宮工業高等学校
- ・埼玉県立春日部工業高等学校
- ・東京都立蔵前工業高等学校
- ・新潟県立上越総合技術高等学校
- ・山梨県立甲府工業高等学校
- ・三重県立四日市工業高等学校
- ・滋賀県立安曇川高等学校
- ・大阪市立工芸高等学校
- ・堺市立堺高等学校
- ・兵庫県立東播工業高等学校
- ・広島市立広島工業高等学校

【表彰式】



●審査記録

10月11日 予備審査：応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。検討の結果、一部の作品に要求図面用紙等の不備が見られたので、予備審査結果を審査会に報告することとした。
(教育委員会・工高生教育小委員会)
10月16～19日 審査会：欠席の審査員4名による事前審査を行った。
10月20日 審査会：審査委員6名により当日審査を行った。(審査時間14：10～17：00)

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校数、応募作品数の報告を行い、一部の作品の要求図面、用紙等の不備に関して予備審査報告がされた。その結果審査に影響する大きな違反ではないと判断されたので全作品

を本審査の対象とした。続いて、審査委員長より審査方針の確認があり、審査に入った。
■1次審査（審査委員6名）60作品→27作品
全応募作品について、審査委員1名につき10作品を選んで投票し、集計した。

得票	9	8	7	6	4	3	2	1
作品数	3	2	2	1	3	3	1	12

票を得た27作品を1次審査通過とした。
(審査時間14：10～15：10)
■2次審査（審査委員6名）27作品→15作品
1次審査にて得票3以上の14作品をまず2次通過とし、続いて得票1、2、の13作品について審議し、そのうち1作品を2次審査通過とした。(審査時間15：15～15：45)
■3次審査（審査委員6名）15作品→入選10作品
2次審査通過作品にて、審査委員1名につき5作品ま

でを選んで投票を行った。得票のあった9作品をまず入選とし、引き続き得票0の6作品について審議を行い、1点を入選とし合計10点の入選作品を決定した。
(審査時間15：45～16：15)

得票	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	1	2	2	2	1	6

■4次審査（審査委員6名）入選10作品→最優秀作品1点、優秀作品2点
引き続き、優秀作品3点を選ぶにあたり、入賞作品10点について審議し、最優秀作品1点、優秀作品2点を決定し審査を終了した。(審査時間16：15～17：00)
会誌「建築と社会」への審査経過報告掲載にあたり、10点の入選作品について審査委員が分担してその評価を紙面にまとめることを約束し、審査会を終了した。
(審査会終了時間17：15)

第8回学生のための見学会 ～ショールーム巡り～ 「(株)ユニオン」 と 「(株)ダイナワン」

申込はFAXかE-mailで
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp

学生のための見学会とは、建築及びデザインを学ぶ学生のために、進行中の建築現場や工場を紹介し、見学の機会を提供するものです。大学などの授業だけでは、建築現場や工場での製品が作られる過程やものづくりのポイントを伝えることは困難な面があります。そこで、日本建築協会では、教育現場からの要望を取り入れ、その要望を橋渡しする役目を担うべきと考え、この企画を開催しています。

第8弾の今回は、大阪市内のショールームの見学を企画しました。ドアハンドルの「ユニオン」と株LIXILの100%出資子会社の「ダイナワン」です。「ユニオン」では、オーダーハンドルのデザインから製作過程を見ていただきます。「ダイナワン」では、意匠性の高いタイル製品の見学とタイルができるまでの工程を、レクチャーを入れてみていただきます。教室内の議論では決して学ぶことが出来ない制作の現実を、是非見学してみてください。

日時 2013年 2月14日(木)
13:30～16:30
見学先 「(株)ユニオン」
13:30～14:30
大阪市西区南堀江2-13-22
「(株)ダイナワン」
15:00～16:30
大阪市西区新町1-7-1
LIXIL四ツ橋ビル2F
集合 「(株)ユニオン」ショールーム前
定員 30名
参加費 500円(保険代、資料代)
申込 申込用紙に記入の上、FAX
またはE-mailで。
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp
(社)日本建築協会編集事業課
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
TEL.06-6946-6981

集合場所：(株)ユニオン



地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅 6号出口より西へ徒歩 8 分
地下鉄千日前線西長堀駅 6号出口より東へ徒歩 6 分
地下鉄長堀鶴見緑地線西大橋駅 3号出口より南へ徒歩 6 分

名称	「(株)ユニオン」・「(株)ダイナワン」ショールーム見学会
学校名・学部・学科	
引率者職名・氏名	おられない場合は記入不要
学生氏名・学年	
学生氏名・学年	
学生氏名・学年	
参加通知書送付先住所 TEL・E-mail	〒 TEL E-mail

若き創造者たちへ

「第60回青年技術者顕彰」へのおさそい

日本建築協会では、昭和29年から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年は第60回という節目の年となりましたが、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（平成25年3月29日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。
2. 原則として、すいせん者を通じて応募する。
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしたげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第60回青年技術者特集号」（平成25年7月号）に掲載する。

6. 提出資料

■すいせん用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードして下さい。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めてA3判用紙5枚以内にまとめる。

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料
- ④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者本人の執筆に限る。このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。

7. 提出期限 平成25年3月29日（金）

8. 提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャンダイズ・マートビル7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

Email : h-katayama@aaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会（平成24年度）※3月現在

委員長 米井 寛／㈱東畑建築事務所執行役員大阪事務所副所長

委員 吉岡 聡司／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻／キャンパス地域デザイン研究室助教

佐々木 栄／㈱昭和設計執行役員建築部門建築設計部統括

八木 康行／スタジオエイトアーキテクト代表

高梨雄二郎／㈱竹中工務店プロジェクト開発推進本部副本部長（西日本担当）

山浦 晋弘／㈱安井建築設計事務所構造部長

辻 聖晃／京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

高山 真／㈱日建設設備設計部門設備設計部長

井村 隆／清水建設㈱関西事業本部設備設計部設計長

山辻 直樹／大成建設㈱関西支店建築部購買管理室課長

阪井 聡／㈱大林組大阪本店建築事業部生産技術部部長

①開館40周年記念 日本画 その妙なる世界

西宮市大谷記念美術館では、そのコレクションの中でも白眉である「日本画」の館蔵品展を数年来新春に開催しており、愛着を持って親しまれている。本展では、上村松園の三点の美人画のほか、川合玉堂、横山大観などの代表的な所蔵品を一堂に集めて展示。ひろがりのある空間、観念の表現、自然の美、たえずまいの美といったテーマを辿りながら、日本画独特の美の世界を紹介する。

●主な出品作家：伊東深水／上村松園／川合玉堂／下村良之介／杉山寧／寺島紫明／富岡鉄斎／富田溪仙／橋本関雪／福田平八郎／前田青邨／山元春挙／横山大観／山下摩起ほか

期 間 1月2日(水)～2月17日(日)
10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 水曜日(1/2を除く)

会 場 西宮市大谷記念美術館
兵庫県西宮市中浜町4-38
TEL.0798-33-0164

観覧料 一般300円、高大生200円、
小中生100円

※無料開館日 1月2日(水)、1月3日(木)

●講演会「日本画の魅力 西東」

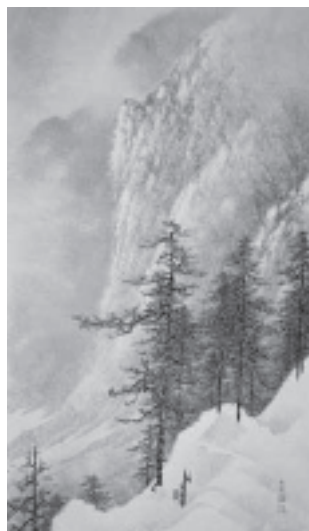
講 師 島田康寛氏
(神戸市立小磯記念美術館館長)

日 時 1月27日(日) 14:00～

定 員 100名(小学生以上)

聴講料 無料(観覧券が必要)

※1月6日(日) 9:00より電話受付



山元春挙《雪遊鹿図》1926年頃 紙本着色
西宮市大谷記念美術館

②フィンランドの暮らしとデザイン —ムーミンが住む森の生活

日本でも人気の高いフィンランドのモダンデザイン。自然と風土に根ざした素朴なものづくりに始まり、人々の豊かな暮らしの実現と社会への還元という視点からデザインを追求してきたフィンランドのデザインは本当の意味での「ユニヴァーサル・デザイン」を達成している。展覧会ではこのデザインの根底に流れるフィンランドの精神を「スオミの森」の通称に見出し、そこから生み出された19世紀末から現代までの美術やデザインを、『ムーミン』の原画を含め、約350点の作品で紹介する。

期 間 1月10日(木)～3月10日(日)
10:00～18:00 金・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)
休館日 月曜日(1/14、2/11は開館、1/15、2/12は休館)

会 場 兵庫県立美術館3階 企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL.078-262-0901

観覧料 一般1,300円、大学生900円、
高校生・65歳以上650円、
中学生以下無料

■関連事業

聴講料 無料(観覧券が必要)

●講演会

(1)「生活文化とデザイン」

講 師 安藤忠雄氏
日 時 1月20日(日) 14:00～15:00
会 場 兵庫県立美術館ミュージアムホール
定 員 250名・先着順
※当日12時より整理券を配布予定。

(2)「持続可能なモダニズム ～サーリネン、アアルト、そしてフィンランドの今～」

講 師 橋本優子氏(宇都宮美術館学芸員／本展企画者)

日 時 1月13日(日) 14:00～15:30
会 場 兵庫県立美術館ミュージアムホール
定 員 250名・先着順

(3)「アートからデザインへ、デザインからアートへ フィンランドから現代を考える」

日 時 2月17日(日) 14:00～17:00
(休憩時間含む)
会 場 兵庫県立美術館ミュージアムホール
定 員 250名・先着順
各講義のあと4名で座談会

①「自然と交感するデザイン：環境に応えるデザインの未来」

小玉祐一郎氏(神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科教授)

②「国際共同デザインプロジェクト報告：『ヘルシンキー神戸 Eating in Open Air 戸外の食事』」

逸身健二郎氏(同大学プロダクトデザイン学科教授)

③「アート・教育・コミュニティを考える。フィンランドとヨーロッパ」

佐久間華氏(同大学院芸術工学研究科助手)

④「森の想像力：ムーミントロールと日本のフムフム」

山崎均氏(同大学デザイン教育研究センター教授・博物館学芸員課程担当)

(4)「フィンランドと日本と デザインのおはなし」

講 師 ユホ・ヴィータサロ氏(インダストリアル・デザイナー／日本インダストリアルデザイナー協会JIDA会員)

日 時 2月11日(月・祝) 14:00～15:00

会 場 兵庫県立美術館レクチャールーム

定 員 100名・先着順



アルヴァ・アアルト《アームチェア「バイミオ」》1932年 アルヴァ・アアルト美術館
photo ©Maija Holma/Alvar Aalto Museum, Jyväskylä

③コレクション名品選「こんな人がいた!兵庫美術家列伝」

地元ゆかりの美術家たちによるユニークな作品群をご紹介します。うち1室では、旧・兵庫県立近代美術館の西館に「横尾忠則現代美術館」が11月に開館したのにあわせ、西脇市出身の横尾の作品をまとめて展示する。

●主な出品作家：小出楢重／横尾忠則／津高和一／白髪一雄／東山嘉事ほか

期 間 2月24日(日)まで
10:00～18:00 特別展開催中の金・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(1/14、2/11は開館、1/15、2/12は休館)

会 場 兵庫県立美術館1・2階 常設展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL.078-262-0901

観覧料 一般500円、大学生400円、
高校生・65歳以上250円、
中学生以下無料



津高和一《母子像》1951年
兵庫県立美術館

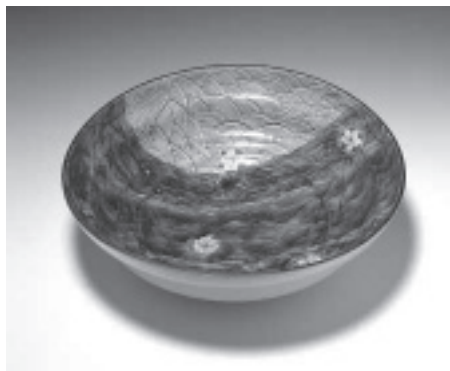
■同時開催

小企画「赤鉛筆のアウトサイダーおばたまきお小幡正雄展」
アール・ブリュット／アウトサイダー・アートの作家として国内外で評価の高まっている小幡の作品を一堂に展示。

④新春特別展 生誕130年 魯山人の宇宙

北大路魯山人（1883－1959）は、陶芸や書、絵画、漆芸などの幅広い分野において、伝統を学びつつ、斬新で個性的な作品を手がけた芸術家として知られる。特に陶芸では、料理と器の総合的な演出を目指し、鋭く優れた感覚で独特の魅力を持つ陶磁器を生み出した。本展では、アメリカから里帰りしたカワシマ・コレクションを含め、笠間日動美術館の所蔵品から約80点を展示し、世界的にも高く評価されている魯山人の感性と軌跡を紹介する。

期 間 1月5日(土)～2月3日(日)
9：30～18：30 金・土曜日は19：30まで（入館は閉館30分前まで）
会期中無休



北大路魯山人 くたにふうはち 九谷風鉢 笠間日動美術館蔵
(カワシマ・コレクション)

会 場 明石市立文化博物館
明石市上ノ丸2-13-1
TEL.078-918-5400

観覧料 一般1,000円、大生700円、
小中生500円

■関連事業

●講演会「魯山人の芸術」

日 時 1月20日(日) 14：00～15：30
講 師 中ノ堂一信氏（京都造形芸術大学
大学院客員教授）
定 員 80名（申込順）
聴講料 無料（観覧券が必要）
※1月6日(日) 10：00より電話受付

⑤特別展 没後10周年 田中一光デザインの世界～創意の軌跡

奈良の旧市内に生まれた田中一光は、幼少の頃から歴史的環境と親しみ、豊かな感性を培ってきた。東西美術の様々な美的要素を取り入れて独自の美意識を確立し、海外でも高く評価された田中一光スタイルの形成の原点をここにうかがうことができる。デザインのみならずオリンピックや国際万博などのアートプロデューサーやディレクターなど多彩な活躍をしたが、本展は、その膨大な業績の中から造形的な側面にスポットを当て、版画・グラフィックアートなど、ライフワークとして制作された作品を中心に展示する。あわせて、未発表のデッサン、ドローイング、油彩画などを特別展示し、アーティスト田中一光の創意の根源を探り、創造の追体験を試みる。

期 間 1月12日(土)～3月20日(水・祝)
9：00～17：00 金・土曜日は19：00まで（入館は閉館30分前まで）
休館日 月曜日（1/14、2/11は開館、1/15、2/12は休館）

会 場 奈良県立美術館
奈良市登大路町10-6
TEL.0742-23-3968

観覧料 一般800円、高大生600円、
小中生400円

■関連事業

●講演会「田中一光の世界」

講 師 鍵岡正謹氏
(岡山県立美術館館長)

日 時 2月24日 14：00～
会 場 奈良県立美術館レクチャールーム
定 員 70名
聴講料 無料（観覧券が必要）

●デザインの日・ギャラリー・トーク（JAGDA 協力）

「太田徹也氏と平野煌太郎氏の対談」（予定）

日 時 2月10日 14：00～
会 場 奈良県立美術館レクチャールーム
定 員 70名
聴講料 無料（観覧券が必要）



田中一光「第5回産経観世能#1」ポスター
1958年 産経経済新聞社（現：産経新聞社）、
大阪新聞社

▶第42回 日本産業技術大賞 募集

「日本産業技術大賞」は、その年に実用化された革新的な大型産業設備・構造物や、先端システム技術の開発、実用化で顕著な成果をあげた企業・グループを表彰し、産業界や社会の発展に貢献した成果をたたえとともに、技術開発を奨励することを目的としている。最優秀と認められた企業・グループに「内閣総理大臣賞」を、次席に「文部科学大臣賞」が授与される。また、それぞれに「日刊工業新聞社賞」もあわせて贈られる。

●募集期間

2013年1月31日まで（必着）

●候補の対象

2012年中（2012年1月1日から12月31日）に完成した技術成果のうち、以下に該当するもの。

- (1) 産業の発展に貢献度の高い大型産業設備、構造物の開発
- (2) 独創的、画期的で産業・社会に変革をもたらしたシステム技術の開発
- (3) 地球環境保全に大きな効果を発揮した設備の開発

●応募方法

申請書に記入の上、応募技術に関連する産業団体、学会、協会などの推薦を受けて応募。詳細は下記ホームページ参照。

<http://www.nikkan.co.jp/cop/prize/priz07000.html>

本欄掲載の①～⑤の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（80円）を日本建築協会事務局までお送りください。

特集：東畑建築事務所 創立80周年

協賛広告目次

(株)大林組……………	(表紙4面掲載)	(株)サンプロス……………	78
清水建設(株)……………	(表紙2面掲載)	サンレイズ工業(株)……………	78
竹中工務店……………	64	(株)島津理化……………	78
(株)新井組……………	65	新明和工業(株)……………	78
浦安工業(株)……………	65	住友電設(株)……………	79
大関化学工業(株)……………	66	(株)スミノエ……………	79
(株)きんでん……………	66	西部電気建設(株)……………	79
(株)熊谷組……………	67	セントラル硝子関西(株)……………	79
三機工業(株)……………	67	大気社……………	80
(株)昭和洋樽製作所……………	68	太陽セメント工業(株)……………	80
ダイダン(株)……………	68	高砂熱学工業(株)……………	80
大日本土木(株)……………	69	(株)中電工……………	80
鉄建建設(株)……………	69	(株)築柴……………	81
TOTO(株)……………	70	東洋建設(株)……………	81
ナブテスコ(株)・ナブコドア(株)……………	70	東リ(株)……………	81
(株)パラキャップ社……………	71	戸田建設(株)……………	81
(株)日立プラントテクノロジー……………	71	飛鳥建設(株)……………	82
ヤマギワ(株)……………	72	トリスミ集成材(株)……………	82
ワイエム工業(株)……………	72	(株)内外テクノス……………	82
アーキヤマデ(株)……………	73	(株)西田興産……………	82
IHI運搬機械(株)……………	73	(株)西原衛生工業所……………	83
アイカ工業(株)……………	73	日本興業(株)……………	83
(株)青井黒板製作所……………	73	日本コンクリート工業(株)……………	83
(株)朝日工業社……………	74	日本スピンドル製造(株)……………	83
浅海電気(株)……………	74	日本ノイズコントロール(株)……………	84
安藤建設(株)……………	74	日本ファイリング(株)……………	84
(株)S&Sエンジニアリング……………	74	(株)間組……………	84
大塚オーミ陶業(株)……………	75	花豊造園(株)……………	84
奥アンツーカ(株)……………	75	(株)ビー・エス三菱……………	85
(株)奥村組……………	75	日立機材(株)……………	85
(株)ガーデンラボ……………	75	(株)平田タイル……………	85
元旦ビューティ工業(株)……………	76	(株)藤木工務店……………	85
(株)栗本鐵工所……………	76	(株)フジタ……………	86
(株)くろがね工作所……………	76	(株)フジ大理石……………	86
コクヨファニチャー(株)・コクヨマーケティング(株)……………	76	不二熱学工業(株)……………	86
小松ウォール工業(株)……………	77	丸五基礎工業(株)……………	86
三建設備工業(株)……………	77	丸善(株)……………	87
(株)三晃空調……………	77	(株)LIXIL鈴木シャッター……………	87
三精輸送機(株)……………	77	ルノン(株)……………	87

TAKENAKA

守る、 創る、 思いやる ビルへ。



野坂徹夫：画

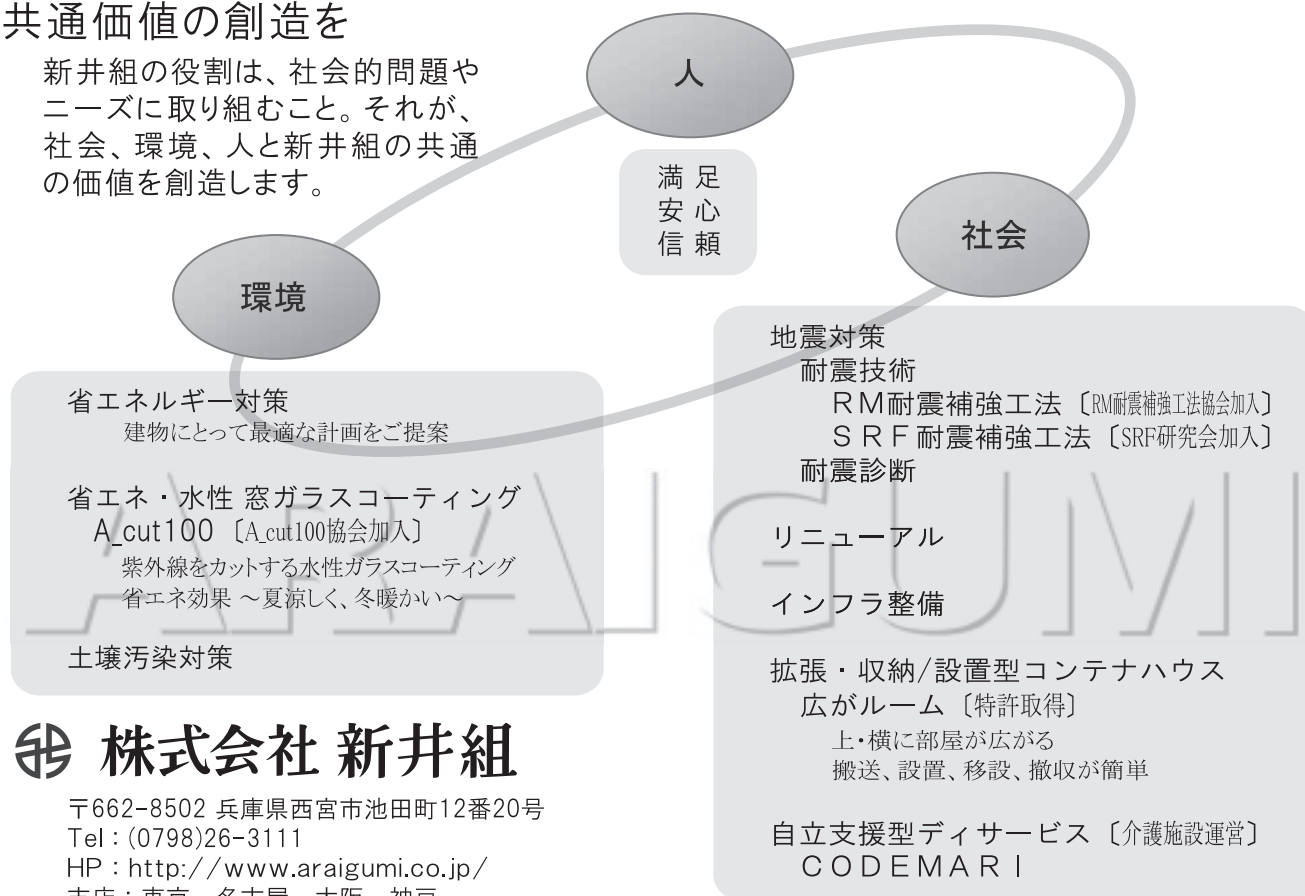
災害から人々の暮らしを守る。
エネルギーを創り、分けあう。
都市を、そして地球を思いやる。
これからのビルはこうじゃないとね。

想いをかたち

 竹中工務店

共通価値の創造を

新井組の役割は、社会的問題やニーズに取り組むこと。それが、社会、環境、人と新井組の共通の価値を創造します。



株式会社 新井組

〒662-8502 兵庫県西宮市池田町12番20号
Tel: (0798)26-3111
HP: <http://www.araigumi.co.jp/>
支店：東京、名古屋、大阪、神戸

人と地球にやさしい技術
—Clean and Safety



浦安工業株式会社

〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-8-7
TEL 03(3624)2441
<http://www.urayasukogyo.co.jp>

創業昭和18年5月。浦安工業株式会社は、
豊富な経験を駆使した

各種設備の設計・施工を通して、「人と地球の豊かで快適な環境づくり」に貢献しています。

環境を守り、信頼に応える

パラテックス PAT.3176831

飲料用コンクリート水槽

パラテックスEP-ライニング工法
パラテックスB-5工法

排水施設(防食被覆工法)

パラテックスEP-GS/EP-GSX工法

各種水槽(耐食防水仕様)

パラテックスB-3、4A、6D工法

外壁

バラトーン工法、バラテックスDW工法、
クリアコートeco、バラクリア工法

ベランダ、庇

バラテックスA-1、2、3、4、5、6工法、バライージー

屋上、斜屋根、ルーフバルコニー

バラテックスC-1、2、3、4、5、6工法、
バラテックスC-VR工法、
バラテックスRB-C-VR工法、
ヒートバリアトップ

厨房、トイレ、浴室、窓廻り、各種防水補強

バラテックスA-1工法

フリーアクセスベースフロア

バラテックスQ工法

地下外壁、各種水槽

バラテックスB-2工法

プール、植栽、地下内外壁、トンネル、共同溝

バラテックスB-1工法



大関化学工業株式会社

PARATEX

<http://www.ozeki-chemical.co.jp>

神戸市東灘区住吉南町1丁目1-15 〒658-0041

TEL:078-841-1141 FAX:078-841-2241

北海道 011-222-4850

名古屋 052-937-8728

九州 092-524-1360

大関化学研究所 078-822-0058

東北 022-221-7142

関西 078-811-1147

東京 03-3582-7371

中四国 082-830-5621

大関化学(上海)有限公司 +86-21-6432-9600

Kinden

チーム、きんでん。

(施工力+技術力+現場力)×情熱

“お客さま満足”という目標に向かって、
さまざまなスタッフが力を結集。
人間力を基盤とした総合エンジニアリング力で、
あらゆるソリューションにお応えします。



エネルギー 電気 衛生 情報 環境 内装 土木 計画 空調 情報通信

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 東京本社 東京都千代田区九段南2丁目1番21号

TEL.06-6375-6000 TEL.03-5210-7272

<http://www.kinden.co.jp/>

きんでん

人と地球の未来を考える



熊谷組

本社 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2番1号
電話：(03) 3260 - 2111

関西支店 〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目11番7号
電話：(06) 6225 - 2226

エネルギーを考える

エコ社会を実現する
三機工業の取り組み

エネルギー × 技術
||

CO₂排出量削減



三機工業株式会社

関西支社：〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-4-30

本社：〒104-8506 東京都中央区明石町8-1

www.sanki.co.jp



World Finest Flooring

世界中から選りすぐったフローリングをお届け致します



株式会社 昭和洋樽製作所

本社 〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知2丁目22番17号 TEL (06) 6492-1328 FAX (06) 6492-1393
東京本部 〒140-0013 東京都品川区南大井5丁目23番16号 TEL (03) 5753-2655 FAX (03) 5753-2656

URL <http://www.showayotal.co.jp>

光と空気と水を生かす

~ Always with you ~

いつもあなたと共に…

ダイダンが届けたいのは、
人と地球に優しい快適さです。

ダイダン株式会社は電気設備技術、空調設備技術、
給排水衛生設備技術を通じてお客様のニーズに
応えると同時に、より良い地球環境を実現していく
ことが当社の使命と考えています。

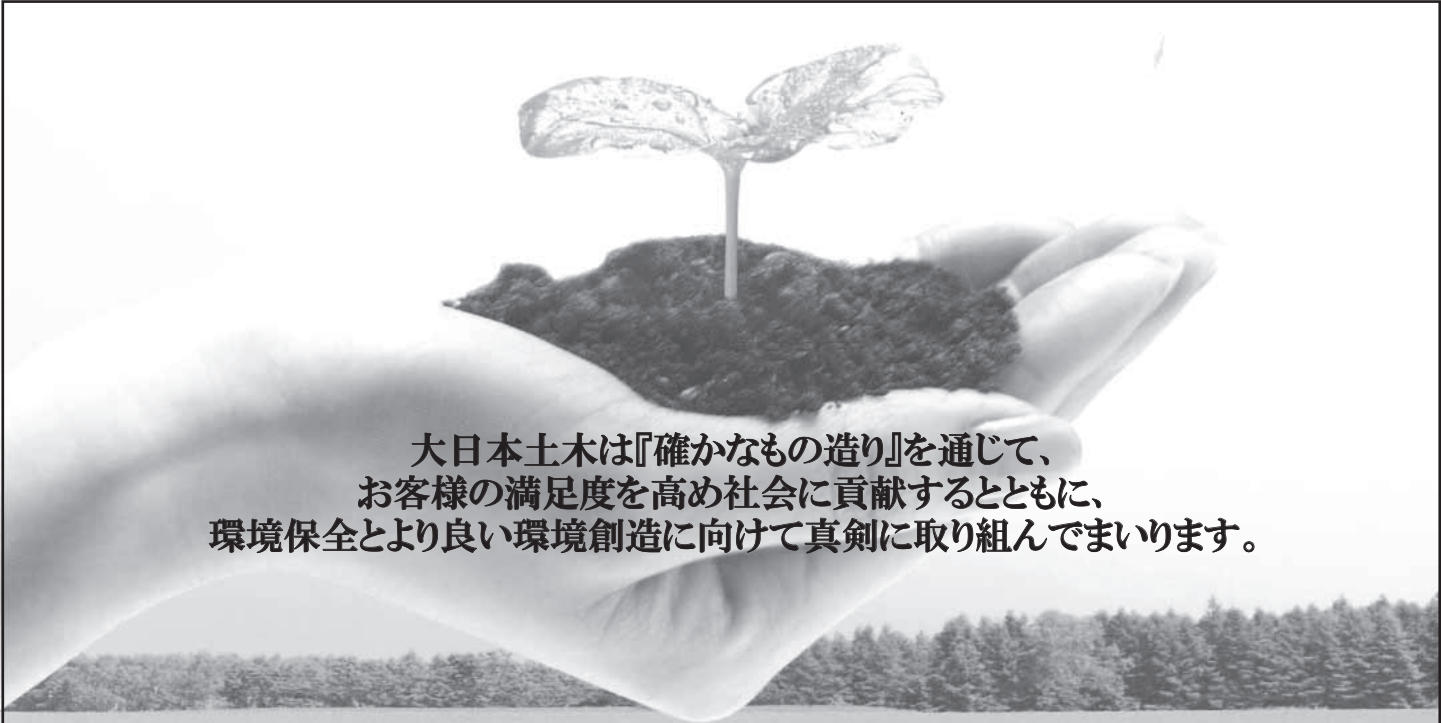
そして今、自らの事業と技術を通じて皆様とともに
一步一步前進し、明るい未来が創造できることを
強く願っています。

 **ダイダン株式会社**

■本 店 〒550-8520 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号
06-6441-8231

■東京本社 〒102-8175 東京都千代田区富士見2丁目15番10号
03-3261-8231

<http://www.daidan.co.jp/>



大日本土木は『確かなもの造り』を通じて、
お客様の満足度を高め社会に貢献するとともに、
環境保全とより良い環境創造に向けて真剣に取り組んでまいります。

DNC.
大日本土木 株式会社

代表取締役社長 **佐藤博樹**
〒500-8555 岐阜市宇佐南1丁目6番8号
<http://www.dnc.co.jp/>



TEKKEN

駅をつくる、道をつくる、街をつくる
現場のチカラ



信用と技術の——
鉄 建

〒101-8366 東京都千代田区三崎町 2-5-3 Tel.03-3221-2152

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

**コンパクト設計なので
小規模施設のリモデルに最適。**



コンパクト設計

ライニング付きながら、タンク式の従来器具と同等の寸法に収まります。



操作系側間口
100mm
大便器側間口
200mmコンパクト

便器や手すりの前出を抑え、ライニング付きでもコンパクトな設計。スペース確保が困難な現場でも、使い勝手に配慮した多機能トイレの設置が可能です。

タンク内蔵／節水

一般水栓の給水サイズで設置可能！便器洗浄水量は4.8Lの大幅節水を実現。



ロータンク内蔵

ロータンク内蔵なので、一般水栓の給水サイズ(15A)で設置可能です。また、便器の洗浄水量は4.8Lを実現しました。

コンパクト多機能トイレパック

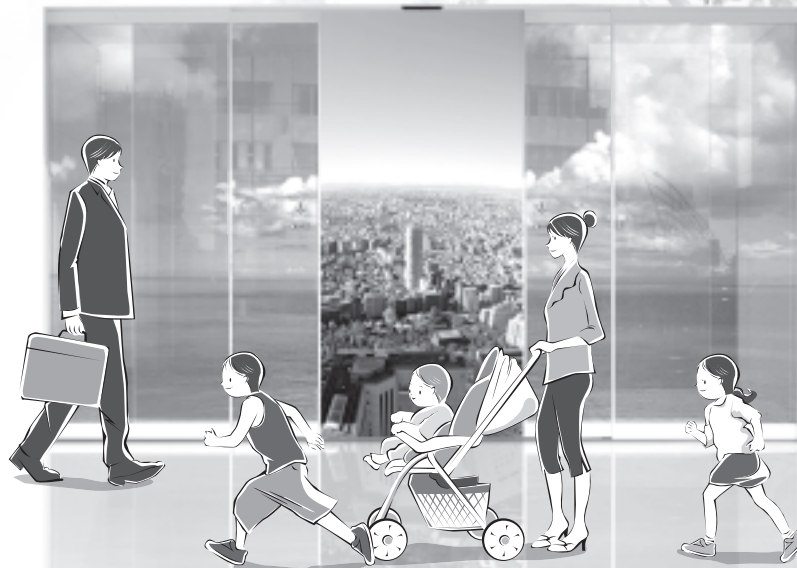
UAD92R1A1ADDB [注2週] 希望小売価格 ¥2,258,025 (税込)

※便座・鏡は別途手配 ※2mと2m未満の多機能トイレサイズは、小規模施設改修など、空間に制約がある場合におすすめの寸法です。詳細は関係法令をご確認ください。

TOTO技術相談室 電話:0570-01-1010 FAX:0570-01-2111 受付時間:<平日>9:00~18:00<土曜日>9:00~17:00 (日・祝・夏期休暇・年末年始を除く)
専門家コーナー「COM-ET」 www.com-et.com/ TOTOホームページ www.toto.co.jp/

TOTO
GREEN
CHALLENGE

さあ、
これからの"だれでもドア"
をつくろう。



ナブコ自動ドア

自 **NABCO** 動

西日本地区販売会社 **ナブコドア株式会社** ☎(06) 6532-5841
<http://www.nabco-door.co.jp/>

Nabtesco
<http://www.nabtesco.com>

製造元
ナブテスコ株式会社
住環境カンパニー

EXP.Jは実証がすべてを物語る

エキスパンションジョイントは大地震だけでなく、時には暴風、豪雨にも耐えなければなりません。

その品質は、「豊富な実績」と「試験で実証されたかどうか」が決め手になります。

当社はお客様に安心を提供するため、実物試験体で可動性、対風圧、浸水試験等を実施しています。

これからも、利用者、設計者、購入者の皆様に信頼されるメーカーとして、開発と実証を続けて参ります。



風速30m/s 降雨200mm/hの暴風雨想定試験



最高の「安全」を提供するEXP.J専門メーカー

株式会社 **ハラキャップ社**

東京 TEL.(03) 5202-0202 〒104-0031 東京都中央区京橋3-4-3 パラキャップ社東京ビル

本社 TEL.(0594) 23-4556 〒511-0834 三重県桑名市大福宮東338

大阪 TEL.(06) 6202-7288 〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋1-7-3 ハヤシビル

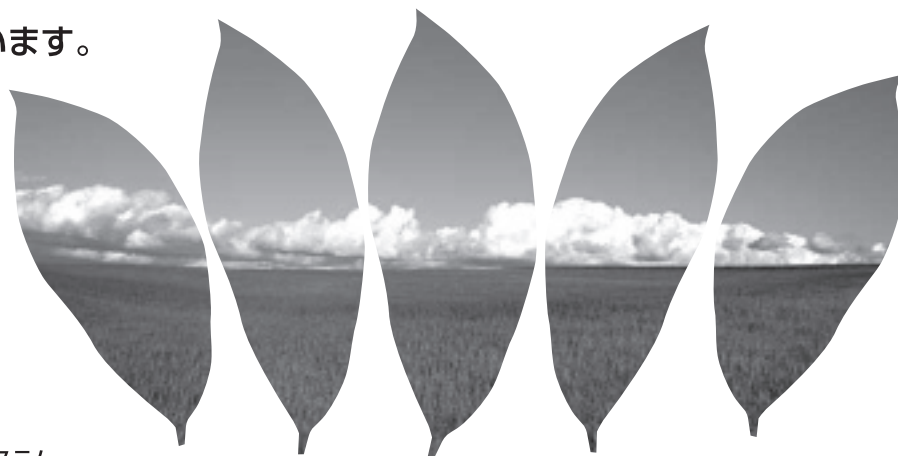
HITACHI
Inspire the Next

環境 & 省エネ 技術で インフラを担う

日立プラントテクノロジーは、環境 & 省エネ技術で
社会・産業インフラを担っています。

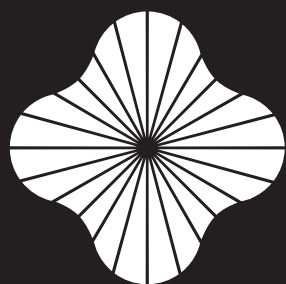
— 主な事業分野 —

- 大型ポンプ ● 圧縮機 ● 変速機
- 水処理・環境システム
- エレクトロニクス産業向け製造装置
- クレーン・搬送システム
- 医薬・化学プラント ● 化学機器
- 産業用空調システム ● ビル空調システム
- 原子力発電設備 ● 火力発電設備
- 水力発電設備 ● 変電設備 ● 集塵システム



 株式会社 日立プラントテクノロジー

関西支社 〒541-0053 大阪市中央区本町1-8-12
電話06-6266-1932 www.hitachi-pt.co.jp



yamagiwa

YM-Beautiful



自然光や蛍光灯の光で汚れを分解！

光触媒が手すり 

光触媒入り手すりは従来の手すりでは考えられなかった光エネルギーを利用して防汚効果、抗菌効果を発揮します。また、あらゆる場面で色彩計画がしやすいように豊富なカラーバリエーションを用意しました。



廊下・階段用樹脂手すり
YMハンドレール丸型・機能型

ワイエム工業株式会社

本社・工場 〒547-0005 大阪市平野区加美西1丁目9番7号

TEL06-6795-5353 FAX06-6792-1695

札幌営業所 011-789-5071
盛岡営業所 019-648-8530
仙台営業所 022-238-7782
東京営業所 03-3634-6632

横浜営業所 045-272-1226
名古屋営業所 052-622-8278
大阪営業所 06-6792-1350
広島営業所 082-291-1323

福岡営業所 092-643-8878
鹿児島営業所 0995-43-1578
旭川出張所 0166-38-6161
松山出張所 089-917-5505

<http://www.ym-k.co.jp>

屋上防水、屋上緑化、太陽光発電、環境にやさしい屋根のことなら



大阪営業所 / 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町24-20
TEL.06-6385-1261 FAX.06-6337-0192

思いが重なったカタチです。

車を使う人のために
入庫しやすく、より便利に、より安全に。

明日の地球のために

省エネ、CO2削減、小さなエコを積み重ねて。

50年の歴史に裏付けられた信頼と、豊富な経験が活きる安全、最先端の技術が実現するエコロジー。
これらを積み重ねてできる駐車場のカタチはさまざま。でも、重なる思いは同じです。

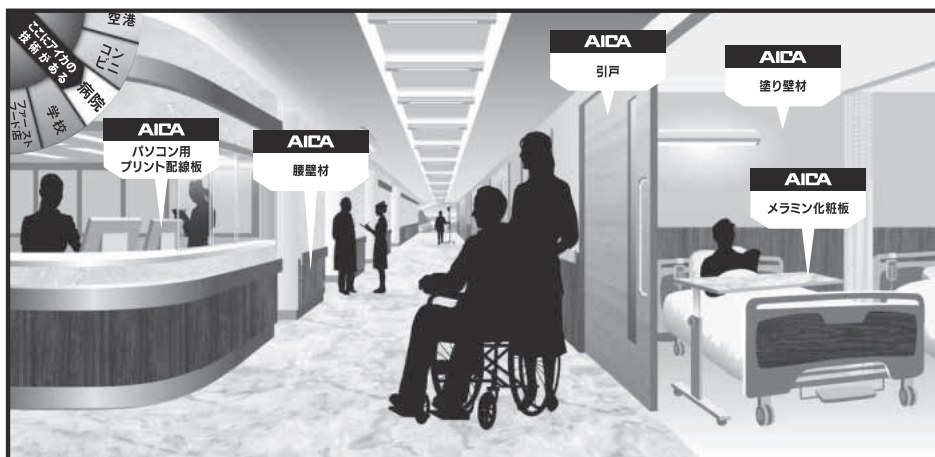
IHI運搬機械株式会社 パーキングシステム事業本部 営業統括部 営業部 関西グループ
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目2番5号(本町セントラルビル)
TEL : 06-6281-2025
URL : <http://www.iuk.co.jp/>



IHI

IHIパーキングシステム

- エレベータパーキング
- フォークパーキング
- タワーパーキング
- 地下式パーキング
- キュービックパーキング
- シャトルパーキング
- 二・多段式パーキング
(油圧式・チェーン式)



75th ANNIVERSARY | since 1936 |

病院を人に優しい空間へ。
「アイカの技術」が
生きています。

子供からお年寄りまで、さまざまな人が訪れる病院という空間にとって最も大切な要素は、安全で快適な環境づくりです。アイカでは少しの力で簡単に閉まる引き戸や段差がなく開口の広い引き戸、ストレッチャーが当たっても傷がつきにくく抗菌性・耐薬品性に優れた壁面材、調湿性のある塗壁材など、ユニバーサルデザインに配慮し、患者さんから医療スタッフまで、すべての人に優しい製品をラインアップ。あなたの暮らしのそばで、アイカの技術が生きています。

アイカ工業株式会社

〒452-0917 愛知県清瀬市西堀江2288番地 TEL.(052)409-8000(代表)
<http://www.aica.co.jp>

教育とコミュニケーションの環境を創る



株式会社 青井黒板製作所

〒567-0016 大阪府茨木市十日市町 9-8 TEL.072(643)8800 FAX.072(643)8808
URL : <http://www.aoikokuban.co.jp> E-mail : info@aoikokuban.co.jp

地球にずっと心地よい風を

楽しく考えたい、空気・水・熱のこと



〒532-0031 大阪市淀川区加島1丁目58番59号
TEL. 06-6302-2273
www.asahikogyosha.co.jp



電気設備工事を中心とした総合設備工事のスペシャリストとして、
経験から確立された高い技術力と提案力で社会に貢献します
創業から九十余年。お客さま第一主義に徹しお客さまの満足する品質とサービス
の提供により、お客さまに安心と信頼という価値をお約束します。

●電気設備工事 ●空調設備工事 ●衛生設備工事 ●電気通信工事 ●消防施設工事

SPECIALIST



浅海電気株式会社
http://www.asamidenki.co.jp

本社 〒530-0047 大阪市北区西天満 3-7-4 TEL. 06-6362-8711 FAX. 06-6362-8731
本店/大阪・東京 支店/札幌・浜松・名古屋・九州
営業所/旭川・東北・埼玉・横浜・和歌山・神戸・中国・高松・光・鹿児島・沖縄



まだ生まれていない「他者」へ、どんな環境を準備するか。
今を生きる私たちが、未来に対して負うべき責任です。
安藤建設は、人と自然が幸福に共存できる社会を目指し、
次代に貢献する技術で多様なニーズにお応えします。
これからも、“悠久”への想いをカタチにするANDOです。

安藤建設株式会社

本社：東京都港区芝浦3-12-8 TEL.03-3457-0111 (大代表)
大阪支店：大阪府大阪市福島区福島6-2-6 TEL.06-6453-2190
http://www.ando-corp.co.jp/



搬送システムの専門エンジニアリング会社です

各種院内搬送システムを取り揃えています

- ・トレイライナー (トレイ搬送システム)
- ・テレシューターTC (気送管システム)



株式会社 S&S エンジニアリング

http://www.ssecorp.jp 03-5777-3240 (代表)

本社：東京都港区海岸1-11-1 ニューピア竹芝ノースタワー13階
(営業所：札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡 サービスセンター：広島)





神戸大学六甲台本館テラコッタ改修工事

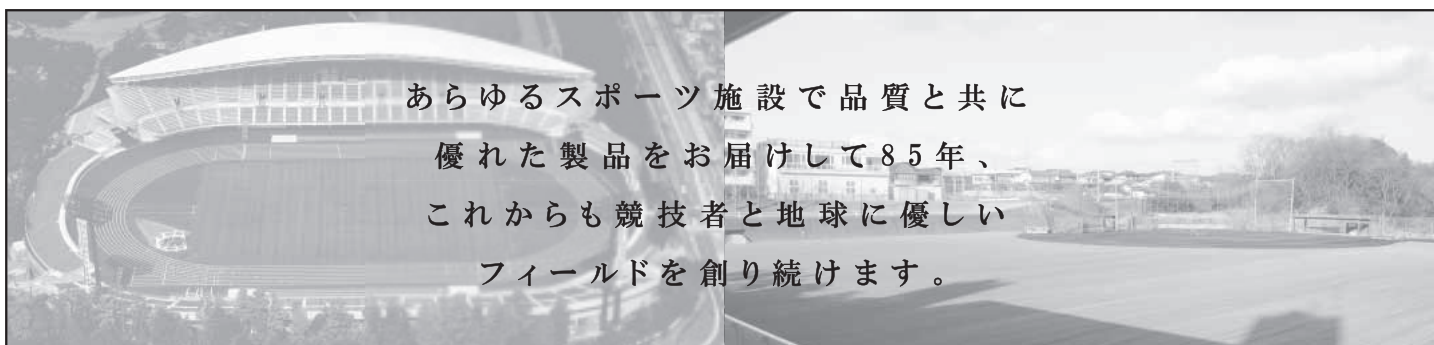
私たちは、セラミックの創造性を追求して、
生活に感動と潤いと安全を提供いたします。



大塚オーミ陶業株式会社

<http://www.ohmi.co.jp/>

本社／大阪支店：〒540-0021 大阪市中央区大手町3-2-21 TEL:06(6943)6695／FAX:06(6943)6487
東京支店：〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2大塚製薬神田第二ビル3F TEL:03(5295)3555／FAX:03(5295)3556
信楽工場 (ISO9001認定工場)：〒529-1836滋賀県甲賀市信楽町柞原926 TEL:0748(82)3001／FAX:0748(82)2125



あらゆるスポーツ施設で品質と共に
優れた製品をお届けして85年、
これからも競技者と地球に優しい
フィールドを創り続けます。

OKU 奥アンツーカー株式会社

本社 〒577-0012 東大阪市長田東3-2-7 TEL(06)6743-5050
近畿支店 〒577-0012 東大阪市長田東3-2-7 TEL(06)6743-3366



人と自然を、技術でむすぶ。

奥村組
OKUMURA CORPORATION

代表取締役社長 奥村 太加典

本社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL. 06 (6621) 1101
東京本社：東京都港区芝5-6-1 TEL. 03 (3454) 8111

<http://www.okumuragumi.co.jp>

my garden factory
GARDENLAB

株式会社 ガーデンラボ

〒562-0035
大阪府箕面市船場東2丁目6-46
TEL:072-726-1001/FAX:072-726-1011

- 造園
- エクステリア
- 植栽管理
- 屋上・壁面緑化
- 自動灌水
- ツリーイルミネーション



☎ **0120-028-296**

ガーデンラボ

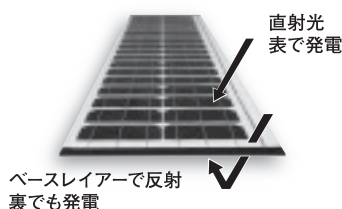
検索



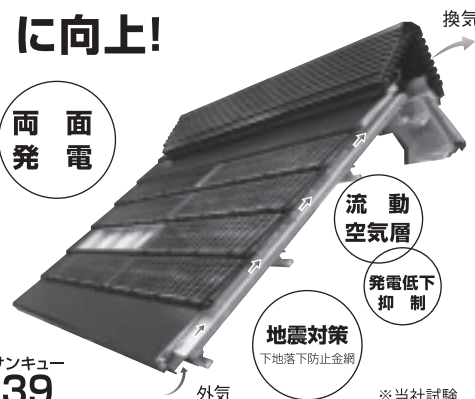
両面発電により、発電量約120%※に向上!

屋根一体型(横葺きタイプ)

Sun·Both
ソフシャドウ



両
面
発
電



製造
発売元



元旦ビューティ工業株式会社

本社 神奈川県藤沢市湘南台1-1-21



フリーダイヤル マルク ヨク サンキュー
0120-09-49-39

※当社試験

中空スラブ工事



株式会社 栗本鐵工所

URL : <http://www.kurimoto.co.jp>

本社 〒550-8580
東京支社 〒105-0004
北海道建材営業課 〒063-0835
東北支店 〒980-0014
名古屋支店 〒450-0003
中国支店 〒730-0013
九州支店 〒812-0016

大阪市西区北堀江1丁目12番19号
東京都港区新橋4丁目1番9号
札幌市西区発寒15条12丁目4番10号
仙台市青葉区本町1丁目12番30号
名古屋市中村区名駅南1丁目27番2号
広島市中区八丁堀16番11号
福岡市博多区博多駅南1丁目3番11号

TEL : 06-6538-7708
TEL : 03-3436-8019
TEL : 011-661-6781
TEL : 022-227-1882
TEL : 052-551-6934
TEL : 082-222-8203
TEL : 0949-55-3200



人と環境にやさしい
「空間創造」

—— より快適な医療環境をめざして ——

私たちは、安心やすらぎが感じられると同時に、機能的かつ効率的な「人」を中心とした空間づくりをコンセプトに、より快適な環境づくりのお手伝いをいたします。

また、地球環境に配慮した製品とサービスの提供を通じて、社会に貢献することを理念としています。



株式会社くろがね工作所
<http://www.kurogane-kks.co.jp>

東京
〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 (芝日景有楽ビル)
TEL (03) 5439-9111 FAX (03) 5439-9115
札幌・名古屋・九州

大阪
〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (四ツ橋新町ビル)
TEL (06) 6538-1060 FAX (06) 6538-1061

KOKUYO
ひらめき・はかどり・こちよさ

お問い合わせ
TEL ☎ 0120-201594

オフィス・施設用家具・建材の製造

コクヨファニチャー株式会社

〒537-8686 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

オフィス・施設用家具・建材の販売

コクヨマーケティング株式会社

〒108-8710 東京都港区港南1丁目8番35号

お客様と共に、これからも | 間仕切の総合メーカーとしてお客様と共に歩んできた小松ウオール、その豊富なラインナップで、これからも快適環境のあくなき追求にお応えします。

間仕切の総合メーカー 小松ウオール

小松ウオール工業株式会社
<http://www.komatsuwall.co.jp/>

□本社 / 石川県小松市工業団地 1-72 / (0761)21-3131 (代)
□東京市場開発部 / 東京都千代田区三番町 8-1 / (03)3263-2771 (代)
□大阪市場開発部 / 大阪府大阪市中央区西心斎橋 1-1-13 / (06)6241-8416 (代)

SANKEN
ENVIRONMENTAL ENGINEERING

<http://skk.jp>

空気と水の環境創造企業
三建設備工業

大阪支店 大阪市北区紅梅町3-5
TEL:06-6355-2300



人と空気と水の 環境創造。

求められる環境を、望まれたカタチにする。
三建設備工業は豊富な実績と確かなノウハウで
常に最適環境を創り出します。
空気と水、そして、人…この技術を「全て」のために。

空気調和・衛生設備・リニューアル



株式会社 三晃空調

www.sanko-air.co.jp

本社・大阪本店
〒530-0047 大阪市北区西天満3-13-20 ASビル
TEL:06-6363-1371 (代)

東京本店
〒163-0262 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
TEL:03-3344-7911 (代)



空気が流れて風になり、その風が雲をつくり、水をつくります。

だから、もっと空気や水を身近なものと感じて欲しい。

そして、もっともっと地球環境に眼を向けて欲しい…。

バ
ク
リ
ン
な
地
球
を、
バ
ト
ン
タ
ツ
チ。



舞 台 機 構



エ レ ベ ー タ ー



遊 戯 機 械



特 殊 機 構

SANSEI YUSOKI
sansei

三精輸送機株式会社

本 社 大阪府吹田市江坂町 1-13-18
TEL 06-6385-5621 FAX 06-6337-3146

東京支店 東京都新宿区新宿 4-3-17
TEL 03-3356-5651 FAX 03-3341-2091

<http://www.sanseiyusoki.com>

- アルタスウッド（木・アルミ複合断熱スクリーン）
- カーテンウォール・サッシ・ドア・シャッター・サイン ■ 設計・製作・施工



株式会社 サンプロス

大阪本社 〒540-0011 大阪府中央区農人橋2丁目1番10号（大阪建築会館902号）
TEL (06) 6910-7021 FAX (06) 6910-7022 E-mail:sspp@sanpros.co.jp



JIRA 社団法人 日本画像医療システム工業会会員

サンレイズ工業株式会社

SUNRAYS Co.,Ltd.

医療部門業務案内

- 放射線シールド／設計・責任施工
- MRI シールド／設計・責任施工
- 脳波心電図シールド室／設計・責任施工
- 防音室・無響室／設計・責任施工
- リニアック室、サイバーナイフ室、遮蔽扉工事／設計・責任施工
- 手術室工事／設計・責任施工

本 社／〒532-0001 大阪市淀川区十八条 2-13-33 TEL：06-6350-6300（代） FAX：06-6350-6301
名古屋／〒465-0033 名古屋市名東区明が丘 83 ウェストサイド アーク エニュー TEL：052-773-8267 FAX：052-773-8279
HP: <http://www.sunrays.co.jp/>



解く力、拓く心、いざ、科学技術の明日へ。

株式会社 島津理化

<http://www.shimadzu-rika.co.jp/>

大阪支店 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル



SMARTSolution

世界有数の地震国を支える
駐車設備であること。

エレベータ方式駐車設備「エレパーク®F」



新明和工業株式会社 パーキングシステム事業部

〒110-0005 東京都台東区上野7丁目12-14 ☎(03)3842-6101 FAX(03)3842-6102
札幌 ☎(011)643-4461 仙台 ☎(022)298-1810 東京 ☎(03)3842-6101 名古屋 ☎(052)251-2531
大阪 ☎(06)4803-0900 広島 ☎(082)285-5430 福岡 ☎(092)472-4070
ホームページアドレス：<http://www.shinmaywa.co.jp/parking/>

快適な環境づくりに確かな技術で貢献する

住友電設株式会社

〒550-8550 大阪市西区阿波座2-1-4 TEL 06 (6537) 3400

<http://www.sem.co.jp>

循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS」は、「新基準エコマーク認定」登録第1号を取得しました。



ECOS SG-456

資源を未来へ。



国内トップクラスの再生材比率、CO₂削減率を達成したECOSの実力。

トップクラスの再生材比率 **77%** 優れたCO₂削減率 **-42%**

※再生材比率はタイルカーペット1㎡あたりの再生材比率(kg/㎡)です。
※CO₂削減率は当社従来品との比較です。
※ECOS SG-400・SG-300シリーズの数値です。



ECOS SG-451

【製造】 住江織物株式会社

542-8504 大阪市中央区南船場3-11-20

【販売】 株式会社 スミノエ

550-0013 大阪市西区新町2-4-2 ■西日本開発部 06(6537)6317

<http://suminoe.jp/interior>



西部電気建設株式会社

本 社	〒657-0844	神戸市灘区都通4丁目1番1号	TEL. 078-882-4051	FAX. 078-882-4061
大 阪 支 店	〒541-0059	大阪市中央区博労町1丁目3番17号	TEL. 06-6260-7587	FAX. 06-6260-7588
姫 路 支 店	〒670-0804	姫路市保城981番地の1	TEL. 079-224-3512	FAX. 079-288-1914
北條営業所	〒675-2337	加西市市村町154番地	TEL. 0790-42-0432	FAX. 0790-42-3853
三田営業所	〒669-1515	三田市大原712番地の8 淡路ビル4階	TEL. 079-564-9330	FAX. 079-564-9330
山崎営業所	〒671-2575	宍粟市山崎町山田4番地	TEL. 0790-62-0320	FAX. 0790-62-0099

防音断熱複層ガラス ペアレックスソネス ネオ

『ペアレックスソネス ネオ』は、これまでの防音複層ガラスでは実現できなかった、防音性能と断熱性能を兼ね備えた新しいタイプの複層ガラスです。

『ペアレックスソネス ネオ』は、異なる厚さのガラスを使用し、その中空層に特殊なガスを封入することで、より防音性能を高めました。また、通常の複層ガラスと同等の断熱性能を有しており、これまで以上に快適な室内環境をつくれます。

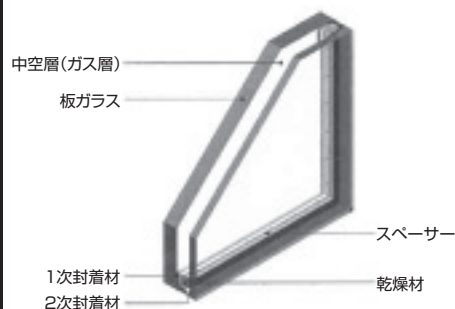
<2つの特徴>

- ①防音
 - ・遮音性能はT-III
- ②断熱
 - ・熱貫流率は4.00W/㎡・K以下
 - ・IV・V地域における次世代省エネルギー基準をクリア

<主な用途>

- 鉄道沿線
- 高速道路や国道の近傍
- 航空機騒音の激しい地域に建設するマンション、オフィスビル
- 病院

ペアレックスソネス ネオの構造図



セントラル硝子関西株式会社 〒590-0987 大阪府堺市堺区築港南町6番地 ☎ (072) 224-8461

一歩先行く
環境技術を
お客さまに



www.taikisha.co.jp

本社：TEL. (03) 3365-5320 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
大阪：TEL. (06) 6448-5851 大阪府北区中之島3-2-18 住友中之島ビル



排ガス浄化機能付緑化舗装用ブロック
ジオグリーン^{ex} 65%
[緑化舗装ブロック]

緑化率65%



企画・開発元

ecobloxx[®]
エコブロックス

URL <http://www.ecobloxx.com>
E-mail info@ecobloxx.com
☎ 0120-85-69-85



高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

大阪支店 〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19 アプローチタワー20F
TEL: 06-6377-2810 FAX: 06-6377-2814

人と技術で“夢”づくり

電気設備

水道設備

情報通信

空調管設備

環境・省エネ

防災消防設備

リニューアル

私たちの仕事はお客さまの要望に、確かな技術と信頼で応えること。
これからも未来に残せる“いいしごと”をひとつひとつ行っていきたいと思います。

総合設備エンジニアリング企業



本店 / 〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
TEL / 082-291-7411 (代表)
<http://www.chudenko.co.jp/>

創業から一世紀。この豊かな経験を、人に、社会に、未来に。

営業品目

室内造作工事 木製建具工事 特注家具工事 神社仏閣一式工事

ISO9001
認証工場

多彩な設計にお応えするオーダーメイド



株式会社 築柴

代表取締役 築柴宗晴

URL=<http://www.tukusi-net.co.jp>

本社 〒617-0003 京都府向日市森本町野田 1-1

TEL.075-921-2000 FAX.075-921-6000

関東営業所 〒105-0004 東京都港区新橋 5-33-5 新橋サミットビル TEL.03-5401-3025 FAX.03-5401-3026



いい街にしたい。

いい街には、いい表情がある。

街の個性を大切に、街とともに発展したい。

人と地球にあたたかな技術

東洋建設

大阪本店 大阪市中央区高麗橋4丁目1番1号

TEL 06-6209-8711 FAX 06-6209-8888



永く、強く、美しく。



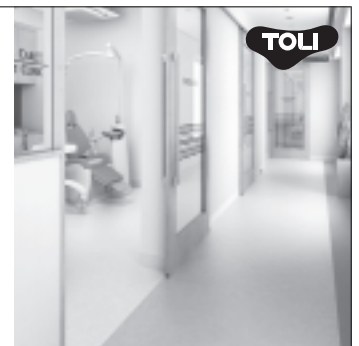
NO WAX



ワックスメンテナンスが、ゼロへ

環境負荷を減らして、地球にやさしく

ワックス作業による不便がなくなり、快適に



TOLI

SFフロアNW
5,300円/㎡(材料価格 税抜き価格)

ワックスメンテナンスが不要な床材「東リNWシリーズ」誕生!

10/29
発売!

ホスピリウムNW
4,000円/㎡(材料価格 税抜き価格)

東リ株式会社 <http://www.toli.co.jp/>

西日本営業開発部：06-6943-1645

東日本営業開発部：03-5403-2067



人がつくる。
人でつくる。

戸田建設

www.toda.co.jp

大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町 1-13-47

☎06-6531-6095

防災のトビシマ

建ててから始まる真のお付き合い

飛島建設株式会社

大阪支店 〒541-0045 大阪市中央区道修町 3-4-10 電話 06-6227-6200 FAX06-6227-0180

集成材 製造・加工・販売・設計・施工 JAS 認定工場

トリスミ集成材 株式会社

〒637-0014 奈良県五条市住川町 1297

◎ 営業本部：TEL. 0747-26-6660 FAX. 0747-26-6668

◎ 建築本部：TEL. 0747-26-6664 FAX. 0747-26-3455

E-mail：kenchikubu@torisumi.net

U R L：<http://www.torisumi.net>

広い視野と
確かな技術で
快適空間を
創造する。

— 営業品目 —

《建装部門》

- ・木工造作・家具工事
(天然木仕様の別注造作、家具他)
- ・建築内外装一式工事
(アルミ手摺・二重床・フローリング・OA 他)
- ・リニューアル工事
- ・インテリア工事(輸入家具他)
- ・環境性能重視型 木質成形板ウィードロック
- 上記に関する企画・設計・施工

《商事部門》

- ・主要建設資材販売
(生コンクリート・セメント・鉄筋他)
- ・工事用機械・仮設機材の販売及びリース
(トンネルボーリングマシン・仮設ハウス他)
- ・新しいニーズに応えられる建設資材の販売
(省エネタイプの遮熱塗料・耐震用建材・耐火スクリーン他)
- ・生活関連商品の販売(フラワーギフト他)



株式会社 内外テクノス

東京本社 〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 1-1 住友市ヶ谷ビル 11 階 TEL 03-5261-3410
本社工場 〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保 1150 TEL 049-261-3611
大阪支店 〒540-0031 大阪市中央区北浜東 6-9 ルポンドシエル 5 階 TEL 06-4300-4680

PC工事

PC製作・取付



株式会社 西田興産 PC事業部

〒799-3413 愛媛県大洲市長浜町拓海3-22

TEL: 0893-52-3005 FAX: 0893-52-3077

E-mail 営業部：n-pc.eigyoku@arrow.ocn.ne.jp 技術設計部：n-pc.sekkei@arrow.ocn.ne.jp

文明の栄えた土地には、必ずといっていいほど豊かな水がありました
自然に恵みを与え、生命を育み、人々の暮らしをうるおしてする“水”。
地球規模の環境汚染が問題となっている今、西原は
都市のより快適な水環境の創造を通して、社会に貢献してまいります。

水と人のあいだに

NISHIHARA



株式会社 西原衛生工業所 東京都港区浜松町 2-8-14 TEL.(03)6848-0480
支店/札幌・東北・新潟・東関東・横浜・大阪・九州 事業内容/給排水衛生設備、冷暖房設備、消火設備の設計、施工

ヌノシリーズ



nuno-series

高強度繊維補強コンクリートの世界

強さから生まれるシルエット

コンクリートとは変容する素材。時間とともにその表情を自然と融和させる。



日本興業株式会社

URL <http://www.nihon-kogyo.co.jp> TEL (06)6303-4428 FAX (06)6390-9164

Hyper
MEGA



Hyper
ストリート



Hyper
NAKS



日本コンクリート工業株式会社
NIPPON CONCRETE INDUSTRIES CO., LTD.

本社/〒108-0075 東京都港区港南 1-8-27(日新ビル)
TEL03-5462-1081 FAX03-5462-1049
大阪支店/〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町 4-5-9
(本町太平ビル)
TEL06-4963-6911 FAX06-4963-6916
名古屋支店/〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南 1-11-5
(エステート名古屋ビル)
TEL052-581-0666 FAX052-541-2530
福岡支店/〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 1-16-8
(ITビル)
TEL092-411-2008 FAX092-411-2024
四国支店/〒760-0022 香川県高松市西内町 4-6(神原ビル)
TEL087-897-2984 FAX087-897-2986

「すこやかな成長に願いを込めて。そこは木のぬくもり漂う学びやです。」

そこに広がるのは自然のもつやさしさとぬくもり。木の優れた性質を最大限に生かしたスピンドルの木製学校間仕切。
天然木ならではの風合いが子供たちをあたたく包みこむ、明るく豊かな学習環境を生みだします。

木製学校間仕切 SPW「大開口」



Nihon Spindle

日本スピンドル製造(株) 建材事業部

開口高さいっぱいの扉を左右に引分けるだけで簡単に教室がフルオープン。反り、曲がりの起こりにくい厳選された集成材を使用することによって扉は最大H寸法3000mmまで対応可能です。

東京 TEL03-5246-5615 関西 TEL06-6499-5830 中部 TEL052-957-7383

<http://www.spindle.co.jp/>

E-mail: info@spindle.co.jp

快適な音空間の追及

営業品目

- ・ダクトサイレンサ(ELB・RSS・CCB)
- ・室外機用サイレンサ
- ・消音ガラリ(LVR)
- ・防音カバー(送風機・ポンプ等)

NNC 日本ノイズコントロール株式会社

〒111-0052 東京都台東区柳橋 2-22-8 トンボ東京ビル 7F
TEL.03-5822-3691 FAX.03-5822-3692

〒550-0003 大阪市西区京町堀 1-1-20 中越大阪ビル 3F
TEL.06-6444-6571 FAX.06-6444-0057

<http://www.noisecontrol.co.jp>

新しい図書館づくりのトータルプランをお届けします。



空間

広々とした
ゆつくりとくつろいだ
そしてふれあい



情報

豊富な
多様な
そして価値ある



よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

大阪支店／〒542-0081 大阪市中央区南船場2-5-12(クリスタファイブ) TEL(06)6271-3091
URL <http://www.nipponfiling.co.jp>

バリアのない安心で快適な空間がほしい
地震にも安全な建物で暮らしたい
患者本位で最先端のホスピタルにしたい
工事現場のゴミをゼロにしたい
汚れた土をもとにもどしたい
廃棄物を安全に管理したい
クリーンなエネルギーを使いたい
都市の河川をきれいになりたい
学校の中に自然の学びを取り入れたい
貴重な文化遺産を残したい
こどもたちに豊かな未来を届けたい

あなたの夢が私たちの挑戦。
人と夢の間に、ハザマがあります。

人と夢の間に。



Hazama

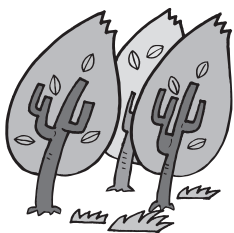
株式会社 間組 (ハザマ)

〒105-8479 東京都港区虎ノ門2-2-5 TEL.03-3588-5700
<http://www.hazama.co.jp/>

Your Dream, Our Challenge 01

ISO9001-ISO14001 認証取得

庭園設計施工、文化財庭園復元整備、屋上緑化、樹木診断治療
建設コンサルタント登録(建19)第8911号 樹木医登録 第152号・709号



花豊造園株式会社

会長 山田 昌次 代表取締役 山田 拓広

本社：〒600-8361 京都市下京区大宮通五条下ル 518 電話(075)341-2246 FAX(075)361-0961

URL <http://www.hanatoyo.co.jp> E-mail: home@hanatoyo.co.jp

人と自然が調和する
豊かな環境づくりに貢献する



本 社 〒104-8215 東京都中央区晴海2-5-24 TEL03(6385)9111 FAX03(3536)6927
大阪支店 〒530-6027 大阪市北区天満橋1-8-30 TEL06(6881)1175 FAX06(6881)1141
<http://www.psmic.co.jp>
支店／東京・大阪・東北・名古屋・広島・九州



フリーアクセスフロア・露出型固定柱脚工法のパイオニア 日立機材

(内装商品)

- ・オフィス用、電算室用、クリーンルーム用
フリーアクセスフロア
- ・床吹出空調用OAフロアシステム 美風
- ・免震床 スキッドⅡ、キープ

(構造商品)

- ・露出型固定柱脚工法 ハイベース工法
- ・鉄骨梁貫通孔補強工法 ハイリングⅡ工法
- ・鉄骨柱梁仕口工法 スマートダイヤ工法、スマートブロック工法
- ・油圧式制震ダンパ ハイビルダム



(本社)内装営業部 TEL(03)3615-5431 FAX(03)3615-5408
(本社)構造営業部 TEL(03)3615-5432 FAX(03)3615-6081

本社 〒135-8363 東京都江東区東陽二丁目4番2号(新宮ビル)
<http://www.hitachi-kizai.co.jp/>

(関西支店)内装営業 TEL(06)6395-2154 FAX(06)6395-2102
(関西支店)構造営業 TEL(06)6395-2133 FAX(06)6395-2102



創意と情熱と技術をもってユニークな企業として建築文化に貢献します。

株式会社 平田タイル

代表取締役会長兼社長 平田雅利



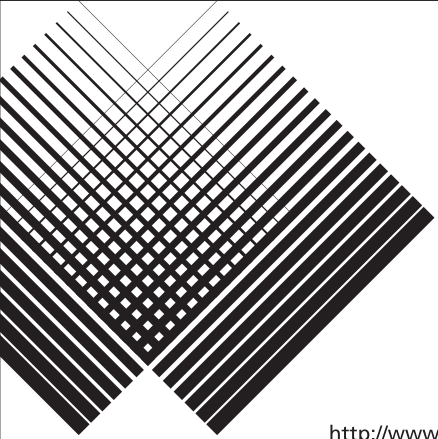
ISO9001:2008
認証取得
登録証番号:
JQA-QM4721

本 社 〒550-0011 大阪市西区阿波座 1-1-10 TEL.06-6532-1231 FAX.06-6532-0923
タイル工務部 〒550-0011 大阪市西区阿波座 1-1-10 TEL.06-6532-2401 FAX.06-6532-2410

未来へー安心を創る

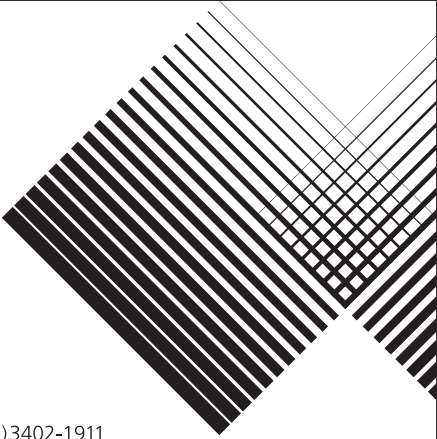


大 阪 本 店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10 TEL 06-4964-8701 <http://www.fujiki.co.jp>
本 社 ・ 支 店 大阪・東京・倉敷・四国・京都
営 業 所 横浜・埼玉・多摩・相模大野・静岡・名古屋・神戸・岡山・広島・徳島・愛媛・福岡



FUJITA

“高”環境づくり フジタ



http://www.fujita.co.jp 151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 Tel.(03)3402-1911

人と建材の理想的な関わりを求めて・・・

株式会社 フジ大理石



ROSSO ARICANTE



BIANCO BROUILLE



EMPERADOR DARK

本社・工場/岐阜県養老郡養老町室原308番地 TEL 0584-34-3108
 名古屋支店/ 同上 TEL 0584-34-2708
 大阪営業所/ 同上 TEL 0584-34-2707
 東京支店/東京都品川区大井4丁目10番地6号 TEL 03-3776-8310

THE FOUNDATION STONE OF NEW MILLENNIUM





安全に快適に。環境クリエイト



不二熱学工業株式会社
Fujinetsu

【本 社】〒542-0081 大阪市中央区南船場2丁目1番1号
 TEL(06)6261-2436(代) FAX(06)6261-8307
 URL: http://www.fujinetsu.co.jp/

新しい時代の基礎づくりのパートナー、～「縁の下のか持ち」として～

場所打コンクリート杭各種
2.2倍拡底杭(OMR/B)工法



丸五基礎工業株式会社

MARUGO FOUNDATION CORP.



■本社
 〒541-0053 大阪市中央区本町1丁目8番12号(日本生命堺筋本町ビル7階)
 TEL:06-6264-0501(代) FAX:06-6264-0535
 URL: http://www.marugokiso.co.jp/ E-mail: home@marugokiso.co.jp

■支店・営業所・工作所
 東京・名古屋・広島・福岡・高松(営)・沖縄(営)・仙台(営)・小野機材センター・茨木(工)



知を求める全ての人々に

丸善は大学・図書館・企業等、あらゆる分野の方々へ、学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス・学校施設・公共施設・図書館等各種施設のデザイン・設計・施工、図書館運営、アウトソーシング

① **MARUZEN** 丸善株式会社 教育・環境ソリューション事業部

【大阪】〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-5-28

Tel: 06-6251-2622 Fax: 06-6251-2588

URL <http://www.maruzen.co.jp/top/>

安心と安全をお届けする



株式会社 **LIXIL** 鈴木シャッター

バランス式防水板「アピアガード」

- ビル・マンションの地下駐車出入口に
- 地下街の出入口に
- 工場・倉庫など建物外構部の出入口に
- その他、浸水の可能性のある出入口に

自動

エコ

安全

大阪支店 〒535-0022 大阪市旭区新森 1-7-47
TEL: 06-6956-6225 FAX: 06-6956-6264

LIXILグループ



作動前



作動後

株式会社東畑建築事務所様の創立80周年にあたり、謹んでお祝いを申し上げます。

お部屋の気になる臭いを吸着・分解する半永久サイクル消臭壁紙

空気を洗う壁紙®

そこに空気さえあれば、悪臭原因物質を吸着・分解し、半永久的に消臭し続ける、空気洗浄壁紙です。

短時間での消臭実演が可能！

確かな消臭効果をご理解いただくために、短時間で消臭実験をいたします。本物の消臭壁紙の機能をご体感ください。

たくさんの採用実績！

発売以来、全国各地数多くご採用いただいています。信頼の消臭性能は多くの実績で証明されています。是非ルノンホームページでご覧ください。

空気を洗う壁紙 採用実績

検索

ルノン株式会社 近畿中日本営業部

〒580-0006 大阪府松原市大堀 1-5-8 TEL.072-330-2670

<http://www.runon.co.jp>

FAX.072-330-2671

私たちルノン株式会社は、NPO法人J.POSHのオフィシャルサポーターとして、日本乳がんピンクリボン運動を支援しています。

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動®

謹賀新年



平成25年元旦

岡 本 慶 一

日 建 設 計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

植 林 信 一

ダイダン 株式会社
代表取締役社長
最高執行責任者

〒550-8520 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06)6447-8000

藤 井 實

エスケー化研 株式会社
代表取締役社長

〒567-0034 茨木市中穂積3-5-25 TEL(072)621-7733

会長

香 西 喜八郎

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

立 成 良 三

一般財団法人 大阪住宅センター
理事長

住宅保険、評価、住宅情報相談、住宅展示場他

〒542-0081 大阪市中央区南船場4-4-3 心斎橋東急ビル4F
TEL(06)6253-0071 FAX(06)6253-0145

原 眞 一

コーナン建設 株式会社
代表取締役

〒531-0075 大阪市北区大淀南1-9-10 TEL(06)6456-4311

近 藤 徹

不二熟学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

立 野 純 三

株式会社 ユニオン
代表取締役社長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 TEL(06)6532-3188

小 神 正 志

西日本建設業保証 株式会社
取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2-1-2 TEL(06)6543-2553

名誉会長

佐 野 正 一

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

理事

中 井 進

日 建 設 計
代表取締役副社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

理事

佐 野 吉 彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

辻 文 三

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1 TEL(06)6872-0391
<http://www.gbrc.or.jp>

副会長

設 楽 貞 樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

沼 田 亘

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787

謹賀新年



平成25年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長 森 口 雅 文

代表取締役社長 小 田 義 彦

本社・名古屋事務所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 (桜通ビル) TEL (052) 222-8611

東京事務所 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12 (聖公会神田ビル) TEL (03) 5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役 瀬 戸 本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル TEL (078) 333-0138

<http://www.jsao.co.jp>

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 香 西 喜 八 郎

本社 〒541-0044 大阪府中央区高麗橋2-6-10 TEL (06) 6202-0391

大阪・東京・名古屋・九州・東北・上海

<http://www.tohata.co.jp>



日建設計

代表取締役社長 岡 本 慶 一

東 京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大 阪	541-8528	大阪府中央区高麗橋4-6-2	TEL (06) 6203-2361
名 古 屋	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐 野 吉 彦

本 社 〒540-0034 大阪府中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371 (代表)

支 社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 <http://www.yasui-archi.co.jp/>

建設業有志



ODAYASHI

地球に笑顔を

株式会社 大林組

取締役社長 白石 達 専務執行役員 長谷川 博
大阪本店長

本社 東京都港区港南2-15-2 TEL 03(5769)1111
大阪本店 大阪府中央区北浜東4-33 TEL 06(6946)4400

100年をつくる会社



KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号
関西支店：大阪市中央区城見2丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06(6946)3311
<http://www.kajima.co.jp/>

子どもたちに誇れるしごとを。



取締役社長 宮本 洋一 取締役副社長関西事業本部長 小橋 鴻三

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 Tel. 03(3561)1111
関西事業本部 〒541-8520 大阪府中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06(6263)2800



For a Lively World

社長 山内 隆 司
常務執行役員 山田 文 啓
関西支店長

<http://www.aisei.co.jp/>



株式会社 竹中工務店

取締役社長 竹中 統一

〒541-0053 大阪府中央区本町4-1-13 TEL(06)6252-1201(代表)

建材・学校・団体有志等



株式会社 LIXIL

プロジェクト営業部関西支店支店長

藤島 二郎

〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-1 LIXIL四ツ橋ビル

電話 06-6539-3509 FAX 06-6539-3503

LIXILホームページ・アドレス <http://www.lixil.co.jp>



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科・建築学科II部(夜間)・建築設計学科・建築設備学科・大工技能学科・インテリアデザイン学科・建築士専科

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号

☎ 0120-0910-19

🌐 <http://www.oct.ac.jp/>

Tel. 06-6352-0093



社団法人

日本建築材料協会

会 長 藤 井 實

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL (06) 6443-0345 FAX (06) 6443-0348

<http://www.kenzai.or.jp/>



社団法人 日本建築協会

会 長 香 西 喜八郎

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL (06) 6946-6981



社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長 上 林 研 二

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL (075) 211-2857



社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 高 松 隆 夫

〒732-0805 広島市中区十日市町1-1-9（相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内） TEL (082) 291-2233



社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 福 田 泰 造

〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26（昭和ビル5階） TEL (052) 261-1451



理事会

第7回常任理事会

11月22日(木) 16:00~17:30

出席者 香西会長ほか4名

議 事 (1) 平成24年度収支予算執行状況

(2) その他

編集委員会

第8回編集委員会

11月13日(火) 18:00~20:00

出席者 米井委員長ほか7名

議 事 (1) 12月号特集「身のまわりの世界の「構造」を探る」報告

(2) 1月号特集

「東畑建築事務所創立80周年」検討

「脱成長の時代を考える(仮題)」検討

(3) 2月号特集「らしくない空間(仮題)」検討

(4) 3月号特集「東海支部」検討

(5) 4月号特集 作品募集「第19回会員作品特集号“私の空間作法”」

(6) その他

第5回計画系分科会

11月5日(月) 19:15~20:30

出席者 守井幹事ほか2名

議 事 (1) 2013年1月号特集について

(2) 2013年5月号特集について

(3) その他

第7回インテリア・住宅系分科会

11月19日(月) 19:30~21:00

出席者 間瀬幹事ほか4名

議 事 (1) 2013年2月号特集について

(2) 2013年5月号特集について

(3) その他

第8回構造分科会

11月2日(金) 18:00~19:30

出席者 橋本幹事ほか4名

議 事 (1) 「構造の頁」について

(2) 12月号特集企画について

(3) 2013年5月号特集について

(4) その他

第7回施工材料分科会

11月6日(火) 17:00~18:00

出席者 高橋幹事ほか6名

議 事 (1) 11月号特集をふりかえる

(2) 2013年5月号特集について

(3) 今後の予定について

(4) その他

第6回設備分科会

11月7日(水) 18:00~20:00

出席者 赤澤幹事ほか8名

議 事 (1) 「設備の頁」の企画について

(2) 「見学会の企画」について

(3) 次回の特集テーマについて

第8回法令分科会

11月15日(木) 15:00~17:00

出席者 平山幹事ほか5名

議 事 (1) 「法令コーナー」の企画

(2) その他

第8回作品作風小委員会

11月22日(木) 19:00~20:30

出席者 稲垣副委員長ほか3名

議 事 (1) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告

(2) 「gallery」掲載報告・予定

第8回広告企画小委員会

11月13日(火) 17:00~18:00

出席者 米井委員長ほか5名

議 事 (1) 広告依頼先検討

(2) 2013年8月号特集「うめきた」企画検討

事業委員会

第5回情報見学小委員会

11月8日(木) 18:00~18:50

出席者 瀬戸川委員長ほか11名

議 事 (1) 見学会について

(2) その他

教育委員会

第58回工高生デザインコンクール表彰式

11月10日(土) 14:00~16:00

場 所 大阪府建築健康会館6階ホール

出席者 受賞者10名(教員等同伴4名)

審査委員 佐々木審査委員長ほか1名

委 員 山形副委員長ほか2名

出版委員会

第7回出版委員会

11月20日(火) 18:30~19:40

出席者 上原委員ほか4名

議 事 (1) プロのノウハウと特装本の経過報告

(2) 進行中のテーマについて

(3) その他

10年委員会

第6回10年委員会

11月1日(木) 18:30~20:00

出席者 設楽委員長ほか4名

議 事 (1) 「新えとこ」提案コンクールについて

(2) 学生のための見学会について

特別委員会

第3回 史料研究会

11月29日(木) 17:30~19:00

出席者 山形委員長ほか3名

議 事 (1) 今後の連載企画内容検討

編集委員会(平成24年度)

■副会長

設楽 貞樹

本多 友常

■編集担当理事

浅野真一郎

佐藤 榮一

竹中 統一

立成 良三

松村 孝治

三柴 利雄

吉村 英祐

◎米井 寛

■副委員長

勝山 太郎

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

高橋 和也

田中 直人

不動 剛志

紅谷 昇平

松田奈緒子

三宅 次郎

△守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

荒木 宏之

大西 広朗

清原 健史

静 茂夫

下坂 浩和

野田 隆史

福田 容明

矢嶋 陽平

△米山 剛史

★インテリア・住宅

川合 隆之

小西 貴宏

黒柳 亮

酒井 雅男

谷垣 浩一

塚口眞佐子

ペリー史子

△間瀬 一博

■構造分科会

秋田 智

石田 大三

岸本 光平

小芝 淳一

志摩 好宣

瀧野 敦夫

角田 耕一

△橋本 宗明

松村 健

向井 洋一

◎委員長 ○副委員長 △幹事

(順不同)

■設備分科会

△赤澤 正治

岩城 憲治

梶井 宏修

北野 勝也

樺田 輝生

谷野 太志

夏井 重行

野崎 正二

橋本 直樹

福谷 周

桝井 貴廣

宮崎ひろ志

村上幸三郎

■施工材料分科会

桜井 和男

△高橋 秀一

萩原 友貴

中野 敬史

藤丸 啓一

渡邊 聡

■法令分科会

岩見 吉剛

河野 学

小松 輝樹

越智 有子

吉岡 忠

△平山 英

吉田 純

鷲尾 真弓

■作品作風小委員会

居内 章夫

池上 明

○稲垣 和江

井上 雅祐

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉橋 尉仁

倉渕奈千子

澤田 純一

榎野 敦司

豊田 充広

鳥居 久人

西田 佳代

芳谷 晴彦

増田 敬彦

廻 はるよ

■広告企画小委員会

小川 雄介

小山 昭

権代 晃

永平 達也

○前田 衛

山辻 直樹

印刷 2012年12月26日
発行 2013年1月1日
発行人 社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 藤中島弘文堂印刷所
定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

(社)日本建築協会から ご入会のおさそい

建築に関連する各種の活動を行っている日本建築協会に、ご入会になりませんか！

会員は、建築関係の幅広い分野（設計事務所、ゼネコン、官公庁、教育・研究機関、メーカーなど）から個人や団体が参加し、活動しております。21世紀の建築界発展のために、またあなた自身が異業種の方々と交流され、社外ネットワーク形成に役立てていただくことも可能です。

※建築に興味をお持ちの方ならどなたでもご入会いただけます（資格は問いません）。

●会員の特典

- ★ユニークで新鮮な内容を誇る会誌「建築と社会」が毎月配付されます。
- ★話題の建築物、一般では未公開の施設等の見学会や建築関係の著名な講師の講演会・講習会に会員割引で優先的に参加できます。
- ★協会所蔵の貴重な図書・資料の閲覧等ができます。
- ★会誌「建築と社会」に建築作品、研究報告、レポート、ニュース等を投稿できます。
- ★青年技術者の顕彰に応募できます。
- ★協会の各種委員会活動に参画し、様々な情報交換・社外交流の場として利用できます。

●入会申し込み方法

当会ホームページ（<http://www.aaj.or.jp>）の入会申込み画面に記入送信するか、入会申込フォームをプリントアウトし、FAXまたは郵送にて、下記あてお送りください。

〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階
㈱日本建築協会
Eメールアドレス：sournu@aaj.or.jp
TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984

会員の種別と会費

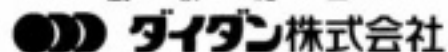
会員の種別		会 費
正 会 員	個人正会員 本部および支部地域	年額 14,400円
	個人正会員 上記以外の地域	年額 12,600円
	団体正会員	年額 25,000円/口
	学生会員	年額 8,400円

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計 施工



本社・大阪本社 〒550-0802 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6443-8231
東京本社 〒382-0871 東京都千代田区富士見2丁目35番16号 電話(03)3268-8238
支店 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・松本
営業所 那覇・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・徳島・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所 福岡・福岡・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店 シンガポール・ホノルル
技術研究所 〒334-0914 埼玉県入間郡三芳町大字北永井389番地 電話(0492)58-1511

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応するために

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761/FAX.06-6976-8765

東京事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1丁目9番地ニュー御茶ノ水ビル601号
TEL.03-3526-5580/FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: nacl@nacl.co.jp

本部長室 〒560-0036 大阪府豊中市里池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KASEI KAKEN KAISHA

高性能膨張材

デニカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材
(タスコン)
 - ・躯体防水材
(シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル
(RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社

〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所

〒561-0817 大阪府豊中市浜1丁目1番7号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1丁目14番6号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

時をつくる ところで創る

子どもたちが大人になっていくように、
街も健やかに育っていくと、
そこで暮らすみんなに幸せが広がります。

わたしたち大林組は、
親が子どもたちに愛情を注ぐように、
ところを込めて、建物や街をつくっています。

みんなの未来を、夢のある時間で満たすために。



www.obayashi.co.jp



OBUYASHI

大林組